

青森県立美術館

年報

平成18年度 平成19年度

ごあいさつ

青森県立美術館は、2006年7月13日、世界に誇る縄文文化、三内丸山遺跡の隣に誕生しました。私たちの美術館は、県民に親しまれ、愛される、県民のための美術館をめざしています。そして三内丸山遺跡と一体の文化観光拠点として、青森県の個性豊かな芸術文化を世界に向けて発信していくことをその使命と考えています。そのため、次の4つの柱を基本に美術館活動を進めております。

1「青森県の芸術風土を世界に向けて発信する」

青森県からは、個性豊かで、ユニークな芸術表現の領域を切り拓いた芸術家が多数生まれています。棟方志功をはじめ、文学・演劇・映画で独自の世界を開拓した寺山修司、ウルトラマンなど特撮美術の分野で高い支持を集めた成田亨、若い世代にアートを身近な感覚で捉えさせた奈良美智ら。単なる県出身作家という観点ではなく、青森県の作家が持つエネルギーでユニークな特性の意味を問い、探求する場として、美術館の常設展示等で紹介していきます。

2「優れた芸術を体感できる」

美術のみならず、演劇、音楽等様々な芸術活動に取り組み、県民に優れた芸術文化の鑑賞機会を提供していきます。

3「子どもの感性と創造力を育む」

青森県の未来を担う子どもたちのために、「こども美術館」という構想の下、学校と連携して鑑賞教育や創造教育を推進する<スクールプログラム>、子どもの感性や創造力を育む<こどもプログラム>を積極的に展開していきます。

4「県民とともに活動する」

県民参加型演劇をプレイベントで実施したように、県民参加によるイベントを今後も実施したり、県内の大学と連携した芸術文化の振興を担う人材を育成したり、また県内の若手アーティストの制作活動や発表の場を確保するなど、県民とともに活動していきます。

県民に愛され、親しまれるため、美術館は、コレクションづくりや、展覧会、アートプロジェクトなど、さまざまな活動において、常に県民の理解と協力のもとに共に美術館を作り上げていくのだという意識を徹底し、青森県ならではの美術館を実現したいと考えています。

今後とも、美術館の活動に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2009年3月

青森県立美術館

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 平成18年度 企画展
- 034 平成18年度 常設展
- 038 平成19年度 企画展
- 063 平成19年度 常設展

学芸

- 072 美術資料貸出状況
- 074 作品保存修復

教育普及

- 076 平成18年度 普及プログラム
- 080 平成18年度 スクールプログラム
- 083 平成19年度 普及プログラム
- 088 平成19年度 スクールプログラム
- 092 アートイン三内丸山遺跡プロジェクト
- 093 サポートスタッフ
- 094 メンバーシッププログラム

パフォーミングアーツ

- 096 平成18年度 演劇
- 097 平成18年度 ダンス
- 098 平成18年度 音楽
- 099 平成18年度 映画
- 101 平成18年度 その他
- 102 平成19年度 演劇
- 103 平成19年度 音楽
- 104 平成19年度 映画

サービス等

- 108 貸館
- 111 図書室
- 113 キッズルーム・フリーアトリエ
- 114 博物館実習
- 115 情報システム

資料

- 118 平成18年度 広報
- 120 平成19年度 広報
- 122 広聴
- 123 入館者数
- 124 運営予算・決算
- 125 組織
- 126 関係規程等
- 131 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

- 1990年 3 月 美術館の設置について検討を開始することを表明
- 1991年 1 月 美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パークの検討開始
- 1996年 2 月 総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定
総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
- 1999年度 美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
- 2000年度 建築基本設計
- 2001年度 建築実施設計
- 2002年度 美術館建築工事着工
- 2003年度 別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
- 2005年 9 月20日 美術館竣工
- 2006年 3 月17日 「運営諮問会議」設置（青木淳氏、奈良美智氏、逢坂恵理子氏 委員就任）
- 2006年 4 月 1 日 青森県立美術館開館準備室設置
- 2006年10月17日 「青森県立美術館条例」制定
- 2006年 6 月13日 開館プレス発表開催
- 2006年 7 月13日 開館（館長 三村 申吾）
- 2007年 7 月24日 博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第 11 号）
- 2007年 9 月13日 「県民のための美術館づくり懇話会」設置（塚原隆市氏、鷹山ひばり氏、手塚治氏、風晴史子氏、佐々木健氏、田中博氏、本多信雄氏 委員就任）
- 2007年11月10日 「美術館ユビキタスシステム」国内の美術館・博物館の中で初導入

総工費 113 億円

展覧会

平成 18 年度 企画展

シャガール展

縄文と現代展

工藤甲人展

平成 18 年度 常設展

青森コンプレックス第 1 期-第 3 期

平成 19 年度 企画展

旅順博物館展

舞台芸術の世界展

棟方志功・崔榮林展

平成 19 年度 常設展

第 1 期-第 4 期

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

青森県立美術館開館記念展 シャガール：『アレコ』とアメリカ亡命時代 Chagall — Exile in America and the Aleko —

開催概要

会期：2006年7月13日（木）－9月24日（日）
主催：シャガール展実行委員会（東奥日報社、日本放送協会青森放送局、青森県）、青森県立美術館

後援：外務省、文化庁、アメリカ大使館、フランス大使館、イスラエル大使館、日本ユダヤ教団、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、河北新報社青森総局、北海道新聞社、毎日新聞社青森支局、読売新聞社青森支局、朝日新聞社青森総局、共同通信社青森支局、時事通信社青森支局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、八戸テレビ放送、エフエム青森、コミュニティーラジオ局 BeFM、FM アップルウェーブ、エフエムむつ

助成：アサヒビール芸術文化財団

特別協賛：大和証券グループ

協賛：アステラス製薬、竹中工務店、西松建設、東北電力、東京電力、電源開発、日本原燃、三菱製紙八戸工場、きんでん、松下電器産業、コクヨ東北販売、高砂熱学工業、NEC、三菱電機東北支社、三菱電機ビルテクノサービス、損害保険ジャパン、NTTドコモ東北、奥村工務店、北斗建設、ヤマギワ、吉田産業、五十嵐電気商会、野呂電気、角弘グループ、青森三菱ふそう自動車販売、高田電気工事、青水工業、佐藤設備工業、芝管工、五戸組（順不同）

特別協力：日本航空、JR東日本、JR北海道、JRバス東北、ヤマトロジスティクス、北星交通

観覧料：

一般 1,500円(1,200円)、大学生・高校生 1,000円(800円)、中学生・小学生 500円(400円)

※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金

※ 常設展の観覧料は含まない

組織：

展覧会企画・制作：シャガール展実行委員会、青森県立美術館
学術顧問：ジャン＝ミシェル・フォレ、エリザベス・バク＝レム
コンサヴェーター：有限会社修復研究所 21、森絵画保存修復工房（森直義）、松岡秋子

衣装展示・修復コンサルタント：マーサ・ヘリオン

衣装展示監修：大野木啓人

衣装修復・着付：アトリエ後藤（後藤啓子・後藤令子）

衣装着付：植垣友美子

入場者数

192,918人

関連企画

講演会「シャガールの磔刑」

日時：2006年7月23日（日） 14:00－16:00

講師：ズィーヴァ・アミシャイ・マイセルズ（ヘブライ大学美術史教授）

会場：青森県立美術館内シアター

参加者数：200名

協力：大阪大学大学院文学研究科

県民募金

本展の中心作品であるバレエ「アレコ」の背景画について、フィラデルフィア美術館から借用する第三幕の展示の実現にあたっては、諸費用の一助として、県民から広く資金援助を募った〔個人一口1,000円 法人一口10,000円〕。募金者の氏名、会社名・団体名等については、東奥日報紙上に随時掲載された。

募金者

個人：500 合計¥912,042

団体・法人 37 合計¥793,000

合計¥1,705,042

ボランティア

会期中、作品をより多くの人々にわかりやすく伝えるために、ボランティアによる展示ガイドおよび作品解説を行なった。平成17年9月から平成18年6月にわたり、月一回行なわれた事前研修会を経て、平成18年7月から活動を開始。各展示室に分かれて、展示作品の簡単な案内と館内誘導を行なった。

①展示ガイドと1日に三回〔10:00－14:00－16:00－〕、40分程度のツアー形式で展覧会を解説した。

②解説ツアーの二種類の内容で展開した。ボランティアの登録者数は47名。会期中、常時約8～10名のボランティアが活動した。解説ツアーの情報を入手した上で、ツアー時間帯に合わせて来館する人々も多く、鑑賞の一助として絶大な効果をあげた。

カタログ

仕様：28.5×21.5cm、304頁、ハードカバー

編集：池田亨、高橋しげみ（青森県立美術館）

執筆：ジャン・ミシェル＝フォレ、ベラ・マイヤー、ベンヤミン・ハルシャフ、黒岩恭介、高橋しげみ、池田亨、橋本まゆ

翻訳：黒岩恭介、高橋しげみ、後藤鈴子、南平妙子、尾中高志

アートディレクション&デザイン：菊地敦己（Bluemark）

発行：シャガール展実行委員会

内容：

- ・ジャン・ミシェル＝フォレ
「シャガールのアメリカ時代」
 - ・ベンヤミン・ハルシャフ
「《抵抗》、《復活》、《解放》－シャガールのアメリカ時代の傑作」
 - ・ベラ・マイヤー
「シャガールとバレエ」
 - ・黒岩恭介
「バレエ『アレコ』の背景画について －アメリカ美術との連関－」
 - ・高橋しげみ
「シャガールの『トランスー』 －アメリカ時代の作品にみる亡命者の表象」
 - ・図版
- 第1章 戦争
- 第2章 『アレコ』
- 第3章 ベラ / ヴァージニア
- 第4章 「魂の中の国」
- ・アメリカ時代詳細年譜
 - ・略年譜
 - ・主要参考文献
 - ・出品作品リスト



ポスター



展示風景

青森県立美術館は20世紀を代表する画家マルク・シャガール(1887 - 1985)が、アメリカに亡命していた時代に制作したバレエ「アレコ」の背景画、全4点の内、3点を収蔵している。本展では、この作品について、フィラデルフィア美術館が収蔵する残りの1点を借用し、初の全四点揃えての展示を実現しながら、ダンサーの衣装[34点]や舞台美術デザイン画[67点]、バレエの上演映像などによって、シャガールの舞台美術の傑作であるバレエ「アレコ」の当時の様子を立体的に浮かびあがらせた。また、ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害や最愛の妻の死など、同時期のさまざまな体験を背景に生み出された数々の力強い秀作を、国内外から集めて展示し、アメリカ亡命時代のシャガールに光をあてた。

シャガールは、日本でもっとも人気の高い画家の一人で、毎年のように各地で展覧会が開催されているが、海外を視野に入れても、アメリカへの約七年間の亡命時代が主題として扱われ

ることは、これまでなかった。この時代の代表作であるバレエ「アレコ」の舞台美術を核とし、日本初公開の作品も多数含みながら構成された展示、新知見がふんだんに盛り込まれたカタログ、そしてシャガールに関して先鋭な論考を発表し続けてきたヘブライ大学美術史教授を招聘した講演会の内容によって、等閑に付されてきたアメリカ亡命時代は、亡命者として生き続けたこの画家の芸術の真価が十分に発揮された、もっとも充実した活動時期の一つであることを示すことができた。

また、ボランティアによる解説ツアーが好評を博し、多数の観客の動員につながり、県民募金では500名、37団体から援助を得るなど、県民の直接参加による展覧会運営が成功した。

出品作品

1 《殉職者》 1940 グアッシュ、パステル・紙 53.0×37.3 個人蔵	10 《柱時計と自画像》 1947 油彩・キャンヴァス 86.0×70.8 個人蔵	16-4 バレエ『アレコ』舞台背景画第4幕 《サンクトペテルブルクの幻想》 1942 テンペラ・綿布 891.5×1472.5 青森県立美術館	26 《メキシコの磔刑》 1945 グアッシュ、パステル・紙 57.0×52.4 個人蔵
2 《十字架の担う者》 1941 墨・紙 33.2×39.4 個人蔵	11 《河辺の復活》 1947 油彩・キャンヴァス 98.0×73.0 個人蔵	17 『アレコ』下絵（67点） 1942 ニューヨーク近代美術館	27 《田園風景》 1944 グアッシュ・紙 45.0×48.5 個人蔵
3 《オブセッション》 1941 グアッシュ・紙 37.1×53.2 個人蔵	12 《そりの聖母》 1947 油彩・キャンヴァス 97.0×79.5 アムステルダム市立美術館	18 バレエ『アレコ』の衣装（34点） 1942 個人蔵	28 《月あかり》 1944 グアッシュ、パステル・紙 79.0×57.0 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館
4 《十字架に架けられた人々》 1944 グアッシュ・紙 62.2×47.3 イスラエル美術館	13 《抵抗》 1937-48 油彩・麻布 168.0×103.0 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館	19 《ヴァイオリンを弾く道化》 1941-42 水彩、パステル、鉛筆・紙 61.91×49.0 個人蔵	29 《緑の目》 1944 油彩・キャンヴァス 58.0×51.0 個人蔵
5 《天使の墜落》 1923-33-47 油彩・キャンヴァス 148.0×189.0 個人蔵	14 《復活》 1937-48 油彩・麻布 168.3×107.7 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館	20 《軽業師》 1943 油彩・キャンヴァス 110.5×79.0 個人蔵（サザビーズ協力）	30 《結婚》 1944 油彩・キャンヴァス 99.7×74.0 個人蔵
6 《天使の墜落》のための下絵 1934 油彩、墨、鉛筆・紙 49.5×63.0 個人蔵	15 《解放》 1937-52 油彩・麻布 168.0×88.0 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館	21 《赤い馬（祭り）》 1942 グアッシュ・紙 37.9×50.1 ノートン美術館	31 《夢》 1939-44 油彩・キャンヴァス 78.7×78.1 吉野石膏株式会社（山形美術館に寄託）
7 《天使の墜落》 1934 油彩・合板 37.5×48.5 個人蔵	16-1 バレエ『アレコ』舞台背景画第1幕 《月光のアレコとゼンフィラ》 1942 テンペラ・綿布 887.8×1475.5 青森県立美術館	22 《雄鶏を聞きながら》 1942 グアッシュ・紙 49.0×35.0 個人蔵	32 《彼女をめぐって》 1945 油彩・キャンヴァス 131.0×109.5 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館
8 《天使の墜落》 1934 淡彩墨絵、墨、水彩・紙 24.5×39.1 個人蔵	16-2 バレエ『アレコ』舞台背景画第2幕 《カーニヴァル》 1942 テンペラ・綿布 883.5×1452 青森県立美術館	23 《時の流れ》 1942 グアッシュ・紙 53.5×37.0 個人蔵	33 《町の魂》 1945 油彩・キャンヴァス 107.0×82.0 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館
9 《天使の墜落》のための習作 1934 淡彩墨絵、墨・紙 24.5×28.6 個人蔵	16-3 バレエ『アレコ』舞台背景画第3幕 《ある夏の午後の麦畑》 1942 テンペラ・綿布 914.4×1524 フィラデルフィア美術館	24 《花咲ける羽毛》 1943 グアッシュ、パステル・紙 79.0×55.5 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館	34 《青い鳥》 1945 油彩・キャンヴァス 79.0×52.0 松岡美術館
		25 《花束を持つ少女》 1943 グアッシュ、パステル・紙 46.0×49.0 山形美術館寄託	35 『火の鳥』下絵（28点） 1945 個人蔵

36 《裸の雲》 1945-46 油彩・キャンヴァス 66.0×87.0 個人蔵	46 《天蓋の花嫁》 1949 油彩・キャンヴァス 115.0×94.0 AOKI ホールディングス	56 《出エジプト》 1952-66 油彩・麻布 130.0×162.3 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館
37 《花嫁の花束》 1934-46 油彩・キャンヴァス 81.5×65.5 高知県立美術館	47 《サモワール》 1942 水彩、グアッシュ・紙 45.0×36.0 ジェイソン・フォックス	
38 《記念日の花》 1947 油彩・キャンヴァス 110.2×97.2 ノートン美術館	48 《夜に》 1943 油彩・キャンヴァス 47.0×52.5 フィラデルフィア美術館	
39 《黒い手袋》 1923-48 油彩・キャンヴァス 111.0×81.5 個人蔵	49 《ボンジュール、パリ》 1942 油彩、パステル・厚紙 62.0×46.0 個人蔵	
40 『アラビアン・ナイト』からの四つの物語（13点） 1946-48 リトグラフ・紙 高知県立美術館	50 《そり》 1943 グアッシュ・紙 51.0×76.0 個人蔵	
41 《恋人たち》 1948 グアッシュ・紙 50.0×39.0 個人蔵（鹿児島市立美術館寄託作品）	51 《たそがれ》 1938-43 油彩・キャンヴァス 100.0×73.0 個人蔵	
42 《オルジュヴァルの夜》 1949 油彩・キャンヴァス 106.0×64.8 高知県立美術館	52 《雪の中のそり》 1944 油彩・キャンヴァス 44.0×53.0 個人蔵	
43 《赤い太陽》 1949 油彩・キャンヴァス 139.5×98.0 川村記念美術館	53 《ヴィテブスクの冬の夜》 1947 油彩・キャンヴァス 45.0×59.2 財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館	
44 《ボンボヤージュ》 1949 墨、墨彩、パステル・紙 26.5×20.0 ダヴィッド・マクニール	54 《空飛ぶアトラージュ》 1945 油彩・キャンヴァス 105.3×72.9 福岡市美術館	
45 《ハイ・フォールズ》 1949-50 油彩・キャンヴァス 67.0×55.0 ダヴィッド・マクニール	55 《家族の面影》 1935-47 油彩・麻布 123.3×112.2 ボンビドゥーセンター・国立近代美術館	

掲載記事

朝日新聞

18年11月25日(土)
アレコ第3幕年明けも展示

18年6月14日(水)
県立美術館開館まで1ヶ月目標収支どう確保？

18年6月15日(木)
私と県立美術館①三上雅通さん「アレコ」が顔 すごい

18年6月6日(火)
バレエ「アレコ」の背景画 シャガール作品
展示作業始まる 7月に開館の県立美術館

18年7月13日(木)
シャガール遺族3人4枚の「アレコ」鑑賞
県立美術館きょう開館

18年7月14日(金)
祝開館「アレコ」に感動 県立美術館に一般
客600人

18年7月21日(金)
シャガール展入場1万人到達 県立美術館
の開館8日目

18年7月7日(金)
シャガールの「アレコ」4枚すべて同時公開
県立美術館で内覧会

18年8月30日(水)
「シャガール展」入場10万人突破 県立美術館

18年12月16日(土)
現代舞踊「アレコ」、延期 振付師と交渉決
裂「4幕公演」を断念

18年7月27日(木)
県ゆかりの作家アート他サイン 県立美術館
の常設展

19年1月9日(火)
シャガールの「アレコ」第3幕の絵にお別れ式

河北新報

18年11月28日(火)
シャガールの展示1月8日まで延長

18年6月14日(水)
「世界中から来館を」青森県立美術館三村知
事ら東京でPR

18年6月7日(水)
シャガール「アレコ」全4幕 大作そ〜っ
と展示 来月13日開幕開館記念展で公開

18年7月14日(金)
青森県立美術館が開館 郷土ゆかりの作品
3000点

18年7月25日(火)
フォト2006 あおもり 青森県立美術館
遺跡彩る芸術心耕す

18年11月28日(火)
「虎縄文」抱えバチり 青森県立美術館企画
展で記念撮影会 シャガールの展示1月8
日まで延長

18年12月21日(木)
シャガールの背景画を活用 バレエ「アレコ」
舞踊劇に 来年3月青森県立美術館で上演
県民ダンサーも募集

19年1月9日(火)
みちのく

新美術新聞

18年8月1・11日合併号
7.13青森県立美術館開館 三内丸山遺跡に
隣接、ダイナミックな建築 オープン記念は
シャガール展

デーリー東北

18年7月14日(金)
「アレコ」存分に 青森県立美術館開館

18年7月13日(木)
青森県立美術館きょう開館 「アレコ」ペー
ル脱ぐ

18年7月13日(木)
アートの森 宝石の数々 アレコ全4幕公
開 たたむ巨大犬 寺山という虚構 知ら
れざる志功 シンプルかつ緻密

18年1月26日(木)
シャガール展ポスター決定 青森県立美術館
菊地氏デザイン

18年4月7日(金)
12日から募金活動青森県立美術館シャガ
ール展実行委 「アレコ」延長展示費用に

18年6月14日(水)
県立美術館の魅力PR 開館控え東京でプレ
ス発表会 三村知事ら案内役に

18年6月6日(火)
「アレコ」全4幕展示作業始まる

18年7月16日(日)
「アレコ」人気客足好調 青森県立美術館初
の週末、1200人超

18年7月1日(土)
7月前半のこよみ

18年7月7日(金)
県立美術館シャガールの世界満喫 開館に先
立ち内覧会

18年8月13日(日)
青森県立美術館開館から1ヶ月 来館好調5
万8000人 ソフト面での改善課題

19年1月10日(水)
アレコ第3幕撤去、返却へ

19年1月9日(火)
アレコ第3幕お別れ 展示終了、米に返却へ

19年1月10日(水)
アレコ第3幕撤去、返却へ

日経新聞

18年6月14日(水)
青森文化世界に披露 県立美術館来月開館
三村知事「芸術の融合目指す」

18年7月13日(木)
青森県立美術館 きょう開館

東奥日報

18年6月3日(土)
アレコ、県立美術館へ 開館まで40日 全
4幕を搬入

18年7月12日(水)
シャガール展あす開幕 県立美術館開館記念

18年7月13日(木)
県立美術館シャガール展 心の中の故郷感じ
て 息子ら会见、開幕に期待 シャガール展
解説員 サポートスタッフ お待ちしていま
す

18年7月14日(金)
シャガール遺族がリンゴ工芸品見学

18年7月22日(土)
大きな石やナブキンの上…いつも何か描いて
いた 父シャガールを語る デイビッド・マ
クニールさん

18年7月24日(月)
「ナチスの恐怖表現」シャガール研究者が講
演 県立美術館

18年7月6日(木)
県立美術館開館まで1週間 準備着々胸わ
くわく

18年8月19日(土)
児童・生徒無料券 期限あと9日 シャガ
ール展 県立美術館「ぜひ利用を」

18年8月6日(日)
夏祭り効果入館者どっと 県立美術館1日
で最多3689人

18年8月9日(水)
シャガールの世界5 県立美術館開館記念展
から 天蓋の花嫁 抱き締める2つの顔
池田亨 解説ボランティア長崎恵理子さん
(五〇) =青森市

18年9月25日(月)
シャガール展閉幕 解説ボランティア活動終
了 万感胸に「触れ合い楽しかった」「あっ
という間」
館内迷わない工夫を 県立美術館東京で諮問
会議

18年9月27日(水)
感動を覚えたシャガール展

18年9月4日(月)
シャガール展を見て①「ユダヤ人の思いを
表現 いずれ世界中から訪問」福井次郎さ
ん(大鯉)

18年1月25日(水)
シャガール展のポスター図案決定

18年1月29日(日)
「アレコ」衣装どう展示/県立美術館シャガ
ール展/京都造形芸術大教授・大野木さんら
検討

18年2月24日(金)
シャガール展の予告チラシ完成

18年4月6日(木)
シャガール展5月13日前売り開始

18年5月12日(金)
「シャガール展」出品数は196点

18年5月13日(土)
展示費用支援へ募金を受付け/実行委

18年8月16日(水)
名作鑑賞を身近に NHK「新日曜美術館」
30周年 各地の施設にも刺激

18年9月5日(火)
シャガール展を見て② 24日まで県立美術
館 張山田鶴子さん(青森)「悲痛な体験を
塗り込め新しい希望描いている」

18年9月9日(土)
シャガール展を見て⑤ 24日まで県立美術
館 三津きみさん(青森)「絵で奏でた弦楽
の詩創作への思い新たに」

シャガール展を見て④ 24日まで県立美術
館 茅原登喜子さん(弘前)「形や線の痕跡
残る画面眺めるほど印象変わる」

18年7月18日(火)
「すごい迫力」「また来たい」県立美術館3
連休”大入り”6千人

18年7月20日(木)
シャガール展8日目 入場者1万人突破

18年8月10日(木)
シャガールの世界6 県立美術館開館記念展
から 出エジプト 自信の人生群衆に投影
高橋しげみ 解説ボランティア太田邦子さん
(三四) =青森市

18年8月10日(木)
シャガールの世界1 県立美術館開館記念展
から 天使の墜落 ユダヤの悲劇映し出す
高橋しげみ 解説ボランティア笹森眞紀子さ
ん(六四) =青森市

18年8月11日(金)
シャガール展5万人突破 県立美術館

18年8月30日(水)
独特の青心引きつけ 県立美術館シャガール
展を見て

17年9月28日(水)
ボランティアが来夏に備え犬種 県立美術館
シャガール展

18年10月2日(月)
県立美術館・シャガール展を終えて 来場者
19万人「大成功」も…関心の維持今後の鍵
に

18年10月7日(土)
シャガール展募金176万円に

18年11月25日(土)
展示延長中の「アレコ」第3幕1月8日で
見納め 年末からイベント

18年12月10日(日)
13日に「アート入門」県立美術館

18年12月14日(木)
「アレコ」第3幕もチーフに解釈 県立美術
館でアート入門開催

18年12月16日(土)
舞踊劇「アレコ」来年3月に上演 県立美術
館県民ダンサー公募

18年12月26日(火)
感動と躍動 読者が選ぶ2006県内10大ニ
ュース 1県立美術館が開館

18年12月30日(土)
アレコニューイヤー1-8日にイベント県立
美術館

18年5月10日(水)
シャガール「魂の中の国」へ1 力強さ圧倒
的な存在感 アレコ

18年5月11日(木)
シャガール「魂の中の国」へ2 ナチスに故
郷奪われる ユダヤ人として

18年5月12日(金)
シャガール「魂の中の国」へ3 望郷の思い
創作に反映 舞台美術

18年5月13日(土)
シャガール「魂の中の国」へ4 巨匠ピカソ
も一目置く 色彩感覚

18年5月15日(月)
シャガール「魂の中の国」へ5 画面飾った
花束、天使 愛に支えられて

18年5月16日(火)
シャガール「魂の中の国」へ6 演劇的な鑑
賞空間に 美術館への期待

18年5月5日(金)
寄稿 「アレコ」の衣装とシャガール 手ず
から色彩喜び表現 孫娘マイヤーさんを訪ね
て 高橋しげみ

18年5月8日(月)
県立美術館開館記念展7月13日-9月24
日 シャガール「アレコ」とアメリカ亡命時
代 13日から前売り券発売

18年6月10日(土)
「この感動を大切に」解説ボランティアアレ
コ4幕と対面

18年6月13日(火)
シャガール展待ち遠しい 県立美術館開館迄
1ヶ月ポスター張り出し

18年6月14日(水)
アレコ4点展示世界初 県立美術館魅力PR
都内でプレス発表

18年6月29日(木)
シャガール展県民募金岡田書店(青森)が寄
付

18年6月7日(水)
アレコ第3幕国内初公開 米・フィラデル
フィア美術館から借用 燃え立つ太陽鮮烈

18年6月8日(木)
シャガールの世界「アレコ」全4幕を展示

18年7月13日(木)
アレコの大きさこの目で 県立美術館オーブ
ン 来場者「常設展も期待」

18年7月13日(木)
ようこそ美の拠点へ 県立美術館オープン
アレコ全4幕一堂に

18年7月14日(金)
個性豊かな芸術体験

18年7月14日(金)
個性豊かな芸術体感県立美術館

18年7月14日(金)
生の迫力「素晴らしい」県立美術館オーブ
ン 複雑な構造に戸惑いも

18年7月15日(土)
驚き、感動いっぱい 県立美術館初の学校団
体ツアー アレコに「すごい」連発

18年7月19日(水)
「シャガールの心」舞踏に 春日井バレエリ
サイタル

18年7月5日(水)
夏休みシャガール展で思い出を 県内全児
童・生徒17万人に無料券 実行委

18年7月7日(金)
私たちの県立美術館5 - 13日開館 シャ
ガール展解説員①山谷清逸さん 何度見ても
新しい発見

18年7月7日(金)
シャガール展ひと足早く「アレコ」の美に
感嘆 協賛企業内覧会が始まる ボランティ
アが始動

18年7月8日(土)
私たちの県立美術館6 - 13日開館 シャ
ガール展解説員②藤原幸子さん 自分の言葉
で伝えたい

18年7月9日(日)
本県観光に新たな魅力 県立美術館ツアー企
画続々 旅行会社熱い視線

18年8月16日(水)
シャガール展県民募金寄付した方々

18年8月28日(月)
入場10万人突破 県立美術館シャガール展

18年8月3日(木)
寄稿 悲しみ秘めた「愛の画家」[魂の中の国]
思い描く 県立美術館開館記念・シャガール
展 有木宏二(宇都宮美術館学芸員)

18年8月4日(金)
青森ライオンズクラブシャガール募金に寄付

18年8月5日(土)
シャガールの世界2 県立美術館開館記念展
から 「抵抗」「復活」「解放」 迫害の歴史3
部作に 高橋しげみ 解説ボランティア中
博さん(六七) =青森市

18年8月7日(月)
シャガールの世界3 県立美術館開館記念展
から 「アレコ」衣装 手描きの線生き生き
と 池田亨 解説ボランティア滝口小百合さ
ん(四四) =青森市

18年8月8日(火)
シャガールの世界4 県立美術館開館記念展
から 彼女をめぐって 深い悲しみ秘めた青
池田亨 解説ボランティア風晴史子さん
(六一) =青森市

18年9月10日(日)
「アレコ」に目輝かせ 県立美術館で探検ツ
アー

18年9月12日(火)
神秘的色彩来場者感嘆 閉幕まであと10日

18年9月14日(木)
シャガール展県民募金寄付した方々

18年9月15日(金)
入場者15万人突破 シャガール展

18年9月24日(日)
見応え「予想以上」シャガール展あす閉幕

18年9月24日(日)
名画見納め シャガール展きょう閉幕

18年9月25日(月)
アレコの感動忘れない シャガール展閉幕
19万人が鑑賞

18年9月2日(土)
シャガール展県民募金寄付した方々

18年8月2日(水)
シャガール展県民募金寄付した方々

19年1月3日(水)
アレコの魅力肉声で 県立美術館解説ボラン
ティア再開

19年1月9日(火)
傷まないよう慎重に 県立美術館アレコ第3
幕撤去

19年1月9日(火)
アレコ第3幕また会おうね 県立美術館展
示を終了

19年1月7日(日)
県立美術館アレコ第3幕展示あすまで 別
れ惜しみ朗読劇 弘前劇場原作の「悲恋」表
現

毎日新聞

18年4月12日(水)
開館記念展は「シャガール」

18年7月11日(火)
シャガール 魅惑の舞台 13日オープン県
立美術館で

18年8月28日(月)
県立シャガール展 1ヶ月半で10万人突破
人気

18年6月7日(水)
来月開館の県立美術館シャガールの展示作業
進む

18年7月13日(木)
シャガール作品「この地になじむ」 きょう
オープン遺族が来県

18年7月14日(金)
美の殿堂ついに開館 県立美術館初日から盛
況「アレコ」に感嘆
野宮珠里が推す県美の魅力① シャガールの
[4幕] 世界初勢ぞろい

18年7月15日(土)
野宮珠里が推す県美の魅力② 赤い街 悲劇
の象徴

18年9月27日(水)
「シャガール展」19万人集め閉幕

18年9月28日(木)
素晴らしかった「アレコ展」 ボーラ美術
館学芸員奥村まき 青森文化のシンボルに期
待

18年7月16日(日)
野宮珠里が推す県美の魅力③ 苦肉の策?手描き衣装

18年7月17日(月)
野宮珠里が推す県美の魅力④ 民俗迫害からの「解放」

18年7月19日(水)
野宮珠里が推す県美の魅力⑤ 2人のミューズ

19年1月9日(火)
県立美術館・シャガールの「アレコ」第3幕にお別れ

18年7月8日(土)
13日から「シャガール」展「アレコ」など180点展示 県立美術館開館記念

18年8月12日(土)
シャガール展5万人を達成 姉妹で来場町屋さん(青森)に幸運

19年1月4日(木)
県立美術館解説ボランティア復活 8日までアレコ第三幕返却控え

19年1月9日(火)
「アレコ」第3幕とお別れ 県立美術館関係者らセレモニー

陸奥新報

18年12月22日(金)
'06ニュース回顧 県立美術館「アレコ」目玉に開館

18年4月7日(金)
県立美術館記念展企画内容が固まる シャガール展アレコ3幕展示延長 縄文と現代展戦後の作品は約100点

18年6月8日(木)
アレコ全作展示が完了

18年7月13日(木)
新たな文化の拠点へ 県立美術館オープン

18年7月14日(金)
巨匠作品の迫力に圧倒 県立美術館オープン待ちかねたファン列

18年7月25日(火)
アレコに味わう至福感 県立美術館シャガール展を見て松山幹子

18年7月7日(金)
圧巻アレコ4作品 13日開館の県立美術館シャガール展内覧会

18年8月28日(月)
県立美術館「シャガール展」来場10万人突破 予想より早く達成中村さん(弘前)に記念品

18年9月25日(月)
目標上回る19万人来場 県立美術館シャガール展が閉幕

18年1月26日(木)
県立美術館シャガール展 出品の180点が確定

18年6月14日(水)
芸術風土を世界に発信 都内で知事ら県立美術館の記者発表会 設計、展示の魅力PR

18年6月6日(火)
アレコの補強と展示作業を開始

18年7月13日(木)
「4枚のアレコが呼応」県立美術館できょうからシャガール展 孫娘ら遺族会見し感想環境絶賛、期待寄せ

読売新聞

18年11月25日(土)
シャガールの舞台背景画1月8日まで公開延長

18年5月25日(木)
7月開館の県立美術館 ボランティアスタッフ募集

18年6月7日(水)
「アレコ」設置作業

18年8月16日(水)
県立美術館にぎわう 12～15日で1万6千人

19年12月2日(土)
あおもり2006 県立美術館・必修逃れ

18年12月21日(木)
2006県内10大ニュース ②県立美術館オープン

18年6月4日(日)
シャガールのバレエ背景画県立美術館に到着

18年7月14日(金)
県立美術館がオープン

18年7月21日(金)
入場者1万人を突破 県立美術館

18年7月27日(木)
青森県立美術館重量級の存在感 変幻する展示空間「三内丸山」発掘現場から着想

19年1月9日(火)
「アレコ」3幕にお別れ

18年12月30日(土)
四季 青森県立美術館で

18年6月15日(木)
青森県立美術館第1弾はシャガール

18年9月16日(土)
県立美術館開館記念展15万人突破

縄文と現代 - 2つの時代をつなぐ〈かたち〉と〈こころ〉 Art and Object : Affinity of the Jomon and the Contemporary

開催概要

会期：2006年10月7日（土）－12月10日（日）
主催：縄文と現代展実行委員会（東奥日報社、日本放送協会青森放送局、青森県）、青森県立美術館
特別協賛：みちのく銀行
協賛：日興コーディアル証券、青森総合警備保障、ビジュアル・ファースト
協力：JR東日本、JR北海道、JAL青森支店、JRバス東北
観覧料：
一般 1,500円(1,200円)、大学生・高校生 1,100円(1,000円)、
中学生・小学生 500円(400円)
※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金
※ 常設展の観覧料を含む

入場者数

14,894人

関連企画

ワークショップ「D1 グランプリ in 青森県立美術館」
日時：10月8日（日）、9日（月）
会場：エントランスギャラリー
講師：馬場哲晃（出品作家）

パフォーマンス「トラヤン・ファイヤー」

日時：10月21日（土）
会場：ワークショップAおよび展示室
講師：ヤノベケンジ（出品作家）、サウンドユニット＜AWAYA＞

ワークショップ「顔Tシャツを作ろう」

日時：12月2日（土）－3日（日）
会場：ワークショップ
講師：乗田菜々美（実行委員会スタッフ）

パフォーマンス「舟送り」

日時：2006年12月10日（日）
場所：青森県立美術館展示室、エントランス前広場
講師：内藤礼（出品作家）

ギャラリートーク

日時：会期中の毎週日曜
講師：工藤健志、板倉容子（当館学芸員）

カタログ

仕様：24.1×18.1cm、128頁（うちカラー80頁）
編集：工藤健志（青森県立美術館）
編集補助：板倉容子、富野華奈、乗田菜々美（青森県立美術館）
アートディレクション&デザイン：菊地敦己（Bluemark）
発行：株式会社オークコーポレーション
制作：縄文と現代展実行委員会
内容：
・ごあいさつ
・工藤健志
「〈いま〉と〈いにしえ〉をつなぐ愛」
・図版
縄文へ / 縄文から
2つの時代の共鳴
祭儀 / 呪術的なもの
ファルス、あるいは未来を切り拓く力
インスタレーション等
・作家略歴
・出品リスト

同時開催展

「青森ノ顔 縄文ノ顔」
写真家荒木経之による青森にゆかりのある人々のポートレート展。
会場：コミュニティギャラリー
モデル応募者数：1,086組 2,093名
撮影参加者数：375組 687名
ポートレート展示枚数：389枚



ポスター



展示風景 撮影：山本紉

三内丸山遺跡に隣接し、遺跡の発掘現場をイメージしたトレンチに上部から近代的な白い構造体が覆い被さるといったコンセプトのもとに設計された美術館は、まさに「縄文」と「現代」が融合した施設と言える。本展では、縄文と現代というテーマを設定し、青森と現代、そして縄文との関係性を多角的に検証することを大きな目的とした。縄文遺物の優品や美術作品を時代別、様式別に見せていく展示や、土器、土偶の文様をそのまま引用したいかにも「縄文的」な作品と遺物とを比較するという従来の手法を乗り越えつつ、2つの時代がもっと根源的なところでつながっていることを示す試みである。特に戦後の日本美術は多様な展開を見せており、その多彩な表現を俯瞰できる機会としても位置づけながら、縄文遺物との対比によって2つの時代の共通項を明らかにしていく・・・、そのためには個々の作品、遺物が持つ歴史的背景や文脈をあえて無視し、様式も年代もない交ぜにしてでも、いくつかのテーマに沿って2つの時代の「親和性」が感得できるような空間を作り込み、知識よりも感覚、理解よりも共感に訴えていくことを優先とした。もと

もと土床や土壁を持つ展示室そのものが発掘現場を想起させる質を持っていることから、そこに時間や人々の意識をつめこむことで、我々現代人の様々な欲望の投影が可能なる「ブラックホール」を創出するのも決して無意味なことではないように思える。むしろ、そのことが逆に、難解で分かりにくいと言われる現代美術の理念や存在意義を、より明確に伝えることもできるのではなからうか。

さらに本展では、ホワイトキューブと土壁の展示室が交互に配置され、なおかつ各室がゆるやかに連結されており、展示空間や廊下、ロビーといった機能が明確に分節されていない特徴を持った展示室の個性を活かして、様々な場所に「縄文」をテーマにしたインスタレーションも設置した。

もちろん「縄文」と「現代」という問題は、青森県立美術館にとって今後も継続して取り組まねばならない重要なテーマであり、まずは本展を総論と位置づけ、様々な観点からの検討を加えた上で、今後各論へと深く発展させていきたいと考えている。

出品作品

現代

1
岡本太郎
「縄文土器」
1956（昭和31）
ゼラチンシルバープリント
51.5×73.0
川崎市岡本太郎美術館

2
岡本太郎
「縄文土器」
1956（昭和31）
ゼラチンシルバープリント
73.0×51.5
川崎市岡本太郎美術館

3
岡本太郎
「縄文土器（富山県出土）」
1956（昭和31）
ゼラチンシルバープリント
73.0×51.5
川崎市岡本太郎美術館

4
岡本太郎
「土偶」
1956（昭和31）
ゼラチンシルバープリント
73.0×51.5
川崎市岡本太郎美術館

5
岡本太郎
「恐山」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
59.0×39.0
川崎市岡本太郎美術館

6
岡本太郎
「恐山」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
52.0×67.0
川崎市岡本太郎美術館

7
岡本太郎
「恐山」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
52.0×67.0
川崎市岡本太郎美術館

8
岡本太郎
「恐山：三逢の川の地蔵」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
67.0×52.0
川崎市岡本太郎美術館

9
岡本太郎
「恐山：巫女」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
67.0×52.0
川崎市岡本太郎美術館

10
岡本太郎
「川倉：地蔵群」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
59.0×39.0
川崎市岡本太郎美術館

11
岡本太郎
「八戸：オシラさま」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
40.0×32.0
川崎市岡本太郎美術館

12
岡本太郎
「孫内：淡島さま」
1962（昭和37）
ゼラチンシルバープリント
67.0×52.0
川崎市岡本太郎美術館

13
岡本太郎
「哄笑」
1972（昭和47）
油彩・キャンバス
144.5×113.0
川崎市岡本太郎美術館

14
岡本太郎
「誘う」
1982（昭和57）
油彩・キャンバス
162.0×130.0
川崎市岡本太郎美術館

15
村井正誠
「Yellow Sun」
1951（昭和26）
油彩・キャンバス
161.5×130.5
東京都現代美術館

16
タイガー立石
「MAD MOON」
1975（昭和50）
油彩・キャンバス
165.7×120.0
板橋区立美術館

17
阿部展也
「三人」
1956（昭和31）
油彩・キャンバス
145.8×112.5
青森県立美術館

18
鶴岡政男
「妖精の棲むボコの巣」
1963（昭和38）
油彩・キャンバス
91.0×116.8
宮城県美術館

19
工藤麻紀子
「もうすぐ衣替え」
2003（平成15）
油彩・キャンバス
181.9×227.3
高橋コレクション

20
高山良策
「くんぎんじょう」
1964（昭和39）
油彩・キャンバス
123.0×182.8
青森県立美術館

21
高山良策
「風夜」
1963（昭和38）
油彩・キャンバス

22
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/恐山」
1968（昭和43）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

23
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/恐山」
1968（昭和43）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

24
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/川倉」
1968（昭和43）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

25
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/川倉」
1968（昭和43）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

26
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/猿賀」
1968（昭和43）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

27
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/猿賀」
1968（昭和43）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

28
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/恐山」
1969（昭和44）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

29
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/恐山」
1969（昭和44）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

30
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/恐山」
1969（昭和44）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

31
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/久渡寺」
1969（昭和44）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

32
内藤正敏
「『婆バクハツ！』より/久渡寺」
1969（昭和44）
ゼラチンシルバープリント
33.0×45.0
宮城県美術館

33 内藤正敏 「[婆バクハツ!]より/久渡寺」 1969 (昭和 44) ゼラチンシルバークラフト 33.0×45.0 宮城県美術館	41 桂ユキ 「人が多すぎる」 1954 (昭和 29) 油彩・キャンバス 72.7×90.6 宮城県美術館	49 岡本太郎 「午後の日」 1967 (昭和 42) ブロンズ 33.5×31.5×30.0 川崎市岡本太郎美術館	58 岡本太郎 「赤のアイコン」 1961 (昭和 36) 油彩・キャンバス 194.0×140.3 川崎市岡本太郎美術館
34 内藤正敏 「[婆バクハツ!]より/久渡寺」 1969 (昭和 44) ゼラチンシルバークラフト 33.0×45.0 宮城県美術館	42 斎藤義重 「あぼんだらめ」 1948 (昭和 23) 油彩・キャンバス 60.5×72.7 青森県立美術館	50 皆川明 「triangle」 2002 (平成 14) ウール ミナベルホネン	59 今井俊満 「PRINTEMPS (HOMMAGE AV.)」 1963 (昭和 38) 油彩・キャンバス 193.9×130.3×2.0 青森県立美術館
35 内藤正敏 「[婆バクハツ!]より/高山稲荷」 1970 (昭和 45) ゼラチンシルバークラフト 33.0×45.0 宮城県美術館	43 横山裕一 「野獣とわたしたち」 2005～06 (平成 17～18年) アクリル・キャンバス 33.0×24.0 (42点) 36.0×26.0 (36点) 作家蔵	51 皆川明 「smile」 2005 (平成 17) 麻 ミナベルホネン	60 今井俊満 「ヒロシマ」 1997 (平成 9) 油彩・キャンバス 200.0×300.0 青森県立美術館
36 内藤正敏 「[婆バクハツ!]より/高山稲荷 1970」 1970 (昭和 45) ゼラチンシルバークラフト 33.0×45.0 宮城県美術館	44 寺田政明 「樹木」 1955 (昭和 30) 油彩・キャンバス 116.0×90.5 板橋区立美術館	52 瑛丸 「夜の空」 1957 (昭和 32) 年 油彩・キャンバス 64.6×90.5 青森県立美術館	61 山口長男 「作品」 1961・1963 (昭和 36・38) 油彩・板 182.0×182.0 青森県立美術館
37 鈴木理策 「OSOREZAN」 1995 (平成 6) タイプ C プリント 27.9×35.6 (52点) 川崎市市民ミュージアム	45 鶴岡政男 「喰う」 1954 (昭和 29) 油彩・キャンバス 129.8×96.0 横浜美術館	53 菊畑茂久馬 「ルーレット」 1964 (昭和 39) ミクストメディア 105.9×64.0×4.0 青森県立美術館	62 小野忠弘 「ホネイロの砂漠」 1979 (昭和 54) 年頃 ミクストメディア 91.0×182.0×4.0 青森県立美術館
38 菅井汲 「Chien, poisson, oiseau」 1953 (昭和 28) 油彩・キャンバス 81.0×60.0 東京都現代美術館	46 田澤茂 「樹海菩薩・亜」 1992 (平成 3) 油彩・キャンバス 194.1×130.6 横浜美術館	54 池田龍雄 「賑やかな街」 1956 (昭和 31) 油彩・キャンバス 145.5×112.1 青森県立美術館	63 小野忠弘 「ホネイロの砂漠」 1980 (昭和 55) 年 ミクストメディア 91.0×182.0×4.0 青森県立美術館
39 野見山暁治 「異邦人」 1973 (昭和 48) 油彩・キャンバス 72.7×53.0 練馬区立美術館	47 瑛丸 「踊り子」 1952 (昭和 27) ゼラチンシルバークラフト 56.0×45.5 埼玉県立近代美術館	55 田中敦子 「WORK 1963 A」 1963 (昭和 38) 合成樹脂エナメル塗料・キャンバス 294.0×200.0 宮城県美術館	64 小野忠弘 「作品」 1962 (昭和 37) ミクストメディア 148.0×95.0×9.0 青森県立美術館
40 阿部展也 「顔のうしろの顔」 1957 (昭和 32) 油彩・ボード 72.7×60.3 板橋区立美術館	48 瑛丸 「三人の乙女」 1952 (昭和 27) ゼラチンシルバークラフト 56.0×45.5 埼玉県立近代美術館	56 元永定正 「作品」 1962 (昭和 37) アクリル・キャンバス 229.0×181.2 宮城県美術館	65 小野忠弘 「ハロー光琳」 1986 (昭和 61) ミクストメディア 91.0×182.0 青森県立美術館
		57 白髪一雄 「天平星船火兒」 1960 (昭和 35) 油彩・キャンバス 180.0×275.0 青森県立美術館	

66 吉仲太造 「大いなる遺産 B」 1965 (昭和 40) ミクストメディア 182.0×246.0 青森県立美術館	74 間島領一 「まじまのからあげ」 1996 (平成 8) ミクストメディア 75.0×153.0×153.0 作家蔵	82 佳嶋 「爆発物処理：仕掛班」 2001 (平成 13) コンピュータグラフィックス・マット紙 42.0×15.0 作家蔵	90 佐藤勲 「WIDEAWAKE, YELLOW-DEEP GREEN-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵
67 李禹煥 「線より」 1973 (昭和 48) 岩彩・キャンバス 130.0×162.0 青森県立美術館	75 若林奮 「エヴェレスト・ホテル I」 1982/1991 (昭和 57/平成 3) 木、硫黄、鉄、アクリル 53.8×50.0×37.4 ケンジタキギャラリー	83 丸尾末廣 「アダムとイヴ・私の犯罪学」 1998 (平成 10) アクリル・ボード 36.0×25.8 作家蔵	91 佐藤勲 「WIDEAWAKE, GREEN-RED-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵
68 村上善男 「頻度 n」 1961 (昭和 36) ミクストメディア 92.5×92.3 青森県立美術館	76 戸谷成雄 「森化Ⅳ」 2003 (平成 15) 木、灰、鉛、アクリル 172.0×70.0×31.0 ケンジタキギャラリー	84 丸尾末廣 「毛皮のマリー」 1999 (平成 11) アクリル・ボード 39.8×29.6 作家蔵	92 佐藤勲 「WIDEAWAKE, GREEN-ORANGE RED-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵
69 難波田龍起 「黒と赤」 1959 (昭和 34) 油彩・キャンバス 91.3×116.5 宮城県美術館	77 西尾康之 「メリー A」 2003-2004 (平成 15-16) 陰刻鋳造・ファイバープラスター・モーター・鉄・アルミニウム、他 250.0×900.0×900.0 作家蔵	85 丸尾末廣 「少女椿」 2003 (平成 15) アクリル・ボード 39.8×29.6 作家蔵	93 佐藤勲 「WIDEAWAKE, RED-ORANGE YELLOW-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵
70 菅井汲 「鬼」 1958 (昭和 33) 油彩・キャンバス 146.0×114.0 東京都現代美術館	78 西尾康之 「タナトティス」 2004 (平成 16) 軽量紙粘土、油彩 26.5×66.6×11.7 (ケースサイズ) 高橋コレクション	86 佐伯俊男 「緋匡 虫アミ」 1971 (昭和 46) インク、墨・紙 55.0×39.5 作家蔵	94 佐藤勲 「WIDEAWAKE, RED-YELLOW-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵
71 菅木志雄 「異化形素」 2003 (平成 15) 木、石 40.0×29.5×7.0 作家蔵	79 吉岡康弘 「One・Two・Three・・・」 1975 (昭和 50) リトグラム・紙 30.2×25.1 (10点組) 青森県立美術館	87 佐伯俊男 「緋匡 ろくろ首」 1971 (昭和 46) インク、墨・紙 55.0×39.5 作家蔵	95 佐藤勲 「WIDEAWAKE, LIGHT BLUE-BLUE PUEPLE-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵
72 村岡三郎 「熔断 -3000mm×1380℃」 2003 (平成 15) 鉄 300×8.0×8.0 (2点組) ケンジタキギャラリー	80 佳嶋 「特攻：暗殺部隊」 2001 (平成 13) コンピュータグラフィックス・マット紙 42.0×15.0 作家蔵	88 佐藤勲 「WIDEAWAKE, WHITE 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵	
73 西尾康之 「ミンクス」 2004 (平成 16) 陰刻鋳造・ファイバープラスター・ウレタン・鉄道模型 75.0×125.0×586.0 作家蔵	81 佳嶋 「火薬攻撃処理部隊」 2001 (平成 13) コンピュータグラフィックス・マット紙 42.0×15.0 作家蔵	89 佐藤勲 「WIDEAWAKE, YELLOW-LIGHT GREEN-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA」 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵	

96 佐藤勲 [WIDEAWAKE, LIGHT BLUE-RED PEUPLE-SILVER 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA] 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・ MDF 49.0×70.0×d4.0 個人蔵	103 塩田千春 [Augapfel (眼球)] 2005 (平成 17) 医学用眼球モデル、糸、鉄棒 51.5×50.5×50.0 ケンジタキギャラリー	111 阿部合成 [ミイラ] 1966 (昭和 41) 油彩・合板 69.3×113.9 青森県立美術館 縄文遺物	119 荒川修作 [作品] 1960 (昭和 35) ミクストメディア 133.0×97.0×23.0 青森県立美術館
97 佐藤勲 [WIDEAWAKE, GREEN FOR WHITE, 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA] 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・ MDF 31.0×21.0×5.0 個人蔵	104 塩田千春 [静けさの中で (オブジェクト)] 2005 (平成 17) ピアノの鍵盤、糸、鉄棒、銅線 150.0×53.0×60.0 ケンジタキギャラリー	112 真島直子 [JIGOKURAKU 2000- II] 2000 (平成 12) 鉛筆・紙 157.2×265.0 作家蔵	120 吉江庄蔵 [声の詞] 1995 (平成 7) プラスチック・錆色塗装 80.0×50.0×68.0 作家蔵
98 佐藤勲 [WIDEAWAKE, RED FOR WHITE, 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA] 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・ MDF 31.0×21.0×5.0 個人蔵	105 川嶋秀明 [bye] 2005 (平成 17) アクリル・キャンバス 162.0×194.0 高橋コレクション	113 真島直子 [JIGOKURAKU 2000- III] 2000 (平成 12) 鉛筆・紙 157.2×278.0 作家蔵	121 吉野辰海 [MONO-KUI] 1963/1996 (昭和 38/ 平成 8) ミクストメディア 142.3×248.0×46.7 青森県立美術館
99 佐藤勲 [WIDEAWAKE, YELLOW FOR WHITE, 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA] 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・ MDF 31.0×21.0×5.0 個人蔵	106 小川信治 [WITHOUT YOU- La Source] 2001 (平成 13) 油彩・キャンバス 91.5×45.0 個人蔵	114 真島直子 [JIGOKURAKU 2000- II] 2000 (平成 12) ミクストメディア 100.0×95.0×95.0 作家蔵	122 小谷元彦 [エレクトロ (クララ)] 2004 (平成 16) FRP、アルミニウム鑄造、他 88.0×130.0×280.0 高橋コレクション
99 佐藤勲 [WIDEAWAKE, YELLOW FOR WHITE, 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA] 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・ MDF 31.0×21.0×5.0 個人蔵	107 中村宏 [観光独裁] 1965 (昭和 40) 油彩・キャンバス 130.3×162.1 青森県立美術館	115 真島直子 [JIGOKURAKU 2000- III] 2000 (平成 12) ミクストメディア 90.0×110.0×65.0 作家蔵	123 小谷元彦 [エレクトロ (幽霊蘭)] 2004 (平成 16) エポキシ透明樹脂 120.0×55.0×55.0 高橋コレクション
100 佐藤勲 [WIDEAWAKE, PURPLE FOR WHITE, 9-11, A NEW CAREER IN THE COLORED ARENA] 2000 (平成 12) プラスチックテープ、合成樹脂ペイント・ MDF 31.0×21.0×5.0 個人蔵	108 山下菊二 [祈祷師] 1956 (昭和 31) 油彩・キャンバス 182.0×23.0 板橋区立美術館	116 秋山祐徳太子 [ブリキの脳みそ] 2006 (平成 18) ブリキ・デジタルプリント ブリキ (23.0×17.0×10.0) デジタルプリ ント (59.3×42.2) 作家蔵	124 小谷元彦 [エレクトロ (バンビ)] 2004 (平成 16) バンビの剥製、アルミニウム鑄造、他 61.0×60.0×29.0 個人蔵
101 カンノサカン [無題 8003060] 2006 (平成 18) アクリル、ウレタン・キャンバス 91.0×91.0×5.5 作家蔵	109 芥川沙織 [女Ⅲ] 1955 (昭和 30) 染色・綿布 130.2×89.0 板橋区立美術館	117 村上善男 [針供養 A] 1963 (昭和 38) ミクストメディア 36.0×15.0×15.0 青森県立美術館	125 会田誠 [美しい旗 (戦争画 RETURNS)] 1995 (平成 7) ミクストメディア 169.0×338.0 高橋コレクション
102 カンノサカン [無題 9003060] 2006 (平成 18) アクリル、ウレタン・キャンバス 91.0×91.0×5.5 作家蔵	110 尾藤豊 [失われた土地 A] 1952 (昭和 27) 油彩・キャンバス 91.5×118.0 宮城県美術館	118 村上善男 [針供養 B] 1963 (昭和 38) ミクストメディア 34.0×15.0×15.0 青森県立美術館	126 工藤哲巳 [縄文の精子の生き残り] 1986 (昭和 61) ミクストメディア 51.0×40.0 青森県立美術館

127 山口晃 「水火焰式土器」 2006（平成 18） 鉛筆、墨、和紙・パネル 59.4×84.1 作家蔵	135 森万里子 「環状列石、忍路、北海道」 2004（平成 16） Piezzo dye print ed. 1/3 55.0×68.0 個人蔵	143 土井典 「貞操帯（雑誌「血と薔薇」小道具）」 1968（昭和 43） ミクストメディア 50.0×17.0×10.0 個人蔵	151 岡本光博 「FG # 325 「Japanese Minimal Painting 41-6」」 1999（平成 11） 一番縛り 直径 27.0 作家蔵
128 山口晃 「當 おばか合戦 おばか軍本陣圖」 2001（平成 13） 油彩、水彩・キャンバス 1185.0×76.0 高橋コレクション	136 森万里子 「三輪山」 2004（平成 16） piezzo dye print ed. 1/3 71.5×80.0 個人蔵	144 土井典 「模造男根（土方巽舞踏公演小道具）」 1970（昭和 45） ミクストメディア 22.7×8.2×6.2 土方巽舞踏研究所アスベスト館	152 岡本光博 「FG # 261 「Japanese Minimal Painting 41-4」」 1999（平成 11） シルクスクリーン、雷文布 直径 27.0 作家蔵
129 山口晃 「縄文式どきどき「弦をはる手の力強さに」」 2006（平成 18） 鉛筆、墨、水彩・紙 14.8×10.0 作家蔵	137 森万里子 「久高島インスタレーションⅠ」 2004（平成 16） piezzo dye print ed. 1/3 111.4×128.0 個人蔵	145 ヤノベケンジ 「ジャイアント・トラヤン」 2005（平成 17） アルミニウム、鉄、真鍮、FRP、発砲スチロール、ジェット・ヒーター、他 720.0×460.0×310.0 作家蔵	153 岡本光博 「FG # 258 「Japanese Minimal Painting 41」」 1999（平成 11） シルクスクリーン、ビニール 85.5×124.0 作家蔵
130 山口晃 「縄文式どきどき「紅をさす彼女に」」 2006（平成 18） 鉛筆、墨、水彩・紙 14.8×10.0 作家蔵	138 森万里子 「久高島インスタレーションⅡ」 2004（平成 16） piezzo dye print ed. 1/3 111.4×128.0 個人蔵	146 ヤノベケンジ 「小さな森の映画館」 ※ 協力：島脇秀樹 ※ 上映プログラム：「トラヤンの世界」10 分、 「トラヤン物語」2 分（協力：青木兼治） 2004（平成 16） ミクストメディア 47.0×72.0×62.0 作家蔵	154 岡本光博 「FG # 338 「Japanese Minimal Painting 44-5」」 2000（平成 12） 亀甲縛り 直径 120.0 作家蔵
131 森万里子 「環状列石、西崎山、北海道」 2004（平成 16） piezzo dye printed. 1/3 55.0×68.0 個人蔵	139 森万里子 「久高島インスタレーションⅢ」 2004（平成 16） piezzo dye print ed. 2/3 128.0×111.4 個人蔵	147 青木野枝 「空の水-VI」 2006（平成 18） コールドステン 720.0×1422.5×955.0 作家蔵	155 岡本光博 「w # 88 「虎縄文」」 2006（平成 18） トラロープ、トラフィギュア 50.0×220.0×70.0 作家蔵
132 森万里子 「丸石」 2004（平成 16） piezzo dye printed. 2/3 55.0×68.0 個人蔵	140 森万里子 「Tom Na H-iu model」 2006（平成 17） ルーサイト 82.6×21.6×10.2 作家蔵	148 岡本光博 「FG # 324 「Japanese Minimal Painting 44-4」」 1999（平成 11） 亀甲縛り 直径 27.0 作家蔵	156 岡本光博 「w # 89 「虎縄文敷物」」 2006（平成 18） トラロープ、トラフィギュア 17.0×157.0×85.0 作家蔵
133 森万里子 「環状列石、小牧野、青森」 2004（平成 16） piezzo dye printed. 1/3 55.0×68.0 個人蔵	141 草間彌生 「花」 1986（昭和 61） 詰物入り縫製布、木、彩色 107.0×70.0×70.0 作家蔵	149 岡本光博 「FG # 264 「Japanese Minimal Painting 44-2」」 1999（平成 11） シルクスクリーン、キャンバス 直径 27.0 作家蔵	157 内藤礼 「母型」 2006（平成 18） 布、糸 高 500× 直径 280 作家蔵
134 森万里子 「環状列石、大湯、秋田」 2004（平成 16） piezzo dye print ed. 2/3 55.0×68.0 個人蔵	142 草間彌生 「塔」 1998（平成 10） 詰物入り縫製布、合成繊維、彩色 350.0×150.0×150.0 作家蔵	150 岡本光博 「FG # 265 「Japanese Minimal Painting 44-3」」 1999（平成 11） 亀甲縛り 直径 27.0 作家蔵	158 福田里香 「青森の果実酒 2002」 2002（平成 14） ミクストメディア 高 65.0× 直径 30.0（4 点組） 作家蔵

159
福田里香
「青森の果実酒とシロップ2006」
2006（平成18）
ミクストメディア
高32.0×直径32.0（10点組）
作家蔵

160
コーネリアス
「SENSUOUS THINGS」
2006（平成18）
ミクストメディア
550.0×1020.0×690.0

161
小沢剛
「コロポックルは君に語りかける2006」
2006（平成18）
ミクストメディア
600.0～700.0×1890.0×270.0
作家蔵

162
村山留里子
「ガラス亡霊婦人」
2006（平成18）
ガラス、絹、麻、漆、鉄、針金
800.0×500.0×500.0
作家蔵

163
岡本光博
「w # 92 「縄文トイレ」」
2006（平成18）
オリジナルピクトグラム、縄文汚物
550.0×150.0×875.0
作家蔵

164
岡本光博
「ST # 270 「法・青森回帰」」
2006（平成18）
FRP、法衣
250.0×170.0×1360.0
作家蔵

165
岡本光博
「r # 176 「PTSD Aomori」」
2006（平成18）
ミクストメディア
250.0×265.0×300.0
作家蔵

166
馬場哲晃
「言霊」
2004（平成16）
ミクストメディア
作家蔵

167
馬場哲晃
「D1 Grand Prix」
2006（平成18）
ミクストメディア
850.0×900.0×900.0
作家蔵

縄文

1
深鉢（埋設土器）
青森県青森市三内丸山遺跡
縄文時代・中期
青森県教育委員会

2
土偶頭部
青森県青森市玉清水遺跡
縄文時代・晩期
青森市教育委員会

3
土偶頭部
青森県青森市玉清水遺跡
縄文時代・晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

4
土偶
青森県青森市玉清水遺跡
縄文時代・晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

5
土面
青森県青森市羽黒平遺跡
縄文時代・晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

6
土偶頭部
青森県青森市宮田遺跡
縄文時代・後期～晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

7
土偶頭部
青森県板柳町土井I号遺跡
縄文時代・晩期
板柳町立郷土資料館

8
土偶頭部
青森県板柳町土井I号遺跡
縄文時代・晩期
板柳町立郷土資料館

9
岩版
青森県板柳町土井I号遺跡
縄文時代・晩期
板柳町立郷土資料館

10
重要文化財深鉢（甕棺）
青森県三戸町沖中（1）遺跡
縄文時代・後期
五戸町教育委員会

11
人面付土製品
青森県三戸町沖中（1）遺跡
縄文時代・晩期
三戸町教育委員会

12
岩偶頭部
青森県七戸町道地
縄文時代・晩期
青森県立郷土館

13
土偶頭部
青森県外ヶ浜町宇鉄遺跡
縄文時代・後期～晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

14
重要文化財深鉢
青森県つがる市石神遺跡
縄文時代・前期～中期
つがる市教育委員会

15
重要文化財深鉢
青森県つがる市石神遺跡
縄文時代・前期～中期
つがる市教育委員会

16
土偶頭部
青森県つがる市亀ヶ岡遺跡
縄文時代・晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

17
土偶頭部
青森県南部町平遺跡（貝塚）
縄文時代・後期～晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

18
土偶頭部 青森県南部町平遺跡（貝塚）
縄文時代・晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

19
人面把手付深鉢
青森県八戸市石手洗遺跡
縄文時代・中期
八戸市博物館

20
人面把手付土器破片
青森県八戸市石手洗遺跡
縄文時代・中期
八戸市博物館

21
土偶頭部
青森県八戸市是川城内
縄文時代・晩期
青森県立郷土館（風韻堂コレクション）

22
重要文化財土偶頭部
青森県八戸市是川中居遺跡
縄文時代・晩期
八戸市教育委員会

23
重要文化財土偶頭部
青森県八戸市是川中居遺跡
縄文時代・晩期
八戸市教育委員会

24
重要文化財土偶頭部
青森県八戸市是川中居遺跡
縄文時代・晩期
八戸市教育委員会

25
重要文化財深鉢
青森県八戸市是川中居遺跡
縄文時代・晩期
八戸市教育委員会

26
重要文化財深鉢
青森県八戸市是川中居遺跡
縄文時代・晩期
八戸市教育委員会

27
人面把手付土器破片
青森県八戸市西長根遺跡
縄文時代・中期
八戸市博物館

28
県重宝土偶
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

29
県重宝土偶頭部
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

30
県重宝土偶頭部
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

31
県重宝土偶頭部
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

32
県重宝土偶頭部
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

33
県重宝土偶
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

34
県重宝土偶
青森県むつ市二枚橋（2）遺跡
縄文時代・晩期
むつ市教育委員会

35 県重宝土偶 青森県むつ市二枚橋(2)遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	46 人面把手付深鉢 長野県富士見町下原遺跡 縄文時代・中期 井戸尻考古館	57 土偶頭部 福島県天栄村桑名邸遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	68 重要文化財深鉢 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館
36 県重宝土面 青森県むつ市二枚橋(2)遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	47 人面把手付土器破片 長野県松本市エリ穴遺跡 縄文時代・晩期 松本市教育委員会	58 土偶頭部 福島県天栄村桑名邸遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	69 重要文化財土器破片 29 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館
37 県重宝土面 青森県むつ市二枚橋(2)遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	48 土偶頭部 長野県松本市小池遺跡 縄文時代・中期 松本市立考古博物館	59 土偶頭部 宮城県多賀城市山王遺跡 縄文時代・晩期 明治大学博物館	70 把手付深鉢 長野県茅野市下の原遺跡 縄文時代・中期 尖石縄文考古館
38 土偶頭部 岩手県軽米町軽米遺跡 縄文時代・晩期 東京大学総合研究博物館	49 土偶頭部 長野県松本市坪ノ内遺跡 縄文時代・中期 松本市立考古博物館	60 重要文化財土器頭部 山梨県笛吹市一の沢遺跡 縄文時代・中期 山梨県立考古博物館	71 鉢 長野県茅野市中ッ原遺跡 縄文時代・中期 尖石縄文考古館
39 鼻形土製品 岩手県盛岡市蔭内遺跡 縄文時代・後期～晩期 岩手県	50 重要文化財深鉢(火焰型土器) 新潟県長岡市馬高遺跡 縄文時代・中期 長岡市立科学博物館	61 重要文化財把手付深鉢 山梨県笛吹市一の沢遺跡 縄文時代・中期 山梨県立考古博物館	72 県指定有形文化財深鉢(火焰型土器) 新潟県津南町沖ノ原遺跡 縄文時代・中期 津南町教育委員会
40 土偶 神奈川県秦野市天神台遺跡 縄文時代・後期 東京大学総合研究博物館	51 人面把手付土器破片 新潟県長岡市山下遺跡 縄文時代・中期 長岡市立科学博物館	62 土偶頭部 山梨県笛吹市桂野遺跡 縄文時代・中期 山梨県立考古博物館	73 県指定有形文化財深鉢(火焰型土器) 新潟県津南町沖ノ原遺跡 縄文時代・中期 津南町教育委員会
41 把手付深鉢 富山県水見市朝日貝塚 縄文時代・中期 東京大学総合研究博物館	52 土偶頭部 福島県郡山市荒小路遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	63 重要文化財人面把手付土器破片 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館	74 把手付深鉢 新潟県津南町道尻手遺跡 縄文時代・中期 津南町教育委員会
42 人面把手付深鉢 長野県岡谷市目切遺跡 縄文時代・中期 岡谷市教育委員会	53 土偶頭部 福島県郡山市荒小路遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	64 重要文化財人面把手付土器破片 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館	75 深鉢(火焰型土器) 新潟県津南町道尻手遺跡 縄文時代・中期 津南町教育委員会
43 人面把手付土器破片 長野県諏訪郡富士見町藤内 縄文時代・中期 尖石縄文考古館	54 土偶頭部 福島県郡山市荒小路遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	65 重要文化財深鉢 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館	76 深鉢(火焰型土器) 新潟県津南町道尻手遺跡 縄文時代・中期 津南町教育委員会
44 土偶 長野県茅野市棚畑遺跡 縄文時代・中期 尖石縄文考古館	55 土偶頭部 福島県新地町師山遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	66 重要文化財深鉢 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館	77 粘土塊 5 青森県青森市三内丸山遺跡 縄文時代・中期 青森県教育委員会
45 人面把手付土器破片 長野県茅野市中ッ原遺跡 縄文時代・中期 尖石縄文考古館	56 土偶頭部 福島県天栄村桑名邸遺跡 縄文時代・後期 福島県文化財センター 白河館 まほろん	67 重要文化財深鉢(埋設土器) 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館	78 岩版 青森県板柳町土井 I 号遺跡 縄文時代・晩期 板柳町立郷土資料館

79 深鉢 青森県五戸町苗代沢遺跡 縄文時代・前期 五戸町教育委員会	90 重要文化財壺 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	101 深鉢 千葉県船橋市飛ノ台貝塚 縄文時代・早期 船橋市飛ノ台史跡公園博物館	112 把手付深鉢 新潟県小千谷市三仏生遺跡 縄文時代・中期 長岡市立科学博物館
80 県重宝赤漆塗り壺 青森県つがる市亀ヶ岡遺跡 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	91 尖底深鉢 青森県八戸市長七谷地遺跡 縄文時代・早期 八戸市博物館	102 深鉢 千葉県船橋市飛ノ台貝塚 縄文時代・早期 船橋市飛ノ台史跡公園博物館	113 石鉢 10 福島県郡山市町 B 遺跡 縄文時代・晩期 郡山市教育委員会
81 県重宝赤漆塗り広口壺 青森県つがる市亀ヶ岡遺跡 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション） 青森県つがる市亀ヶ岡遺跡	92 深鉢 青森県八戸市西長根遺跡 縄文時代・中期 八戸市博物館	103 深鉢 千葉県船橋市飛ノ台貝塚 縄文時代・早期 船橋市飛ノ台史跡公園博物館	114 深鉢 福島県磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡 縄文時代・中期 福島県文化財センター 白河館 まほろん
82 壺 青森県十和田市高谷 縄文時代・晩期 明治大学博物館	93 壺 青森県平内町機の木遺跡 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	104 深鉢 千葉県船橋市飛ノ台貝塚 縄文時代・早期 船橋市飛ノ台史跡公園博物館	115 把手付深鉢 宮城県川崎町中ノ内 B 遺跡 縄文時代・中期 東北歴史博物館
83 壺 青森県十和田市高谷 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	94 県重宝台付浅鉢 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	105 深鉢 栃木県藤岡町篠山貝塚 縄文時代・前期 明治大学博物館	116 深鉢 宮城県石巻市仁斗田貝塚 縄文時代・中期 東北歴史博物館
84 壺 青森県南部町青鹿長根遺跡 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	95 県重宝壺 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	106 尖底深鉢 長野県岡谷市大洞遺跡 縄文時代・早期 長野県立歴史館	117 深鉢 宮城県石巻市南境貝塚 縄文時代・中期 東北歴史博物館
85 県重宝尖底深鉢 青森県南部町阿森ノ越遺跡 縄文時代・早期 名久井農業高校	96 尖底深鉢 青森県六ヶ所村尾駁遺跡 縄文時代・早期 明治大学博物館	107 壺 長野県岡谷市花上寺遺跡 縄文時代・中期 岡谷市教育委員会	118 深鉢 宮城県蔵王町二屋敷遺跡 縄文時代・中期 東北歴史博物館
86 重要文化財異形土器 青森県八戸市風張（1）遺跡 縄文時代・後期 八戸市博物館	97 黒漆塗り壺 不明 縄文時代・後期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	108 台付鉢 長野県塩尻市上木戸遺跡 縄文時代・中期 長野県立歴史館	119 把手付深鉢 山梨県甲府市上野原遺跡 縄文時代・中期 山梨県立考古博物館
87 県重宝深鉢 青森県八戸市是川一王寺遺跡 縄文時代・中期 宗教法人清水寺	98 朱塗りの注口 岩手県軽米町馬場野 II 遺跡 縄文時代・晩期 岩手県	109 深鉢 長野県茅野市高風呂遺跡 縄文時代・中期 尖石縄文考古館	120 重要文化財粘土塊 山梨県笛吹市釈迦堂遺跡群 縄文時代・中期 釈迦堂遺跡博物館
88 重要文化財土偶 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	99 壺 岩手県北上市大橋遺跡 縄文時代・晩期 岩手県	110 深鉢 長野県茅野市丸山遺跡 縄文時代・中期 尖石縄文考古館	121 深鉢 山梨県北杜市天神遺跡 縄文時代・前期 山梨県立考古博物館
89 重要文化財壺 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	100 壺 岩手県八幡平市曲田 I 遺跡 縄文時代・晩期 岩手県	111 把手付深鉢 長野県長野市松原遺跡 縄文時代・前期～中期 長野県立歴史館	122 深鉢 山梨県御坂町花鳥山遺跡 縄文時代・前期 國學院大學考古資料館

123 状耳飾 青森県青森市内丸山遺跡 縄文時代・中期 青森県教育委員会	134 土版 青森県田子町 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	145 イモガイ土製品 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	156 県重宝 石錐 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会
124 土偶 7 青森県青森市内丸山遺跡 縄文時代・中期 青森県教育委員会	135 土製耳飾 青森県つがる市亀ヶ岡遺跡 他 縄文時代・晩期 青森県立郷土館	146 県重宝 深鉢 青森県八戸市新田遺跡 縄文時代・中期 八戸市博物館	157 県重宝 環状土製品 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会
125 石製品 8 青森県青森市内丸山遺跡 縄文時代・中期 青森県教育委員会	136 土偶 青森県つがる市亀ヶ岡遺跡 縄文時代・晩期 東京大学総合研究博物館	147 土偶 青森県平川市広船 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	158 県重宝 環状土製品 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会
126 土製品 8 青森県青森市内丸山遺跡 縄文時代・中期～後期 青森県立郷土館	137 块状耳飾 青森県南部町館野遺跡 縄文時代・前期 青森県埋蔵文化財調査センター	148 土偶 青森県平川市広船 縄文時代・晩期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	159 県重宝 ミニチュア土器 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会
127 土偶 青森県青森市内丸山遺跡 縄文時代・中期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	138 環状石製品 青森県南部町 縄文時代 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	149 土偶 青森県弘前市十腰内遺跡 縄文時代・晩期 東京大学総合研究博物館	160 香炉形土器 岩手県軽米町長倉 I 遺跡 縄文時代・後期 岩手県
128 人物線刻石冠 青森県青森市近野遺跡 縄文時代・後期 青森県埋蔵文化財調査センター	139 土偶 青森県階上町野場（5）遺跡 縄文時代・後期 青森県埋蔵文化財調査センター	150 香炉形土器 青森県むつ市大湊近川遺跡 縄文時代・後期 青森県埋蔵文化財調査センター	161 土偶 岩手県軽米町長倉 I 遺跡 縄文時代・後期 岩手県
129 垂飾 青森県青森市長森遺跡 縄文時代（時期不明） 青森県立郷土館	140 重要文化財 香炉形土器 青森県八戸市風張（1）遺跡 縄文時代・後期 八戸市博物館	151 県重宝 土偶 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	162 土製品 岩手県久慈市大芦 I 遺跡 縄文時代・晩期 岩手県
130 鐙形土製品・紡錘形土製品 6 青森県青森市細越 他 縄文時代・後期 他 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	141 重要文化財 スタンプ形土製品 青森県八戸市風張（1）遺跡 縄文時代・後期 八戸市博物館	152 県重宝 土偶 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	163 土偶 岩手県栗石町垣ヶ森 I 遺跡 縄文時代・中期 岩手県
131 土偶 青森県板柳町土井 I 号遺跡 縄文時代・晩期 板柳町立郷土資料館	142 重要文化財 岩版 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	153 県重宝 土偶 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	164 香炉形土器 岩手県八幡平市水神遺跡 縄文時代・晩期 岩手県
132 香炉形土器 青森県五戸町上市川 縄文時代・後期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	143 重要文化財 岩版 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	154 県重宝 香炉形土器 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	165 異形土器 埼玉県岩槻市真福寺貝塚 縄文時代・後期 東京大学総合研究博物館
133 香炉形土器 青森県三戸町泉山遺跡 縄文時代・後期 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	144 重要文化財 岩版 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	155 県重宝 石匙 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	166 土版 千葉県市川市堀之内貝塚 縄文時代・後期～晩期 明治大学博物館

167 深鉢 千葉県船橋市高根木戸遺跡 縄文時代・中期 船橋市飛ノ台史跡公園博物館	229 注口土器 岩手県軽米町長倉 I 遺跡 縄文時代・後期 岩手県
126 127 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	230 注口土器 岩手県軽米町長倉 I 遺跡 縄文時代・後期 岩手県
220 注口土器 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	231 石棒 岩手県北上市大橋遺跡 縄文時代・晩期 岩手県
221 注口土器 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	232 注口土器 岩手県二戸市雨滝遺跡 縄文時代・後期～晩期 明治大学博物館
222 注口土器 青森県八戸市是川中居遺跡 縄文時代・晩期 八戸市教育委員会	233 石棒 長野県富士見町大花遺跡 縄文時代・中期 井戸尻考古館
223 石棒 青森県弘前市尾土山遺跡 縄文時代（時期不明） 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	234 石棒 長野県富士見町曾利遺跡 縄文時代・中期 井戸尻考古館
224 県重宝 注口土器 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	235 石棒 新潟県長岡市岩野原遺跡 縄文時代・後期 長岡市立科学博物館
225 県重宝 注口土器 青森県むつ市二枚橋（2）遺跡 縄文時代・晩期 むつ市教育委員会	236 石棒 新潟県長岡市岩野原遺跡 縄文時代・後期 長岡市立科学博物館
226 石棒 不明 縄文時代（時期不明） 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	237 重要文化財 石棒 新潟県長岡市馬高遺跡 縄文時代・中期 長岡市立科学博物館
227 石棒 不明 縄文時代（時期不明） 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	238 石棒 福島県郡山市町 B 遺跡 縄文時代・晩期 郡山市教育委員会
228 石棒 不明 縄文時代（時期不明） 青森県立郷土館（風韻堂コレクション）	239 糞石 宮城県東松島市里浜貝塚 縄文時代 東北歴史博物館

掲載記事

朝日新聞

9月14日(木)
縄文の石器に3体の人物図 青森・近野遺跡

9月14日(木)
手や指細かく表現 「三内丸山」隣で発見 近野遺跡から人物の線描画

10月19日(木)
縄文と現代時代結ぶ展示 県立美術館土面からロボットまで 感情の普遍性を探る

12月6日(木)
「縄文と現代展」苦戦中 県美入場者数 目標の3割 評価高いが広がり出ず

10月5日(木)
県美で7日から公開 あす荒木さんのパフォーマンスも アラーキー写真集「青森ノ顔」が完成 県民700人がモデル

10月7日(土)
アラーキー写真展 開幕へ自ら題字 きょうから県立美術館

河北新報

9月14日(木)
縄文の石器に親子? 3人 青森・近野遺跡 石冠で線描確認

10月14日(土)
青森県立美術館美が結ぶ二つの時代 12月10日まで企画展「縄文と現代」

11月28日(火)
「虎縄文」抱えてバチリ 青森県立美術館企画展で記念撮影会

11月9日(木)
無数の服飾小物使いコラージュ 過剰が生む「ゼロ」感覚 秋田・現代美術作家村山さん地元初個展 女性の内面、願望表現

12月3日(日)
絵柄は「縄文と現代」展のキャラクター 遊び心満載のTシャツ誕生 スタッフ自ら考案 来館者に大人気、商品化

3月15日(木)
人気さっぱり「縄文と現代展」 目玉は三内丸山なのに入館目標の28パーセント

10月22日(日)
巨大人形 口から「怒りの炎」 県立美術館でパフォーマンス

10月17日(火)
みちのく アラーキーこと写真家の荒木経惟さんが青森市の青森県立美術館で始まった自信の写真展に登場した。

デーリー東北

4月7日(金)
「青森ノ顔 縄文ノ顔」1086組がモデルに 応募 写真家・荒木氏八戸でも撮影会

9月18日(月)
アート入門講座 来月から開催

10月5日(木)
「縄文と現代」展県立美術館で7日開幕 「遺物」「表現」400点一堂に アラーキー撮影「青森ノ顔」展も

10月8日(日)
表現の融合を体感 青森県立美術館開館記念展第2弾「縄文と現代」開幕

10月9日(月)
粘土の「土偶」、PC上で”対戦”

10月7日(土)
青森県立美術館きょうから写真展 壁にタイトル 「どうだ」 「青森ノ顔」撮影 荒木さん

6月11日(日)
“アラーキー”が激写 モデル「一生の思い出」 「青森ノ顔」八戸で撮影会

6月10日(土)
「青森ノ顔」プロジェクト”アラーキー”が来八 ドキュメンタリー特別上映に登場 きょう撮影会

毎日新聞

8月23日(水)
県美 第2弾は「縄文と現代」時を超え響き合う美

9月14日(木)
ひと 毎日ファッション大賞受賞のデザイナー 皆川明さん 良いモノには、国境も時間も関係ありません

9月14日(木)
縄文の家族か 石冠に人物像

10月19日(木)
いま必要なこと 県立美術館への提言⑥ 写真家江川正幸さん(52) =青森市 芸術家が「育つ」空間に

10月8日(日)
県立美術館縄文と現代美術一堂に 開館記念の第2弾開幕

11月29日(水)
「虎縄文」とツーショットを 県立美術館

6月11日(日)
青森ノ顔 「アラーキー」の視点、八戸でイタコの女性を撮影 10月の県民写真個展を前に

陸奥新報

4月7日(金)
県立美術館記念展企画内容が固まる 縄文と現代展 戦後の作品は約100点

9月12日(火)
“巨大ロボット”で幕開け 来月7日から「縄文と現代展」多彩なイベント

9月14日(木)
人物描いた「石冠」 青森・近野遺跡から出土縄文後期中ごろ 国内では「初めて」男女と子供、祭祀用か

10月12日(木)
最新アート通じ交流 高校生対象にプログラム 作品見せ合い意見も

10月1日(日)
歌い踊る巨大ロボット 県立美術館「縄文と現代展」目玉

10月20日(金)
元気です 県立美術館エントランス 中村真貴子さん(35)受付

10月8日(日)
県立美術館「縄文と現代」展開幕 遺物とアート”競演” 荒木さん撮影「青森ノ顔」展も併催

11月17日(金)
ポスター制作挑戦 黒商高生 自分の作品に見入る 県立美術館招待 企画展鑑賞楽しむ

11月27日(月)
「虎縄文」とはい！バチリ 作品に触れ笑顔

3月7日(水)
開館効果シャガール展黒字 縄文と現代展は赤字

3月6日(火)
県負担金の8割返せず 県美「縄文と現代展」入館者数が目標の28% 基金取り崩しへ

10月7日(土)
アラーキー 題字揮毫「どうだ！」 県立美術館青森ノ顔展

8月10日(木)
10月からの県立美術館「縄文と現代」概要決定 にぎやかな空間演出 他分野の表現を同時展示 県民500人「青森ノ顔」も

読売新聞

12月15日(金)
「縄文と現代」入場者 目標の3割 第3弾「工藤甲人」は3万人狙う

11月27日(月)
“虎”と記念撮影

10月22日(日)
熱い！縄文のエネルギー ロボ「トラやん」パフォーマンス

9月14日(木)
縄文の家内安全祈願

10月18日(水)
荒木経惟さん「日本人ノ顔」プロジェクト第5弾 「青森ノ顔」写真集完成 人生にじみ出る肖像

10月7日(土)
きょうから「縄文と現代展」

6月11日(日)
「八戸の顔」で締めくくり 荒木さんの撮影会

東奥日報

8月10日(木)
多様な表現で祝祭的に 県立美術館「縄文と現代」展 展示概要決まる

8月11日(金)
勉強+PRに一役 県立美術館「縄文と現代」展 黒石商生徒がポスター作り

9月25日(月)
ユーレーカ！美の扉が開く時 子どもたちに残す作品を 美術家・ヤノベケンジさん「なにわのトラやん」

10月11日(水)
互いの想像力が刺激に 県立美術館でアート交流 美術系学科の県立高校生150人

10月16日(月)
想像が膨らんだ「縄文と現代」展

10月18日(水)
作品と自由に接して 県立美術館「縄文と現代」展 現代美術、早わかり解説

10月19日(木)
炎を放つ巨大トラやん 県立美術館21日パフォーマンス

10月1日(日)
その名は「トラやん」 県立美術館に巨大ロボット 7日から「縄文と現代」展

10月22日(日)
怒ると火を吐くぞ トラやんパフォーマンス

10月23日(月)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から① 青木野枝「空の水-IV」 さながら「縄文の森」

10月24日(火)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から② 西尾康之「ミンスク」 軍艦覆う無数の「指」

10月25日(水)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から③ 福田理香「青森の果実酒とシロップ2006」 姿変え生き続ける魂

10月26日(木)
現代アート驚きと刺激 県立美術館一高養生が鑑賞

10月26日(木)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から④ コーネリアス「SENSUOUS THINGS」 映像と音感覚を刺激

10月27日(金)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から⑤ 小沢剛「コロボックルは君に語りかける2006」 「想像力の翼広げて」

10月28日(土)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から⑥ 村山留里子「ガラス亡霊婦人」 まるで「死」との婚礼

10月30日(月)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から⑦ 馬場哲晃「言霊」 唱えた「想い」が浮遊

10月31日(火)
豊かなる祝祭空間 県立美術館「縄文と現代」展 現代編①土器の「美」 根源的な強さに根ざす 工藤健志

10月31日(火)
現代のかたち・こころ 県立美術館記念展から⑧ 岡本光博「法」 タブー恐れず作品化

10月6日(金)
県立美術館開館記念第2弾あすから「縄文と現代」展 ヒ表現を比較普遍性探る 作品展示追い込み 作家自ら設置作業

10月7日(土)
創作の魂時代超え発信 県立美術館「縄文と現代」展開幕

10月8日(日)
「展示に遊び心」「仕掛け面白い」 県立美術館「縄文と現代」展にぎわう

10月9日(月)
色・形工夫して勝負！ 手作り土偶コンピュータ上で対戦 「縄文と現代」展ワークショップ親子連れ熱中

11月15日(水)
「縄文と現代」展テーマにポスター制作 自分一枚仕上げり上々 黒石商生徒県立美術館訪れ鑑賞

11月1日(水)
豊かなる祝祭空間 県立美術館「縄文と現代」展 現代編②時代の共鳴 社会や人間存在を問う 工藤健志

11月27日(月)
「虎縄文」とはいチーズ 県立美術館で撮影会

11月28日(火)
来月2、3日におおTシャツ作り 県立美術館

11月28日(火)
キャラクターTシャツに 県立美術館「縄文と現代」展

11月29日(水)
「縄文と現代展」特集 「美術手帖」12月号 評論、写真で構成

11月3日(金)
豊かなる祝祭空間 県立美術館「縄文と現代」展 現代編③祭儀・呪術 人間普遍の意識を表現 工藤健志

11月4日(土)
豊かなる祝祭空間 県立美術館「縄文と現代」展 現代編④生のシンボル いにしへの記憶を継承 工藤健志

11月5日(日)
8、12日アート講座 県立美術館

11月7日(火)
豊かなる祝祭空間 県立美術館「縄文と現代」展 縄文編②表現の多様性 想像力を呼び覚ます 板倉容子

11月9日(木)
縄文土器の魅力紹介 県立美術館でアート入門

12月1日(金)
県立美術館開館4ヶ月マナー守って楽しく鑑賞を 写真撮影は禁止 著作権を保護 作品に触れない 傷や汚れを防ぐ

12月1日(金)
時代超えた美の世界 「縄文と現代」展開幕まで10日

12月2日(土)
岡田康博さんと歩く「縄文と現代」展 造形、色…多種多様な土器 生命の源を感じる模様

12月9日(土)
縄文と現代展あす閉幕 県立美術館来場者1万4千人

5月22日(月)
縄文イメージどう表現 10-12月・県立美術館記念展第2弾 美術家ヤノベさんが来館

12月11日(月)
いにしえ思い 舟送り 県立美術館「縄文と現代」展閉幕

11月25日(土)
美の共鳴 一冊に 「縄文と現代」展 128ページカタログ完成

11月6日(月)
豊かなる祝祭空間 県立美術館「縄文と現代」展 縄文編①膨大な土器片 人間が暮らした実在感 板倉容子

10月7日(土)
「青森ノ顔」687人分見て！ 県立美術館「縄文と現代」展 きょうから アラーキー参加 題字でアビール 豪快にパフォーマンス

9月15日(金)
青森県立美術館開館記念展第二弾 縄文と現代展 二つの時代をつなぐ「かたち」と「こころ」 本日より前売券発売 10月7日-12月10日県立美術館

8月13日(日)
縄文のイメージ形に 黒高情報デザイン科 県立美術館ワークショップ 縄文と現代展ポスター案を説明

7月5日(水)
黒石商で県立美術館出前講座 デザインの力知って ポスター作りに助言

工藤甲人展 —夢と覚醒のはざまに— KUDO Kojin : Between dream and reality

開催概要

会期：平成19年3月21日（水・祝）－5月6日（日）
主催：工藤甲人展実行委員会（青森県立美術館、東奥日報社、
青森テレビ）
特別協力：弘前市
後援：日本放送協会青森放送局、青森市、五所川原市
特別協賛：青森銀行
協賛：大和証券グループ、サントリー
協力：日本航空青森支店、ホテル JAL シテイ青森
観覧料：
一般 1,100円（1,000円）、大学生・高校生 700円（600円）、
中学生・小学生 300円（250円）
※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金
※ 常設展の観覧料を含む

入場者数

12,630人

関連企画

ギャラリートーク
日時：土・日・祝日 計18日間実施
場所：展示室内

アート入門「工藤甲人—夢と覚醒のはざまに」（講演）
日時：平成19年4月30日（月・祝）14：00－15：00
場所：美術館シアター
講師：三好徹（青森県立美術館美術企画課長）

クイズラリー

日時：平成19年4月7日（土）－22日（日）
場所：展示室内
概要：展示作品に関するクイズの全問正解者に抽選で展覧会グッズをプレゼント。

関連映像「工藤甲人、自作を語る。」上映

日時：開館中常時上映
場所：美術館シアター

カタログ

仕様：A4版（文献小冊子39ページ、図版シート79枚）、化粧箱入り（図版シート用の簡易額として利用可能）
編集：三好徹、菅野晶（青森県立美術館）
執筆：三好徹（青森県立美術館）
デザイン：佐藤貴永デザイン事務所
発行：工藤甲人展実行委員会
内容
（小冊子）
・三好徹
「工藤甲人—夢と覚醒のはざまに—」
・年譜
・出品目録（小下図図版添付）
・文献目録
（出品作品図版シート）



ポスター



展示風景

弘前市出身の日本画家、工藤甲人（1915 -、くどう・こうじん）は、卒寿を越えてなお、精力的な制作活動を続け、現代の日本画界を代表する一人として活躍している。戦後、若い画家を中心に湧き起こった新しい日本画の創造を目指す活動に共感し、心象イメージを絵画世界に表す独特の作風を築き上げていった。本展では、1950年代の初期作品から現在に至るまでの工藤甲人の作品を展示し、夢幻の世界と現実の世界のはざまを漂う工藤甲人作品の魅力を探った。県立美術館が所蔵する作品を初め、日本各地から代表作を一堂に集め、創造美術、新制作協会、創画会といった美術団体を活動の基盤とした工藤甲人の仕事の足跡を辿る回顧展となった。

展覧会では、1950年から2006年現在に至るまで、56年間にわたる仕事のほぼ全貌を紹介。工藤が活動の舞台とした創造美術、新制作協会、創画会の各展覧会への出品作品をほぼ網羅するとともに、工藤とともに新しい日本画の創造をめざした「創造美術」を結成する原動力となった吉岡堅二（1906 - 1990、東京生）、工藤甲人の師でもあった福田豊四郎（1904 - 1970、

秋田県小坂町生）など、ゆかりの深い作家の作品も展示。さらには制作記録、下図等をあわせて展示することで、工藤甲人の知られざる創作過程も探った。

出品作品

1

工藤甲人
蓮
1950
紙・着彩
97.0×130.0
青森県立美術館

2

工藤甲人
愉しき仲間 (1)
1951
紙・着彩
162.1×130.3
平塚市美術館

3

工藤甲人
愉しき仲間 (2)
1951
紙・着彩
130.3×162.1
平塚市美術館

4

工藤甲人
黒猫
1953
紙・着彩
72.5×57.4
青森県立美術館

5

工藤甲人
狐婚
1953
紙・着彩
170.0×212.0

6

工藤甲人
日の蝕み
1954
紙・着彩
162.1×130.3
弘前市立博物館

7

工藤甲人
山
1954
紙・着彩
162.1×130.3
弘前市立博物館

8

工藤甲人
野鴉
1954～55頃
紙・着彩
69.2×55.9
青森県立美術館

30

9

工藤甲人
冬の樹木
1956
紙・着彩
162.1×130.3
京都国立近代美術館

10

工藤甲人
樹木のうた
1956
紙・着彩
162.1×130.3
平塚市美術館

11

工藤甲人
いばらの樹
1958
紙・着彩
130.3×162.1
弘前市立博物館

12

工藤甲人
月中の森
1959
紙・着彩
75.0×90.0
弘前市立博物館

13

工藤甲人
風樹
1959
紙・着彩
130.3×162.1
弘前市立博物館

14

工藤甲人
明・暗
1960
紙・着彩
130.3×162.1
青森県立美術館

15

工藤甲人
光輪
1961
紙・着彩
168.0×107.0
弘前市立博物館

16

工藤甲人
光炎
1961
紙・着彩
168.0×107.0
弘前市立博物館

17

工藤甲人
野末の聖鳥
1961
紙・着彩
130.3×89.4

18

工藤甲人
曠野の鴉
1962
紙・着彩
162.0×130.0
三重県立美術館

19

工藤甲人
荊棘
1962
紙・着彩
167.0×109.0
青森県立美術館

20

工藤甲人
森の蝶
1962
紙・着彩
130.3×97.0

21

工藤甲人
杉
1962
紙・着彩
100.0×72.7
青森県立美術館

22

工藤甲人
枯葉
1963
紙・着彩
130.3×162.1
神奈川県立近代美術館

23

工藤甲人
霧
1963
紙・着彩
130.5×162.0
東京国立近代美術館

24

工藤甲人
夜
1963
紙・着彩
130.3×162.1
新潟県立近代美術館・万代島美術館

25

工藤甲人
秋風の譜
1964
紙・着彩
72.8×91.0
青森県立美術館

26

工藤甲人
地の手と目
1964
紙・着彩
130.0×162.0
横浜美術館

27

工藤甲人
野分
1964
紙・着彩
89.4×130.3
東京藝術大学大学美術館

28

工藤甲人
連理の枝
1964
紙・着彩
162.1×130.3
神奈川県立近代美術館

29

工藤甲人
黒いとばり
1965
紙・着彩
190.0×135.0
京都国立近代美術館

30

工藤甲人
羽化
1966
紙・着彩
162.0×130.0
横浜美術館

31

工藤甲人
秋の蝶
1966
紙・着彩
190.0×135.0
青森県立美術館

32

工藤甲人
夢む枯葉
1967
紙・着彩
130.3×162.1

33

工藤甲人
蝶の階段
1967
紙・着彩
135.0×190.0
平塚市美術館

34

工藤甲人
春のいざない
1968
紙・着彩
190.0×135.0
フジテレビジョン

35

工藤甲人
鳥心
1968
紙・着彩
145.5×112.1

36 工藤甲人 霧中夢 1969 紙・着彩 135.0×190.0	45 工藤甲人 渴仰（春） 1975 紙・着彩 210.0×120.0	54 工藤甲人 杉 1983 紙・着彩 162.1×113.5 平塚市美術館	63 工藤甲人 わだつみのいろこ 1991 紙・着彩 184.0×150.0 呉市立美術館
37 工藤甲人 次郎雲 1970 紙・着彩 135.0×190.0 平塚市美術館	46 工藤甲人 化生（夏） 1976 紙・着彩 210.0×120.0	55 工藤甲人 相 1984 紙・着彩 167.0×265.0 平塚市美術館	64 工藤甲人 冬玄郷—妝 1992 紙・着彩 175.0×140.0 平塚市美術館
38 工藤甲人 夢と覚醒 1971 紙・着彩 195.0×135.0 青森県立美術館	47 工藤甲人 野郷仏心（秋） 1976 紙・着彩 210.0×120.0	56 工藤甲人 わが壁に 1985 紙・着彩 90.9×116.7 平塚市美術館	65 工藤甲人 池心の戯れ 1993 紙・着彩 175.0×140.0
39 工藤甲人 光昏 1972 紙・着彩 190.0×135.0 青森県立美術館	48 工藤甲人 霧 1977 紙・着彩 142.0×200.0 国際交流基金	57 工藤甲人 虫の宿 1985 紙・着彩 142.2×203.2 青森県立美術館	66 工藤甲人 寂光土 1994 紙・着彩 197.0×160.0 平塚市美術館
40 工藤甲人 聖エリザベッタ 1973 紙・着彩 119.5×79.8 東京藝術大学大学美術館	49 工藤甲人 風歴 1978 紙・着彩 142.0×200.0 弘前市立博物館	58 工藤甲人 残懐図 1986 紙・着彩 205.0×144.0 平塚市美術館	67 工藤甲人 幻存の彼方へ 1995 紙・着彩 197.0×160.0
41 工藤甲人 聖キアラ 1973 紙・着彩 119.5×79.8 東京藝術大学大学美術館	50 工藤甲人 意・心 1979 紙・着彩 200.0×142.0 東京藝術大学大学美術館	59 工藤甲人 誘惑 1987 紙・着彩 197.0×160.0 横浜美術館	68 工藤甲人 幻存の声 1996 紙・着彩 160.0×197.0
42 工藤甲人 冬ともえ 1973 紙・着彩 112.9×162.0 弘前市立博物館	51 工藤甲人 北塘晩婦 1980 紙・着彩 210.0×148.0 富山県立近代美術館	60 工藤甲人 北冥の鯤 1988 紙・着彩 197.0×160.0	69 工藤甲人 黒い枯葉（津軽） 1997 紙・着彩 197×160
43 工藤甲人 こがれゆく彼方へ 1974 紙・着彩 212.0×150.0	52 工藤甲人 滝坂道の夕日 1981 紙・着彩 205.0×128.0 安盛寺	61 工藤甲人 思郷記 1989 紙・着彩 197.0×160.0 ホテル JAL シティ青森	70 工藤甲人 予兆 1998 紙・着彩 197.0×160.0 平塚市美術館
44 工藤甲人 休息（冬） 1975 紙・着彩 210.0×120.0	53 工藤甲人 坐忘 1982 紙・着彩 150.0×210.0 愛知県美術館	62 工藤甲人 北海のアフロディーテ 1990 紙・着彩 197.0×160.0 青森県立美術館	71 工藤甲人 樹籬の森へ 1999 紙・着彩 197.0×160.0

72

工藤甲人
未知の森へ
2000
紙・着彩
197.0×160.0

73

工藤甲人
渴仰
2002
紙・着彩
160.0×197.0
五所川原市

74

工藤甲人
野末をゆく鳥
2003
紙・着彩
130.3×162.1
佐久市立近代美術館

75

工藤甲人
馬の霊を弔う新田火祭
2004
紙・着彩
160.0×197.0

76

工藤甲人
渴仰の季節
2006
紙・着彩
145.5×112.1

77

吉岡堅二
湿原
1949
紙・着彩
156.0×125.0
東京国立近代美術館

78

福田豊四郎
海女
1950
紙・着彩
182.0×227.0
東京国立近代美術館

79

福田豊四郎
十和田湖
制作年不詳
紙・着彩
50.3×60.8
ギャラリー青森美術

掲載記事

河北新報

12月9日(土)
津軽の自然幻想的に 青森県立美術館で工藤甲人展 50年の画業たどる 3月開館企画の第3弾

2月25日(日)
東北の美術館・博物館案内

4月1日(日)
幻想的な世界観「小下図」も公開 青森県立美術館企画展 工藤甲人展～夢と覚醒のはざまにー 美術企画課長 三好徹

3月22日(木)
弘前出身日本画家 工藤甲人さんの画業をひもとく

東奥日報

12月15日(金)
県立美術館第3弾は「工藤甲人展」 来年3月ー5月 画業の軌跡紹介

4月6日(金)
夢と覚醒のはざまに① 揺れる葉を怪しげに「連」 三好徹

4月7日(土)
夢と覚醒のはざまに② ボッシュの絵に感動「愉しき仲間(2)」 三好徹

4月8日(日)
5つの生き物を探せ 県立美術館「工藤甲人展」20日までクイズラリー

4月9日(月)
夢と覚醒のはざまに③ 色彩抑え新しい表現「冬の樹々」 菅野晶

4月10日(火)
夢と覚醒のはざまに④ 苦悶の日々の自画像「荊棘」 菅野晶

4月11日(水)
夢と覚醒のはざまに⑤ 独特の技法編み出す「野分」 菅野晶

4月12日(木)
夢と覚醒のはざまに⑥ むなしさとはかなさ「蝶の階段」 三好徹

4月12日(木)
城東小に「桜と岩木山」 弘前出身の画家・工藤甲人さん 創立50周年で新作贈る

4月13日(金)
夢と覚醒のはざまに⑦ 甲人芸術の根本表す「夢と覚醒」 三好徹

4月14日(土)
夢と覚醒のはざまに⑧ ユーモラスな犬と鼻「冬ともえ」 菅野晶

4月15日(日)
幻想の世界に酔いしれ 工藤甲人展が会期後半

4月16日(月)
夢と覚醒のはざまに⑨ 4部作に人間・自然観「休息」「渴仰」「化生」「野郷仏心」 三好徹

4月17日(火)
夢と覚醒のはざまに⑩ 画面に秘めた謎かけ「虫の宿」 菅野晶

4月21日(土)
ユニーク・カタログ好評 作品入れ替えて鑑賞できる バックや陶板などオリジナル商品も

4月25日(水)
寄稿 工藤甲人先生の教え「絵には詩情がなければ」 言葉を色に置き換えた詩人 小野定

4月28日(土)
大先輩の絵に感動 弘前・城東小5、6年生 工藤甲人展を見学

1月18日(木)
前売り券発売対月上旬から 県立美術館工藤甲人展

2月6日(火)
県内回覧 学芸員日誌22 本日の当番三好徹 大切なのは人間関係 展覧会準備での失敗

2月9日(金)
県立美術館「工藤甲人展」前売り券13日から発売

2月12日(月)
青森県立美術館開館記念展第三弾 工藤甲人展～夢と覚醒のはざまに～ 明日から前売券発売

3月22日(木)
「津軽の美」幻想的に 県立美術館工藤甲人展が開幕

4月2日(月)
県立美術館で回顧展 画家・工藤甲人さん(弘前出身)に聞く あずましい絵描ければ 確固たる意志を持ち創作

3月20日(火)
夢と現実 心象風景80点 県立美術館あすから工藤甲人展

読売新聞

12月15日(金)
「縄文と現代」入場者目標の3割 第3弾「工藤甲人」は3万人狙う

3月21日(水)
Wednesday あおもり 県立美術館だより 屏風に満ちる春の喜び 工藤甲人「山野光礼賛」

3月21日(水)
スポーツ&イベント ギャラリー 工藤甲人展～夢と覚醒のはざまに～

4月3日(火)
日本画と洋画の融合美 青森で弘前出身・工藤甲人展

毎日新聞

2月14日(水)
幻想的作品を紹介 県立美術館で来月21日から 工藤甲人展

陸奥新報

2月15日(木)
県立美術館 足跡たどる80点展示「工藤甲人展」概要決まる

2月8日(木)
来月21日から「工藤甲人展」 斬新なボスター発表

3月8日(木)
社説 県立美術館 存在感示す文化拠点に

3月22日(木)
幻想的な画風来場者を魅了 青森 工藤甲人展始まる

平成 18 年度常設展示：「青森コンプレックス」

Permanent Exhibition 2006：Aomori Complex

従来の版画家の枠から大きく逸脱した仕事を残した棟方志功、文学にとどまらず、演劇や映画の新しい世界を開拓した寺山修司、考現学の創始し、実践した今和次郎・純三兄弟、彫刻家でありながら特撮美術の分野で高い支持を集めた成田亨、アートの普及に大きく貢献した奈良美智など、青森出身の芸術家には旧来的な芸術の概念にあてはめることのできない活動を行った作家が多く存在する。

開館年度となる平成 18 年度の常設展示では、そうした多彩な個性を「青森の魅力の複合体」として提示した。

第 1 期：2006 年 7 月 13 日（木）－ 9 月 24 日（日）

展示室 N 特別史跡 三内丸山遺跡出土の重要文化財

特別史跡三内丸山遺跡は我が国を代表する縄文時代の集落跡である。たくさんの土器、石器のほか土偶や岩偶、骨角器、木製品、漆器、動物の骨や植物の種、他地域との交流・交易を物語るヒスイ、琥珀、黒曜石などが出土し、縄文時代の生活や文化、社会を考える上で重要な遺跡である。

今回は出土品を代表する「大型板状土偶」と「縄文ポシェット」に加え、土器、土偶、石器、骨角器等の貴重な重要文化財を展示した。

展示室 N 小野忠弘：「縄文、あるいは原初への回帰」

弘前市に生まれ、1942 年から福井県に在住して制作活動を続けた小野忠弘（おの・ただひろ 1913－2001）。縄文文化を原点として悠然と自己の芸術を追究したその作風は、フランスの批評家ミシェル・タピエに「世界的に通じる日本の作品」と絶賛された。

本コーナーでは、縄文遺物に着想を得たマチエールをとおして、原初の混沌のもつ実在感、秩序以前の生命力を探求した小野の、創造に対する真摯な想いが込められた作品を紹介した。

棟方志功展示室 「知られざる志功」

棟方志功展示室は、(財)棟方志功記念館とともに、棟方志功（むなかた・しこう 1903－1975）の調査研究を推し進めながら、展示を行っていく。今回は初公開の「釈迦十大弟子」の優品、青森時代の希少な油彩画、豊麗な女人像の倭画など、知られざる志功の側面を紹介した。

展示室 O 青森県の洋画と彫刻：「阿部合成と小坂圭二」

太宰治の友人でもあった洋画家の阿部合成（あべ・ごうせい 1910－1972）は、戦前の作品が反戦絵画と指弾され、敗戦後

はシベリアに抑留されるなど、苦難に満ちた戦争の時期を過ごし、荒んだ精神のまま戦後を迎えた。その後 2 度訪れたメキシコで得た題材や技法を生かし、晩年にいたるまで、独自の宗教性を感じさせる作品を制作している。

野辺地中学時代に合成に学んだことにより美術の道を志した彫刻家の小坂圭二（こさか・けいじ 1918－1992）もまた、学徒出陣で苦渋に満ちた戦争を過ごした後、キリスト信者として独自の造形の宗教的な彫刻を制作していた。

この二人の芸術家に共通する、異形の中に深い精神性を感じさせる祈りの造形に焦点をあて、展示を行った。

展示室 P 今和次郎、今純三：「見るという創造」

展示協力：工学院大学図書館、青森県立郷土館

1923 年（大正 12）年の関東大震災は、今和次郎（こん・わじろう 1888－1973）、純三（こん・じゅんぞう 1893－1944）兄弟にとって、その後の彼らの活動を決定する大きな転換点となった。和次郎は、「考現学」の創始者として知られているが、その活動の原点は、震災前からおこなっていた民家調査にあった。一方、弟の純三は、大震災被災を機に帰郷、銅、石版画の技法研究に専心した版画家である。作品には、兄の影響による「考現学」的な風景、風俗描写の他、多くの人物スケッチが含まれており、人々の何気ない表情の中にも新鮮な興味をもって接していた純三の視線を感じることが出来る。

今回の展示では、「考現学」周辺の 2 人の活動を振り返り、兄弟それぞれの「見ることへの欲望」について検証した。

展示室 Q 成田亨：「怪獣デザインの美学」

展示協力：成田流里、(株)海洋堂

成田亨（なりた・とおる 1929－2002）は、「ウルトラ Q」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」という初期ウルトラシリーズのヒーロー、怪獣、宇宙人、メカをデザインし、日本の戦後文化に大きな影響を与えた彫刻家兼特撮美術監督である。美術家の高い資質をもとにデザインされたヒーローや怪獣には、アートのみならず、文化遺産や自然界に存在する動植物を援用した「フォルムの意外性」が追求されている。誰もが見覚えのあるモチーフを引用しつつ、そこから形のおもしろさや意外性を打ち出していくというその一貫した手法からは、成田の揺るがない芸術的信念が読み取れよう。

本展ではデザイン原画 61 点に彫刻作品「タンクボール」2 点を加え、怪獣デザインに込められた美学を検証した。

展示室 M 青森県の日本画：「蔦谷龍岬と工藤甲人」

蔦谷龍岬（つたや・りゅうこう 1886 - 1933）は文展、帝展等で活躍し、後進も数多く育て、強い影響力を本県のみならず当時の日本画壇で持っていた。その画風は大和絵を研究しながらも、濃厚な詩情をただよわせた独自のものである。

戦後を代表する日本画家の一人である工藤甲人（くどう・こうじん 1915 - ）は、ボッシュやブレイクといった西洋の幻想的な美術に大きな影響を受け、伝統的な日本画を脱した独自の画境を開いていった。

大和絵の伝統に立ち戻ろうとした蔦谷龍岬と、新しい日本画を切り開いた工藤甲人。青森県の戦前と戦後を代表する二人の日本画家の作品を紹介した。

展示室 L 近藤悠三：「呉須ひとすじ」

寄贈を受けた中村コレクション（94件150点）の中から、直径70cmを超える大皿「梅染付金彩大皿」をはじめ、花瓶、壺など10数点展示し、染付の技法で人間国宝となった近藤悠三（こんどう・ゆうぞう 1902 - 1985）のダイナミックな作品を紹介した。

展示室 J デスパレートの青森：小島一郎と澤田教一

展示協力：小島弘子

厳寒の津軽や下北をひたすら歩き、風景や人々の姿を撮り続けた小島一郎（こじま・いちろう 1924 - 1964）と、銃声と砲火が絶えることのないベトナムの戦地に被写体を追い求めた澤田教一（さわだ・きょういち 1936 - 1970）。

戦後の青森が生んだ異色の2名の写真家の仕事を振り返るとともに、青森の風土との関連性について探った。

展示室 K 工藤哲巳：読売アンデパンダン展の頃

1950年代に「反芸術運動」の旗手として活躍した工藤哲巳（くどう・てつみ 1935 - 1990）の初期作品を展示した。

実質のデビュー作となる1950年代後半のアンフォルメルの傾向を持つ平面作品から、やがて立体へと展開し、人間の根源的な自由を獲得するための「インポ哲学」を打ち立て、1962年にパリへ渡るまでの期間を、読売アンデパンダン展出品作を中心にして紹介。

青森県の現代美術：「佐野ぬい、村上善男、豊島弘尚」

弘前市生まれの佐野ぬい（さの・ぬい 1932 - ）は、豊かな色彩とリズム感の溢れる作風で知られている。岩手県生まれの村上善男（むらかみ・よしお 1933 - 2006）は、岡本太郎の薫陶を受けて前衛表現を追求、1982年代からは弘前市に滞在し、釘打ちをモチーフにした作品を数多く発表した。豊島弘尚（とよしま・ひろなお 1933 - ）は八戸市に生まれ、郷土や北欧の風土、神話に着想を得た作品を手がけている。

本コーナーでは、青森県が生んだ様々な現代の表現を紹介した。

展示室 I 斎藤義重：「空間への意志」

展示協力：斎藤史門、(株)まつもと

近年の調査で弘前市出身であることが判明した、日本戦後美術を代表する作家、斎藤義重（さいとう・よししげ 1904 - 2001）。

常設展示では、国際的な名声を得た1960年代の平面作品から1980年代以降の大型立体作品まで、作家の軌跡が見渡せる内容で構成し、平面から立体へと展開した斎藤の思考の過程を検証した。

展示室 H 版画の魅力

関野準一郎：「『棟方志功像』創作の秘密」

高木志朗：「日本の色と形」

第一期は、関野準一郎（せきの・じゅんいちろう 1914 - 1988）が世界に飛び出した大先輩を描いた『棟方志功像』を、版木や色版（摺り重ねの状態が分かるように一部の版木だけを摺った見本）などの貴重な資料とともに展示して創作の秘密に迫った。

また、日本の色と形を追求した高木志朗（たかぎ・しろう 1934 - 1998）の大型で色彩鮮やかな作品世界も紹介。

展示室 F 奈良美智：「ニュー・ソウルハウス」

展示構成：奈良美智 + graf

ソウルのロダン・ギャラリーで展示したソウルハウスが、三層構造から美術館の空間に合わせてアレンジされ、並列に変わった。小屋の内部には県立美術館のコレクションを展示。別棟では「Hula Hula Garden」も展示。

展示室 G 「寺山修司という虚構」

展示デザイン：小竹信節 監修：九條今日子 進行：笹目浩之

設営：C-COM コーディネート：(株)テラヤマ・ワールド
短歌、俳句、詩、劇作、シナリオ、評論、映画と幅広いジャンルで活躍した寺山修司は、1967年に演劇実験室「天井桟敷」を設立して、アングラ文化、そして前衛芸術の旗手として圧倒的な支持を集め現在に至っている。

本コーナーでは、元夫人で天井桟敷プロデューサーだった九條今日子氏、天井桟敷の舞台美術を手がけた小竹信節氏及び(株)テラヤマ・ワールドの協力によって、展示室内に寺山修司的な虚構世界を構築し、コレクションであるポスター18点を展示した。

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」

※ 開館記念展「シャガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」開催中は企画展展示室として使用し、「第3幕 ある夏の午後の麦畑」（フィラデルフィア美術館蔵）をあわせて展示した。

第2期：2006年9月26日（火）－12月24日（日）

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室 「花深処無行跡（はなふかきところぎょうせきなし）－板画家 棟方志功の世界」

展示協力：（財）棟方板画館、（財）棟方志功記念館

棟方は、「版画」は板による表現であるとし「板画」と称していた。棟方の芸術活動はその板画のみにとどまらず、倭画（肉筆画）、油絵、書など多岐に亘り、生涯精力的に制作に取り組んでいる。

「花深処行跡無」とは棟方が好んで用いた言葉の一つである。「大自然の中では、人の足跡などすぐに消されてしまう」または、「独自の世界を切り開いた芸術家には先をゆくものもなく、また他者の追従をも許さぬ孤独がある」といった意味に解釈される。棟方は、仏教の「他力」という思想に制作の原点を置いていたが、「個人の考えることなどは宇宙大自然の中では、小さなものである。」と縦横無尽に彫刻刀や筆を揮い、他に類を見ない独特の世界を創り上げたのだ。

展示室 O 青森の洋画と彫刻：松木満史と鷹山宇一 / 小坂圭二
木造町出身の松木満史（1907－1971）と七戸町出身の鷹山宇一（1908－1999）の二人は、青森県の洋画の歴史のなかでもひととき重要な役割を果たした画家達で、棟方志功の親しい友人でもあった。まだ十代後半だった松木と棟方志功はともに語らって、年、青光画社展という公募展を開催、翌年から青森中学の学生であった鷹山も出品するようになり、美術の道を歩み始めている。

のち松木満史は国画会、鷹山宇一は二科会を中心に活躍。松木満史は1938年から翌年末までフランスに学ぶが、ここに展示した3点のうち留学前の「少女」とその後の明るい光に満たされた2点の作品には大きな作風の変化がみられよう。鷹山宇一は戦前からシュールレアリスムの版画作品で九室会など二科会の前衛運動の一翼を担っているが、ここでは戦後の油彩画4点を展示している。代表作の一つ、『海濱の花』では、薄い絵の具を繰り返し塗り重ねられた表面が透明で深みのある独特の質感を作り上げている。

彫刻家の小坂圭二（こさか・けいじ 1918－1992）は学徒出陣で苦渋に満ちた戦争を過ごした後、キリスト教信者として独自の造形の宗教的な彫刻を制作している。

展示室 M 青森県の日本画：「野澤如洋」

野澤如洋（のざわ・じょよう 1865－1937）は弘前生まれで、同じく弘前出身の蔦谷龍岬と並んで、戦前の青森県を代表する日本画家である。如洋は明治以降成立した横山大観らの新しい「日本画」の陰にかくれて、時代遅れになりつつあった伝統的な線描を重視した水墨画の技法にこだわり、独自の道を歩み続けた。とくに生命力にあふれた馬の絵により、「馬の如洋」として有名であるが、展示作品のような山水画もまた、彼の優れた技量を十分に発揮する得意とした主題の一つである。

展示室 K 工藤哲巳：「あなたの肖像」

工藤は1960年代から70年代にかけて、過去の栄光にすぎただけで不能化されたヨーロッパ社会を痛烈に批判し、「あなたの肖像」シリーズを制作した。「あなたの肖像」は、ヨーロッパの愚かなあなたたち、これがあなたがたの姿ですよ、と挑発している。工藤は、自分は美術作品を作っているつもりはないとして、自らの作品を「社会評論の模型」と呼んでいる。

展示室 H 版画の魅力 色彩とモノトーン

第2期は海外版画の優品から、色彩とモノトーンの対照的な世界を紹介。“色彩の魔術師”アンリ・マティス（1869－1954）の版画集「ジャズ」は踊るような色彩と形のリズムに心が浮き立つ連作である。一方、レンブラント・ファン・レイン（1606－1669）やオディロン・ルドン（1840－1916）は、微妙な濃淡を生かした白と黒の繊細な表現で静謐な世界を描き出し、カール・シュミット＝ロットルフ（1884－1976）はおなじ白と黒でも、対比をはっきりさせた表現で力強い造形を作り出している。

第3期：2007年1月1日（月）－4月8日（日）

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室 棟方志功 挿画の魅力

展示協力：(財)棟方板画館、(財)棟方志功記念館

棟方の版画による挿画としてよく知られている谷崎潤一郎の『鍵』や『瘋癲老人日記』をはじめ、江戸川乱歩の『犯罪幻想』を展示。折本形式の『鍵板画冊』も珍しく、『犯罪幻想』は希少な作例である。白と黒の世界で的確に各場面を表現する棟方挿画の魅力を紹介。

展示室 O 青森の彫刻：小坂圭二

彫刻家の小坂圭二（こさか・けいじ 1918－1992）は野辺地町出身。中学時代に教員としてきていた画家の阿部合成に教えをうけ、美術家の道を志す。1938年、兵役で中国へ。1942年東京美術学校彫刻科に入学し、柳原義達に師事したが、翌年からラバウルに出征し、激戦地で苦渋に満ちた戦争を体験している。帰国後復学。新制作展に出品。1952年には敬愛する高村光太郎の助手として十和田湖畔の「乙女の像」の制作に携わっている。38才で洗礼をうけ、さらに2年間のフランス留学を経て、キリスト教徒として、芸術家としての思索を深め、独自の造形の宗教的な彫刻を制作した彫刻家である。

展示室 O 青森の洋画：橋本花

橋本花（はしもと・はな 1905－1983）は青森県青森市生まれで、本県出身の女性洋画家の草分けのひとりであり、佐伯米子、深沢紅子らと新美術家団体連盟、三岸節子らと七彩会など女流洋画家団体の結成に多参加している。

帝展で若くして入選を重ねた油彩画家としての実力を紹介するため、原子はな子時代の『卓上静物』や、戦前の『兵士の図』を展示。また、1940年から2年間従軍画家として東南アジアに滞在中に描かれた『マニラ湾の落日』も紹介。戦後は、1961年から2年にわたり、南米およびヨーロッパを遊学。はなやかなブラジルの『カーニバル』などの題材にその折の経験が生かされている。

名前のとおり「花」を愛した花は、晩年は小品をふくめ数多くの花を描いている。『椿』や『春の山道』といった作品にはそうした対象に寄せる画家の愛情が感じられよう。また、遺作となった『津軽風景』は、郷土の自然との一体感が感じられる不思議な魅力に満ちた作品である。

展示室 M 青森県の日本画：須藤尚義

※ 2007年2月25日までの展示

須藤尚義（すとう・なおよし 1902－1956）は青森県田舎館村生まれ。小学校4年生で東京に転居し、村上委山や松林桂月に師事。1928（昭和3）年からは蕨谷龍岬の「鐸鈴社」に入ります。1930（昭和5）年に「山荘の朝」、翌年には「勸行の夕」で帝展入選。龍岬の死後は小室翠雲、川合玉堂、児玉希望、川端龍子、中村岳陵に師事。一方、「青丘社」を主宰し、小山内尚城、佐藤潔、渡辺星人、一戸重太など青森県内の若手画家の育

成にも努めました。

展示作品の『鶴と牡丹』は、鶴の群と、咲き乱れる牡丹の花を大胆な構図と華麗な色彩で組み合わせ、鶴の目には金泥を、地面の表現には銀箔を散らすなど、大変華やかな画面を持つ作品である。

右隻には薄桃色の牡丹を背景に、赤い頭頂部で、純白と漆黒の羽をもつ北に多く棲む丹頂鶴が、また、左隻には紅白の牡丹に顔が赤く体が灰色の、南国で越冬をする真鶴が描かれている。左右対照的な構図をとりながらも、鶴の動きに変化をつけ、顔の表現を様々に描き分けることによって画面が単調におちいることが避けられている。また色彩的にも微妙な色調の差を与えることで、二種の鶴が棲む風土の違いを巧みに描き分けている。

展示室 M 青森県の日本画：工藤甲人

※ 2007年2月27日より展示

戦後を代表する日本画家の一人である工藤甲人（くどう・こうじん 1915－）は、ボッシュやブレイクといった西洋の幻想的な美術に大きな影響を受け、伝統的な日本画を脱した独自の画境をひらいている。創造美術、新制作、創画会を活動の場とし、現在も毎年創画展への出品を続けている。企画展「工藤甲人展」の開催に先駆け、工藤甲人の1990年代初頭の屏風作品を紹介した。

展示室 K 工藤哲巳：「前衛芸術家の魂」

工藤は戦後の日本美術に新しい流れをつくった「反芸術」のホープとして活躍。東京芸大卒業後、1962年パリに渡り、晩年、1987年に東京芸術大学教授となり帰国するまでの20数年間、ヨーロッパの閉塞した社会をショッキングな表現方法で挑発し続け、その活動は高く評価されている。1990年に急逝するまでの55年という短い生涯、「生きる」ということについて真摯に問い続け、駆け抜けた作家である。

展示室 H 版画の魅力：青森の四季と雪景色

第3期は、一年の始まりにあわせたシリーズと雪景色を特集した。季節の変化がはっきりとしている青森の風景や風俗を一年を通して色鮮やかに描いた連作、そして作家たちがそれぞれに工夫を凝らした冬景色を展示。

旅順博物館展 — 西域仏教文化の精華 —

Treasures from Lushun

開催概要

会期：2007年7月14日（土）－8月26日（日）

主催：旅順博物館展実行委員会（東奥日報社、青森県、青森市、NHK青森放送局、龍谷大学）、大連市、旅順博物館、大連日報社

後援：外務省、文化庁、中国大使館、共同通信社、全国新聞社事業協議会、青森県教育委員会、全日本仏教会、青森県仏教会、青森県日中友好協会、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、八戸テレビ放送、エフエム青森

協賛：青森銀行、みちのく銀行、王子製紙株式会社、日本製紙株式会社、東北電力、東京電力、電源開発、日本原燃、塩原貨物、日本たばこ産業（株）盛岡支店、日本通運関東美術品支店、スズキ自販青森、青森総合警備保障、あおぎんディーシーカード、あおぎんリース、北方商事、青森三菱ふそう自動車販売

協力：日本航空、日本通運、JR東日本、JR北海道、JRバス東北
観覧料：

一般 1,700円（1,400円）、大学生・高校生 800円（600円）、中学生・小学生 400円（300円）

※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金

入場者数

30,065人

関連企画

記念講演会「旅順博物館展の楽しみ方」

日時：2007年8月8日（水）14：00－15：00

会場：県立美術館シアター

講師：王智遠（旅順博物館副館長）

随員解説（ギャラリー・トーク）

日時：会期中の毎週土・日曜日及び祝日

(1) 10：00－ (2) 14：00－

場所：企画展示室

講師：旅順博物館随員

カタログ

I 旅順博物館展図録

仕様：29×22.5cm、160頁

監修：郭富純、葛華（旅順博物館）/ 上山大峻、三谷真澄（龍谷大学）

執筆：王振芬、王嗣洲、孫伝波、孫恵珍、陰会蓮、楊煜、郭富純、葛華（旅順博物館）/ 上山大峻、三谷真澄（龍谷大学）

協力：入澤崇、徐光輝、橘堂晃一、田村俊郎（龍谷大学）、海燕（大阪教育大学大学院）、三好徹（青森県立美術館）、工藤千寿子

企画・制作・発行：旅順博物館展実行委員会（東奥日報社、青森県、青森市、NHK青森放送局、龍谷大学）

デザイン：セキオカヒロユキデザイン

印刷・製本：東奥印刷

内容：

- ・主催者あいさつ
- ・旅順博物館館長あいさつ
- ・郭富純
「旅順博物館所蔵品概要」
- ・葛華、孫伝波
「90年の変遷と発展 — 旅順博物館小史 —」
- ・王振芬
「多彩なシルクロードの文化財」
- ・展示品解説
- ・上山大峻
「大谷探検隊とその蒐集品」
- ・三谷真澄
「旅順博物館所蔵漢文仏教写本が示すもの」
- ・略図
- ・略年表
- ・出品リスト
- ・参考文献

II 龍谷大学所蔵西域文化資料展図録

仕様：29×22.5cm、64頁

監修：入澤崇（龍谷大学経営学部教授）、三谷真澄（龍谷大学国際文化学部准教授）、橘堂晃一（龍谷大学非常勤講師）

企画・制作・発行：旅順博物館展実行委員会（東奥日報社、青森県、青森市、NHK青森放送局、龍谷大学）

印刷・製本：東奥印刷

内容：

- ・ごあいさつ
- ・龍谷大学と西域学
- ・龍谷大学所蔵資料展示品
- ・仏教と科学の邂逅 — 古典籍デジタルアーカイブ研究センターの挑戦
- ・龍谷大学所蔵資料展示品一覧
- ・参考文献
- ・大谷探検隊踏査ルート



ポスター



展示風景

中国・大連市にある旅順博物館は1917年の設立、今年90周年を迎える中国でも有数の博物館である。コレクションの数は6万点におよび、考古遺物から美術資料まで多彩かつ豊富なことで知られており、なかでも西本願寺門主大谷光瑞が組織し、明治～大正期に3回にわたり派遣されたいわゆる大谷探検隊の将来品である新疆出土文物は貴重なコレクションとなっている。

旅順博物館のコレクションは、日本でも過去数回紹介されているが、今回の展示点数100点のうち約半数は日本初公開となり、また中国の国宝に当たる一級文物は初公開5点を含む15点が展示された。旅順博物館が海外で開催する展覧会としては、今回が過去最大規模となり、本展覧会は、東奥日報社が大連日報社の協力を得て企画し、大連市と経済・文化交流を推し進めている青森県・青森市などが実行委員会に加わり開催されたものである。

展示構成としては、①中国近代考古学発祥の地といわれる大連から発掘された「大連地区出土品」、②青銅器、仏像、陶磁器、漆器、瑠璃器など、殷代から清代にわたる中国歴代の芸術品か

らなる「総合文物」、③大谷探検隊の将来品である陶器、木器、泥塑、貨幣、仏画・仏像、仏典断片、織物などからなる「新疆文物」となっている。

本展の学術的な意義を大きく高めたのが仏典断片である。大谷探検隊が収集した仏典の断片が「藍冊」と呼ばれる青い表紙の折本に貼付され旅順博物館に収蔵されているが、その中に、年代が入った仏典写本としては世界最古級の写本があることがわかり、本展での公開が世界初となる。296年書写の『諸仏要集経』の断片で、仏教伝来の過程を示す貴重な証拠で、本展実行委員会のメンバーでもある龍谷大学と旅順博物館との共同研究の成果である。

今回の展覧会は東奥日報社が大連日報社の協力を得て企画したものであり青森県及び青森市と大連との文化・経済交流の一環として、大連及び旅順博物館を青森県民に広くアピールすることができたこと、当館と旅順博物館との交流促進につながったことなど、多くの成果が得られた。

出品作品

【大連地区出土品】

- 1
玉牙壁
吳家村
新石器
玉
直径 6.5 厚 0.5
1 級文物
- 2
玉鳥
北吳屯
新石器
玉
長 6.4 幅 2.5 厚 0.5
- 3
石矛
瓦窩鄉
西周
石
長 121 幅 5.8
1 級文物
- 4
銅盃
元台鎮
前漢
銅
高 16 胴徑 16.5
- 5
提梁銅壺
魯家村
前漢
銅
高 12.5 口徑 8.1 胴徑 16
- 6
彩文陶壺
花兒山鄉
前漢
陶
高 41.3 胴徑 33.5
- 7
朱雀陶灯
鉄山鎮
後漢
陶
高 24.2 盤徑 26.4
- 8
切妻屋根式陶屋
鉄山鎮
後漢
陶
高 26.5 幅 33.5

- 9
彩文陶樓
營城子鎮
魏・晋
陶
高 54
- 10
万字田欄銅火鉢
營城子鎮
遼
銅
高 24.5 口徑 37
1 級文物
- 11
白釉褐花小口四系瓶
春花山鎮
金
磁器
高 50 口徑 8.1 胴徑 42
- 【総合文物（歴代芸術品）】
（青銅器）
- 12
獸面文爵
殷（商）
青銅
高 18.8
- 13
父辛甗
殷（商）
青銅
高 36.3 直径 22.9
- 14
田告壘
西周
青銅
高 43.6 口徑 18.82 胴徑 16.8
1 級文物
- 15
雲雷文甬鐘
春秋
青銅
高 48.5 幅 30
- 16
虎鈕錡于
戦国
青銅
高 59.1 肩徑 33.1 底徑 26.6
1 級文物
- 17
銅鼓
後漢
青銅
高 43.9 面徑 79.5
- （仏像）
- 18
石彫菩薩頭部
龍門石窟
北魏
石
高 60.2 幅 24.5

- 19
石彫仏像頭部
龍門石窟
北魏
石
高 80.03 幅 134
- 20
木彫觀音菩薩像頭部
宋
木
高 33.1 幅 31
- 21
鉄製菩薩像頭部
金
鉄
高 26.5 幅 23
- 22
銅製釈迦牟尼仏立像
明
銅
高 242 幅 74.6
1 級文物
- 23
漢白玉雕羅漢像
明
漢白玉
高 75.1 幅 51.2
- 24
漢白玉雕羅漢像
明
漢白玉
高 83.8 幅 43.1
- 25
漢白玉雕羅漢像
明
漢白玉
高 86.5 台座幅 42
- （陶磁器）
- 26
灰陶馬
前漢
陶
高 70 長 72
- 27
青釉穀倉罐
西晋
磁器
高 41 胴徑 26.6
- 28
三彩舞馬
唐
陶
高 40.1 長 45
- 29
磁州窯白地黒花習字枕
宋
磁器
高 11 長 29.4

- 30
青花五彩魚藻文魚缸
明
磁器
高 24.2 口徑 54.3
- 31
粉彩八宝文寶壺
清
磁器
高 19.4 胴徑 10.5 口徑 8
- 32
斗彩雲龍文蓋罐
清
磁器
高 20.8 胴徑 19.7
- （漆器・瑠璃器・その他）
- 33
填漆戲金雲龍文菊弁盆
清
木
直径 45.8 高 19
- 34
掐絲瑠璃獸面文出戟方觚
清
銅
高 35 底幅 11.7 口幅 17.6
- 35
螺鈿八宝花式攢盒
清
木
高 8.2 一辺 36.8
- 36
螺鈿八宝花式攢盒
清
木
高 8.3 直径 39.5
- 【新疆文物】
（陶器）
- 37
彩文陶罐
トユク
高昌
陶
高 18.2 胴徑 17 口徑 9.7
- 38
彩文三足陶鉢
トユク
高昌
陶
高 17.3 口徑 25.1
- 39
彩文陶碗
新疆
高昌
陶
高 9.3 口徑 15.2 底徑 7.2

40 彩文陶碗 トユク 高昌 陶 高 9.7 口径 16.1 底径 8.8	49 泥塑彩色文吏俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 31	58 泥塑彩色奏楽俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 9.1	68 高昌吉利銭 新疆 高昌 青銅 直径 2.6 厚 0.2
41 灰陶人面文執壺 トルファン 唐 陶 高 27.5 胴径 15.5 口径 8.7	50 泥塑彩色武士俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 31	59 泥塑人面 新疆 唐 泥塑 高 15.3 幅 11.3	69 高昌吉利銭 新疆 高昌 青銅 直径 2.6 厚 0.2
42 紅陶執壺 新疆 唐 陶 高 31.7 胴径 17.3	51 泥塑彩色武士俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 31.7	60 陶人頭像 新疆 唐 焼成粘土 高 5.2	70 クシャーン朝銅貨 新疆 1-3 世紀 銅 直径 2.3 厚 0.25
(木器) 43 彩文木碗 トユク 高昌 木 高 6.8 口径 12.7 底径 9.1	52 泥塑彩色侍女騎馬俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 36 幅 29.2 1 級文物	61 陶人頭像 新疆 唐 焼成粘土 高 6.2	71 クシャーン朝銅貨 新疆 1-3 世紀 銅 直径 2.23 厚 0.3
44 彩文木罐 新疆 唐 木 高 14.7 口径 10.17 底径 9.5	53 泥塑彩色武士騎馬俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 34.3 幅 31	62 陶人頭像 新疆 唐 焼成粘土 高 5	72 クシャーン朝銅貨 新疆 1-3 世紀 銅 直径 1.75 厚 0.2
45 彩文高坏 新疆 唐 木 高 12.3 口径 12 底径 9.6	54 泥塑彩色文吏騎馬俑 新疆 唐 泥塑 高 34.5 幅 31.2 1 級文物	63 泥塑彩色唐草文様飾り 新疆 唐 泥塑 長 27.2 高 9.5	73 カラハン朝銅貨 ホータン 9-13 世紀 銅 直径 3.5 厚 0.1
46 彩色蓮華文板 新疆 唐 木 高 84 幅 57.5	55 泥塑彩色侍女俑頭部 カラコージャ 唐 泥塑 高 17.5 1 級文物	64 泥塑彩色鳳凰文様飾り 新疆 唐 泥塑 長 21.4 高 13.5	74 カラハン朝銅貨 カシュガル 9-13 世紀 銅 直径 3.5 厚 0.1
47 木彫葡萄文門楣 ロブ沙漠 唐 木 長 177 幅 24 1 級文物	56 泥塑彩色侍女俑頭部 新疆 唐 泥塑 土台付高 33	(貨幣) 65 シノ=カローシュティ-銭 ホータン 漢 銅 直径 1.72 厚 0.22	75 カラハン朝銅貨 ホータン 9-13 世紀 銅 直径 3.5 厚 0.1 (仏画・仏像)
(泥塑) 48 泥塑彩色文吏俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 31.6	57 泥塑彩色奏楽俑 カラコージャ 唐 泥塑 高 10.2	66 シノ=カローシュティ-銭 ホータン 漢 銅 直径 1.72 厚 0.22	76 印沙仏(木版仏画)断片 カラコージャ 唐 紙 28.8×18.8-15.3×10
		67 高昌吉利銭 新疆 高昌 青銅 直径 2.6 厚 0.2	

77 菩薩画断片 ヤールホト 唐 麻 縦 56.1 横 77.6 1 級文物	86 漢文仏典写本断片冊 新疆 紙 縦 45.4 横 30.05	96 彩色龍型切り絵断片 カラコージャ 唐 紙 長 85 最大幅 26.5	6 青龍 (大谷文書 N0.2988) トルファン 8 世紀 紙 縦 11.0 横 3.5
78 延寿命長寿王菩薩像断片 トユク 唐 絹 縦 102.6 横 59.5 1 級文物	87 漢文仏典写本断片冊 新疆 紙 縦 45.4 横 30.05	97 花鳥画断片 新疆 唐 絹 縦 34.5 横 18	7 青龍 (大谷文書 N0.2391) トルファン 8 世紀 紙 縦 29.0 横 42.0
79 延寿命菩薩画像 ヤールホト 唐 麻 縦 37.5 横 37.5 1 級文物	88 漢文仏典写本断片 新疆 唐 紙 縦 18 横 49.5	98 手印文長方磚 新疆 唐 レンガ 縦 33.5 横 15	8 朱晒地連壁鳥形文綿 トルファン 唐 錦 縦 3.6 横 3.7
80 阿弥陀浄土变相図断片 トユク 唐 絹 縦 59.8 横 41.8 1 級文物	89 漢文仏典写本断片 新疆 唐 紙 縦 16.3 横 100.4	99 蓮華文方磚 新疆 唐 レンガ 縦 37.5 横 36.5	9 白地連壁鬮羊 (天馬) 文綿 トルファン 唐 錦 縦 9.6 横 7.3
81 仏坐像 ホータン 5-7 世紀 ストウッコ 高 15.3 幅 14.3	90 仏典版本断片 新疆 遼 紙 縦 27.7 横 15.5 (織物)	100 木彫半身武士俑 カラコージャ 唐 木 高 11.5 ◎龍谷大学所蔵資料	1 西域考古図譜上・下 1915 紙 縦 45.5 横 33
82 蓮華童子像 ホータン 3-4 世紀 ストウッコ 高 13.42 幅 10.8	91 褐地連珠鷹文錦 カラコージャ 唐 錦 縦 24 横 21	2 二楽叢書 (全 4 冊) 1912-13 紙 縦 22.5 横 15	2 二楽叢書 (全 4 冊) 1912-13 紙 縦 22.5 横 15
83 彩色菩薩頭像 クムトラ千仏洞 唐 泥塑 高 15.3 幅 11.3 (仏典断片)	92 夾縹菱花文幅片 新疆 唐 絹 縦 104 横 41.5	3 大谷文書 N0.7004 トルファン? 唐 紙 縦 9.5 横 25.3	3 大谷文書 N0.7004 トルファン? 唐 紙 縦 9.5 横 25.3
84 サンスクリット語『妙法蓮華経』写本断片 ホータン 5 世紀 紙 縦 13 横 16.7	93 夾縹菱花文幅脚片 新疆 唐 絹 縦 102 横 4.7	4 青龍 (大谷文書 N0.2977) トルファン 8 世紀 紙 縦 14.0 横 20.0	4 青龍 (大谷文書 N0.2977) トルファン 8 世紀 紙 縦 14.0 横 20.0
85 トカラ語仏典断片 クチャ? 6-8 世紀 紙 縦 5.5 横 26.6	94 麻地彩色藻井 新疆 唐 麻 直径 83 (その他)	5 青龍 (大谷文書 N0.2387) トルファン 8 世紀 紙 縦 17.0 横 23.0	5 青龍 (大谷文書 N0.2387) トルファン 8 世紀 紙 縦 17.0 横 23.0
	95 解氏墓表 カラコージャ 高昌 陶 縦 36.5 横 36 厚 4.5 1 級文物		

掲載記事

龍谷大学新聞

2007年7月号

〔旅順博物館展〕西域仏教に関する本学所蔵
品9点を参考展示として出陳

東奥日報

2007年6月14日－7月28日

【連載】耀く名品 旅順博物館展 1－25
(展示品紹介)

2007年6月14日－16日

【連載】旅順博物館展に寄せて 上・中・下
(葛華副館長<旅順博物館>)

2007年6月27日－7月4日

【連載】西域 人と歴史 1－7

2007年7月9日－14日

【連載】西域仏教文化の精華 旅順博物館
に寄せて (入澤崇・三谷真澄・橘堂晃一<
龍谷大学>)

2007年8月1日－3日

【連載】非漢字資料と西域仏教 旅順博物館
展に寄せて 上・中・下 (松井太<弘前大
学>)

2007年8月8日－15日

【連載】見ました旅順博物館展 1－6

2007年8月16日－21日

【連載】イラストで見る旅順博物館展 1－6

秋田魁新報

2007年6月30日

<土曜文化> 7月から旅順博物館展 西域
で出土の仏教文物展示 青森県立美術館

聖教新聞

2007年8月1日

旅順博物館展 西域仏教文化の精華 (三好
徹<青森県立美術館>)

本願寺新報

2007年6月10日

初公開の大谷探検隊資料も

週刊仏教タイムス

2007年7月19日

青森県立美術館 中国、旅順博物館展 西域
仏教文化の文物を陳列

書道界

2007年7月号

旅順博物館展 西域仏教文化の精華

舞台芸術の世界 —ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイナー—

A world of stage : Russian Designs for Theater, Opera, and Dance

開催概要

会期：2007年9月29日（土）－10月28日（日）
主催：舞台芸術の世界展実行委員会（青森県立美術館、青森放送、
陸奥新報社）

後援：ロシア連邦大使館

協賛：イマジン株式会社

協力：ANA、ルフトハンザドイツ航空、ルフトハンザドイツカ
ーゴAG

企画協力：アートインプレッション

観覧料：

一般 800円（700円）、大学生・高校生 560円（460円）、
中学生・小学生 320円（220円）

※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金

※ アレコホール以外の常設展観覧料は含まない

入場者数

6,282人

展覧会

監修：アラ・ローゼンフェルド（ニューヨーク・サザビーズ絵
画部門副部長、前シニア・キュレーター / ラトガーズ大学ジ
マリー美術館ロシア美術部門部長）

企画・構成：北海道立釧路芸術館、京都国立近代美術館、東京
都庭園美術館、青森県立美術館、アートインプレッション

関連企画

『アレコ』鑑賞のための特別プログラム

日時：会期中の毎日2回11：00－14：00－

アレコホールに常設展示中の『アレコ』背景画を特殊照明と音
楽を用いたストーリー解説により紹介する特別プログラム（約
15分程度）を実施

ダンス公演＋講演＋シンポジウム「バレエ・リュスとロシア・
アヴァンギャルドのタベ」

日時：10月6日（土）14：00－17：00

会場：展示室E

・ダンス公演「バレエ・ピオメハニカ / BALLET
BIOMECHANICA」

演出・振付・美術：豊島重之（モレキュラーシアター芸術監督）

出演：モレキュラーシアター

・講演「ディアギレフからカバコフまで」

講師：鴻英良（演劇評論家・ロシア芸術思想）

・シンポジウム「バレエ・リュスが今日の芸術にもたらしたもの」

出席：鴻英良、大久保一恵（ダンスアーティスト）

進行：豊島重之

ワークショップ「マトリョーシカを作ろう」

日時：9月22日（土）13：00－16：00

会場：ワークショップA

講師：對馬眞（当館エドゥケーター）

銅版画ワークショップ「アレコのことば」

日時：10月20日（土）－21日（日）10：00－16：00

会場：ワークショップB、屋外創作ヤード

講師：乗田菜々美（実行委員会スタッフ）

記念講演会「バレエ・リュスから『アレコ』へ —新しいバレ
エ世界—」

日時：10月7日（日）14：30－

会場：シアター

講師：芳賀直子（舞踊研究家）

ロシア映画上映

・「アエリータ」

日時：10月13日（土）13：00－14：54

・「戦艦ポチョムキン」

日時：10月13日（土）15：15－16：29

・「ホフマン物語」

日時：10月27日（土）10：00－12：04 / 14：30－16：34

ギャラリートーク

日時：10月7日・21日を除く会期中の毎週日曜日14：30－

場所：企画展示室

講師：板倉容子（当館学芸員）

カタログ

仕様：26×19 cm、247 頁

編集：柴勤、福地大輔（北海道立釧路芸術館）／河本信治、牧口千夏（京都国立近代美術館）／河合晴生、八巻香澄（東京都庭園美術館）／三好徹、板倉容子（青森県立美術館）／市川飛砂、中舘元也（アートインプレッション）

執筆：アラ・ローゼンフェルド、薄井憲二（バレエ史家）、芳賀直子（舞踊研究家）、三浦雅士（評論家）、鈴木晶（法政大学教授・舞踊史）

学術協力：芳賀直子

編集協力：鈴木正美（新潟大学教授）、平野恵美子（東京大学大学院・ロシア文化）

制作：印象社

発行：アートインプレッション

内容：

- ・アラ・ローゼンフェルド
「舞台芸術の世界：1990－1945年における演劇、オペラ、ダンスのためのロシア・デザイン」
- ・薄井憲二
「バレエ・リュスと私」
- ・三浦雅士
「北国の春－ロシア・バレエが花開いたとき」
- ・鈴木晶
「バレエ・リュスの歴史的意義」
- ・図版
ディアギレフのバレエ・リュス
ロシアの民族性を求めて
コメディア・デラルテ、カーニバル、キャバレー
伝統と実験
舞台を彩った人々
- ・主要作家解説
- ・主要演目解説
- ・バレエ史関連年表 芳賀直子編
- ・主要参考文献（邦語文献） 鈴木晶・平野恵美子編
- ・Selected Bibliography
- ・出品リスト



ポスター



展示風景 撮影：三澤章

20世紀ロシアの舞台芸術における革新的なデザインの動向を、ニューヨーク、パリ、ロンドン、サンクトペテルブルク、そして日本国内から集められた舞台や衣装のためのデザイン画、当時の舞台衣装、ポスター、上演プログラム、再演映像など約190点の作品資料により紹介する展覧会を開催した。

本展は、総合芸術としてのバレエを標榜した興行主セルジュ・ディアギレフにより1909年に旗揚げされ、20世紀初頭のヨーロッパ芸術界に大きな衝撃をもたらしたバレエ・リュスの活動の中でも、ロシア人アーティストが深く関わった初期の活動を取り上げるとともに、当時のロシアにおけるキャバレー（舞台付きのカフェ、レストラン）での先進的な試み、さらには第一次大戦やロシア革命を機に世界各国へ渡った亡命ロシア人舞台芸術家達の活動を紹介するなど、20世紀前半のロシア舞台芸術の全貌を包括的に紹介しようとする内容であった。

当館は、ロシア人画家マルク・シャガールが、第二次大戦中のアメリカ亡命時代にバレエ・シアター（現：アメリカン・バ

レエ・シアター）の依頼により制作したバレエ「アレコ」の背景画3点を収蔵しており、開館記念展「シャガール：『アレコ』とアメリカ亡命時代」では、「アレコ」のダンサーの衣装や舞台美術デザイン画、「アレコ」上演映像などを紹介している。本展には、シャガールが初期ロシア時代に師事し、バレエ・リュスの舞台美術家として活躍した画家レオン・バクストの作品資料も出品されていることから、本展を「アレコ」のルーツを辿る展覧会と位置づけ、「アレコ」に対する理解をより深めてもらうことも意図された。

20世紀ロシアの舞台芸術という一般的な認知度の低い内容であったことから、総観客数としては伸び悩んだが、20～30代の若い層の、特に女性の観客が多かったことや、また当時の舞台衣装を数多く見たいという意見が多く寄せられたことを記しておきたい。

なお、本展は当館の他、北海道立釧路芸術館、京都国立近代美術館、東京都庭園美術館に巡回された。

出品作品

1	レオン・バクスト ミハイル・フォーキンのための「アムーン」の衣装 (バレエ『エジプトの夜』より) 絹、紋織り、金属、ヴェニス真珠 (人造真珠)、アブリケ サントペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	8	レオン・バクスト 「海賊」の衣装デザイン (バレエ『ダフニスとクロエ』より) 1912年 グワッシュ、鉛筆、金属の着彩・紙 27.0×25.2 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	15	タマラ・カルサヴィナ (バレエ『シェエラザード』より) 1922年 磁器 高さ：22.9 衣装デザイン：レオン・バクスト 制作：D. イワノフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	24	アレクサンドル・ブノフ アポテオーズ (大団円) の舞台デザイン (バレエ『眠れる森の美女』より) 1953年 ペンに墨、水彩、グワッシュ・紙 29.0×46.5 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵
2	レオン・バクスト 「黒人奴隷の少年」の衣装デザイン (バレエ『クレオパトラ (エジプトの夜)』より) 1909年 グワッシュ、水彩、銀彩と金彩、鉛筆・厚紙に裏打ちされた透かし紙 43.2×27.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	9	レオン・バクスト 「槍持ち」の衣装デザイン (バレエ『クレオパトラ (エジプトの夜)』より) 1912年 水彩、金彩、銀彩・紙 27.9×25.2 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	16	アレクサンドル・ブノフ 女性の衣装 (バレエ『アルミードの館』より) 絹、紗、タッセル、房べり、レース、アブリケ サントペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	25	ワツラフ・ニジンスキー (バレエ『アルミードの館』より)「奴隷」役 1909年 磁器 高さ：38.0 衣装デザイン：アレクサンドル・ブノフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
3	レオン・バクスト 男性の衣装 (バレエ『シェエラザード』より) 絹、サテン、彩色 サントペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	10	レオン・バクスト 「ディアナの踊り」の衣装デザイン 1920年頃 ステンシル・紙 20.0×30.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	17	アレクサンドル・ブノフ 男性の衣装 (バレエ『アルミードの館』より) 絹、金属糸 サントペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	26	ミハイル・ラリオノフ 舞台幕デザイン (バレエ『真夜中の太陽』より) 1915年 グワッシュ、水彩・厚紙に裏打ちされた紙 30.4×35.6 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
4	レオン・バクスト 「アラジン」の衣装デザイン (バレエ『シェエラザード』より) 1910年 水彩・紙 25.4×15.2 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	11	レオン・バクスト 「イワン」の衣装デザイン (バレエ『眠れる森の美女』より) 1921年 水彩、鉛筆・紙 52.8×33.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	18	アレクサンドル・ブノフ 「二人の廷臣」の衣装デザイン (バレエ『アルミードの館』より) 木炭、水彩、グワッシュ・紙 31.3×24.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	27	ジョルジュ・バルビエ 版画集「ワツラフ・ニジンスキー」 注釈：フランシス・ド・ミオマンドル ラ・ベル・エディション (フランス) 刊 1913年 リトグラフ・紙 各 33.2×28.0 限定 400部 兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエコレクション
5	レオン・バクスト 「若い王」の衣装デザイン (バレエ『青い神』より) 1911年 水彩、グワッシュ、鉛筆・紙 28.5×21.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	12	レオン・バクスト ワツラフ・ニジンスキーのための衣装デザイン (バレエ『ナルシス』より) 1924年頃 53.0×40.0 金属の着彩、ステンシル・紙 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	19	アレクサンドル・ブノフ 「バレリーナ」の衣装 (バレエ『ペトルーシュカ』より) ピロード、絹、木綿、人工毛皮、レース、房べり、彩色 サントペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	27-1	表紙：「アルルカン」(『カルナヴァル』より) 27-1 「金の奴隷」と「ゾベイダ」(『シェエラザード』より) 27-2 「金の奴隷」と「ゾベイダ」(『シェエラザード』より) 27-3 「金の奴隷」(『シェエラザード』より) 27-4 「薔薇の精」と「少女」(『薔薇の精』より) 27-5 「ピエロ」と「アルルカン」と「コロンビーヌ」(『カルナヴァル』より) 27-6 「バレリーナ」と「ペトルーシュカ」(『ペトルーシュカ』より) 27-7 「火の鳥」(『饗宴』より) 27-8 「若い詩人」(『レ・シルフィード』より) 27-9 「牧神」(『牧神の午後』より) 27-10 「若者」(『クレオパトラ』より) 27-11 「若者」(『オリエントル』より) 27-12 「ナルシス」(『ナルシス』より)
6	レオン・バクスト ワツラフ・ニジンスキーのための衣装デザイン (上演されなかったバレエ『ベリ』より) 1911年 水彩、銀彩、鉛筆・透かし紙 33.0×21.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	13	タマラ・カルサヴィナとワツラフ・ニジンスキー (バレエ『カルナヴァル』より) 1915年頃 磁器 高さ：27.9 衣装デザイン：レオン・バクスト 制作：フォルクシュテット＝ルドルシュタット ルードビッヒ・カイナーの画集「ロシアバレエ」(1913年、ライプチヒ、ヴォルフ社刊) 中のリトグラフをもとに作成 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	20	アレクサンドル・ブノフ 「大道芸人」の衣装 (バレエ『ペトルーシュカ』より) ピロード、絹、サテン、木綿、アブリケ、彩色 サントペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	27-12	「ナルシス」(『ナルシス』より)
7	レオン・バクスト アンナ・パブロワのための衣装デザイン (バレエ『東洋の幻想』より) 1913年 水彩、グワッシュ、鉛筆・紙 48.0×33.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	14	タマラ・カルサヴィナ (バレエ『火の鳥』より) 1922年 磁器 高さ：29.0 衣装デザイン：レオン・バクスト 制作：D. イワノフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	21	アレクサンドル・ブノフ 「バレリーナ」の衣装デザイン (バレエ『ペトルーシュカ』より) 鉛筆、インク、水彩・紙 32.0×25.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	27-12	「ナルシス」(『ナルシス』より)
				22	アレクサンドル・ブノフ 「ペトルーシュカ」の衣装デザイン (バレエ『ペトルーシュカ』より) 鉛筆、水彩・紙 30.2×23.5 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵		
				23	アレクサンドル・ブノフ 「ムーワ人」の衣装デザイン (バレエ『ペトルーシュカ』より) 鉛筆、水彩・紙 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵		

28	ロバート・モンテネグロ 版画集『ワツラフ・ニジンスキー』 前文：C.W. ボーモン C.W. ボーモン、カンパニー・ファイン・ア ート・パブリッシャー（イギリス）刊 1922年 リトグラフ・紙 各 38.0×28.5 限定 390部 兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエコレクション	33	アンナ・バヴロワとバレエ・リュスのアメリ カ・ツアーのプログラム 1924-1925年 表紙：アルヴィナ・ホフマンの浅浮彫 イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	41	レオン・バクスト 舞台デザイン（オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』 より） 1910年 グワッシュ、金属の着彩・厚紙に裏打ちされ た紙 38.1×63.5 スタヴロフスキー蔵、ニューニวยอร์ก	49	アレクサンドル・ゴロヴィン 「ラトミール」の衣裳デザイン（オペラ『ル スランのリュドミラ』より） 制作年不詳 水彩、金属の着彩、石膏・紙 33.0×25.0 アロノフ家蔵、ニューニวยอร์ก
28-1	「金の奴隷」（『シェエラザード』より）	34	『セルジュ・ディアギレフのバレエ・リュス（セ ットと衣裳）』 ビエール・ヴォルム、ギャラリー・ミリエ刊 1930年 イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	42	イワン・ビリーピン 「貴族」の衣裳デザイン（オペラ『皇帝の花嫁』 より） 1930年 水彩・紙 44.5×29.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	50	ナタリア・ゴンチャロワ 舞台デザイン（オペラ＝バレエ『金鶏』より） 1914年 水彩・厚紙 53.4×73.6 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵
28-2	「薔薇の精」と「少女」（『薔薇の精』より）	35	バレエ・リュス・ド・モンテカルロのプログ ラム 1939-40年 表紙：アンリ・マティス イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	43	イワン・ビリーピン 「マリユータ・スクラートフ」の衣裳デザイ ン（オペラ『皇帝の花嫁』より） 1930年 水彩・紙 44.5×29.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	51	ナタリア・ゴンチャロワ 「農夫」の衣裳デザイン（オペラ＝バレエ『金 鶏』より） 1914年 水彩、グワッシュ・厚紙 38.0×27.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵
28-3	「ペトルーシュカ」（『ペトルーシュカ』より）	36	バレエ・リュス・ド・モンテカルロのプログ ラム 1944-45年 表紙：ユージン・バーマン（エヴゲーニー・ ヘルマン） イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	44	イワン・ビリーピン ダッタン人（ボロヴェッ人）の集落の舞台デ ザイン（オペラ『イーゴリ公』より） 1930年 水彩・紙 40.6×58.4 スタヴロフスキー蔵、ニューニวยอร์ก	52	ナタリア・ゴンチャロワ 「農夫」の衣裳デザイン（オペラ＝バレエ『金 鶏』より） 1914年 水彩、グワッシュ・厚紙 38.0×26.5 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵
28-4	「青い神」（『青い神』より）	37	バレエ・リュス・ド・モンテカルロのプログ ラム 1942-43年 表紙：ボリス・アロンソン イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	45	イワン・ビリーピン 「ヤロスラーヴナ」の衣裳デザイン（オペラ『イ ーゴリ公』より） 1930年 水彩、グワッシュ、銀彩、金彩・紙 43.0×27.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	53	ナタリア・ゴンチャロワ 「使徒ヨハネ」の衣裳デザイン（上演されな かったバレエ『典礼』より） 1915年 ステンシル・紙 63.0×42.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューニويورك
28-5	「若い詩人」（『レ・シルフィード』より）	38	W. ド・バジル大佐のバレエ・リュスのプロ グラム 1935年 表紙：ジョルジュ・ド・ボジェダイエフ（ゲ オルギー・ボジェダイエフ） イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	46	アレクサンドル・ゴロヴィン フョードル・シャリアピンのための「ボリス・ ゴドゥノフ」の衣裳（オペラ『ボリス・ゴド ゥノフ』より） ピロード、サテン、紋織り、糊、ヴェニス真 珠（人造真珠）、金属糸のレース サンクトペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	54	ボリス・クストディエフ プロローグの舞台デザイン（オペラ『雪娘』 より） 1918年 水彩、鉛筆・厚紙に裏打ちされた紙 22.9×30.5 スタヴロフスキー蔵、ニューニويورك
28-6	「若者」（『遊戯』より）	39	『コメディア・イリュストレ』誌 1912年5月15日、4巻16号 表紙：レオン・バクスト（『牧神』を踊るワ ツラフ・ニジンスキー） 兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエコレクション	47	アレクサンドル・ゴロヴィン 女性の衣裳（バレエ『火の鳥』より） 絹、木綿、金属糸のレース、木、アププリケ、 彩色 サンクトペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	55	ジョルジュ・ド・ボジェダイエフ（ゲオルギ ー・ボジェダイエフ） 衣裳デザイン（演目不詳） 1930年 水彩・紙 48.0×31.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ
28-7	「若者」（『オリエンタル』より）	40	ボリス・アニスフェリド 5人の貴族の衣裳デザイン（オペラ『雪娘』 より） 1921年 グワッシュ・紙 27.9×35.6 スタヴロフスキー蔵、ニューニويورك	48	アレクサンドル・ゴロヴィン 頭飾り（バレエ『火の鳥』より） ピロード、木、ヴェニス真珠（人造真珠）、 アププリケ サンクトペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵		
28-8	「牧神」（『牧神の午後』より）						
28-9	「ダフニス」（『ダフニスとクロエ』より）						
28-10	「アルルカン」（『カルナヴァル』より）						
29	バレエ・リュスのプログラム（『コメディア・ イリュストレ』誌） 1910年 オペラ・シーズン、バレエ・リュス、パリ・ オペラ座 表紙：レオン・バクスト イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー						
30	セルジュ・ディアギレフのバレエ・リュスの プログラム 1916年 ニューニويورك・メトロポリタン・バレエ・カ ンパニー 表紙：レオン・バクスト イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー						
31	セルジュ・ディアギレフのバレエ・リュスの プログラム 1916年 メトロポリタン・ミュージカル・ビューロー 表紙：レオン・バクスト イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー						
32	バレエ・リュスのプログラム 1922年 パリ・オペラ座 表紙：レオン・バクスト イレーヌ・ドロバチェフスキー・アンド・ア ラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー						
48							

56 ドミトリー・ステッレツキー 衣裳デザイン3点(歴史劇『皇帝フォードル』より) 1908年 水彩・紙 35.0×15.0 35.0×17.7 35.0×15.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	62 オペラ・プリヴェ・ド・バリのプログラム 1930年 パリ・シャンゼリゼ劇場 表紙：イワン・ピリーピン イレヌ・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	70 ヴァジム・メッレル キャバレー「歪んだ鏡」のための「ソーセージ」役の衣裳デザイン 1914年 インク、水彩・紙 30.3×22.5 ウラジミール・ウマンスキー蔵、ニュージャージー	78 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 「隊長」の衣裳デザイン(パレエ『ペトルーシカ』より) 1924-25年 グワッシュ・厚紙 40.6×27.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
57 ドミトリー・ステッレツキー 衣裳デザイン(オペラ『アスコフの娘』より) 1909年 油彩・紙 50.8×33.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	63 W.ド・バジル大佐のパレエ・リュスのプログラム 1935年 表紙：ナタリア・ゴンチャロワ イレヌ・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	71 ジョルジュ・ド・ボジェダイエフ(ゲオルギー・ボジェダイエフ) オペラパレエ「金鶏」のポスター(アナトリー・ドリノフのロシア芸術劇場) 1928年 リトグラフ 120.0×80.0 イリヤ・ベカーマン蔵、ニューヨーク	79 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 「道化師」の衣裳デザイン(パレエ『ペトルーシカ』より) 1924-25年 グワッシュ・厚紙 40.6×27.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
58 ドミトリー・ステッレツキー 「フランス在住ロシア人芸術家のための義援マチネー公演」のポスター 1919年 リトグラフ・紙 12.0×80.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	64 W.ド・バジル大佐のパレエ・リュスのプログラム 1936年10月—1937年4月 表紙：ナタリア・ゴンチャロワ イレヌ・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	72 ジョルジュ・ド・ボジェダイエフ(ゲオルギー・ボジェダイエフ) 「三人の死体」のための「貴族と若い娘」の衣裳デザイン 1930年 水彩、金属の着彩、鉛筆・紙 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	80 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 「道化師」の衣裳デザイン(パレエ『ペトルーシカ』より) 1924-25年 グワッシュ・厚紙 40.6×27.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
59 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 舞台デザイン(オペラ『サイコ』より) 1929-30年 グワッシュ、水彩、鉛筆・ボード 50.8×99.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	65 イワン・ピリーピン オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』の衣裳デザインのポストカード8点 ソサエティ・オブ・セント・エヴゲーニア、サンクトペテルブルク刊 1908年 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	73 仮面を付けた婦人 1910年頃 磁器 高さ：23.0 デザイン：コンスタンチン・ソモフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	81 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン アルカンとピエロ(対になった自画像) 1927年頃 グワッシュ・厚紙 27.9×35.6 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
60-1 パーヴェル・チェリチェフ 「シマハの女王」の衣裳デザイン(オペラパレエ「金鶏」より) 1923年 グワッシュ、金彩・紙 50.0×31.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	66 レオン・バクスト ミハイル・フォーキンのための「アルルカン」の衣裳(パレエ「カルナヴァル」より) 絹、トリコット、網目彩色 サンクトペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	74 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 「道化師」の衣裳デザイン(演劇ヴェニスの子ゃじゃ馬)より) 1915年 グワッシュ・厚紙 48.5×30.5 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	82 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1921年2月 表紙とイラスト:S.ステイキン、N.レミソフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
60-2 パーヴェル・チェリチェフ 「ババ・ババリハ」の衣裳デザイン(オペラパレエ「金鶏」より) 1923年 カラージュ、グワッシュ、銀彩・紙 50.8×35.6 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	67 ボリス・ピリンスキー 衣裳デザイン(『カサノバ』より) 制作年不詳 水彩・紙 73.0×50.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	75 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 衣裳デザイン(演目不詳) 制作年不詳 油彩・カンヴァス 61.0×43.0 アローノフ家蔵、ニューヨーク *当館不出品	83 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1921年4月 表紙とイラスト:S.ステイキン、N.レミソフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
61 オペラ・プリヴェ・ド・バリのプログラム 1929年 表紙：イワン・ピリーピン 中頁：アレクサンドル・ゴロヴィンによる「イーゴリ公」、及び「コンチャーク」の衣裳デザイン(オペラ「イーゴリ公」より) イレヌ・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	68 ボリス・ピリンスキー 衣裳デザイン(『カサノバ』より) 制作年不詳 水彩・紙 73.0×50.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	76 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 謝肉祭の一場面 1920年頃 油彩・厚紙に裏打ちされたカンヴァス 30.5×38.1 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	84 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1921年5月 表紙：S.ステイキン スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
	69 ムスティスラフ・ドブジンスキー 衣裳デザイン(ミュージカル『バリのコサック人たち』より) 1925年 石墨、水彩、金属の着彩・紙 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	77 セルジュ(セルゲイ)・ステイキン 人形の描かれた緞帳のデザイン 1924年 グワッシュ・ボード 30.5×27.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	85 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1921年5月-6月 表紙とイラスト:S.ステイキン、N.レミソフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
			86 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1921年6月-7月 表紙：N.レミソフ イラスト：S.ステイキン スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク

87 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1922年 表紙とイラスト:S.ステイキン、N.レミソフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	96 ニキータ・バリーエフのこうもり座のための楽譜『オー、カタリナ!』 レオ・フィスト、ニューヨーク刊 1924年 表紙:A.フジャーコフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	104 ジョルジュ・アンネンコフ(ユーリー・アンネンコフ) 舞台デザイン(オペラ『スベードの女王』より) 1930年 グワッシュ・紙 64.0×49.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	112 アレクサンドル・ブノフ 仕立て用の指示が書き込まれた衣裳デザイン 水彩、墨汁、石墨、生地見本・紙 32.0×25.0 1939年パリ・オペラ座の上演で使用 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク
88 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1923年春公演 表紙:N.レミソフ イラスト:S.ステイキン スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	97 ニキータ・バリーエフのこうもり座のための楽譜『スイスが恋しい』 レオ・フィスト、ニューヨーク刊 刊行年不詳 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	105 ボリス・アロンソン 衣裳デザイン(演劇『昼と夜』より) 1924年 グワッシュ、水彩・紙 43.0×56.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	113 アレクサンドル・ブノフ 仕立て用の指示が書き込まれた衣裳デザイン 水彩、墨汁、石墨、生地見本・紙 32.0×24.0 1939年パリ・オペラ座の上演で使用 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク
89 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1924年 表紙:A.ブノフ イラスト:S.ステイキン、V.シュハーエフ、L.グディアシビリ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	98 ニキータ・バリーエフのこうもり座のための楽譜 『おもちゃの兵隊の行進』 マックス、ニューヨーク刊 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	106 ボリス・アロンソン 衣裳デザイン(演劇『昼と夜』より) 1924年 グワッシュ、水彩・紙 43.0×56.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	114 アレクサンドル・ブノフ 舞台デザイン(バレエ『眠れる森の美女』より) 1945年 水彩・紙 25.5×36.5 ルネ・ゲラ蔵、パリ
90 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1924年 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	99 楽譜カバー V. M.ヴェルティンスキー作の歌曲『今日、私は自らを笑う』 ベトログラード・ミュージック・パブリッシング・ハウス刊 刊行年不詳 フォトレリーフ 32.0×24.0 イリヤ・ベカーマン蔵、ニューヨーク	107 ボリス・アロンソン 衣裳デザイン(演劇『昼と夜』より) 1924年 グワッシュ、水彩・紙 37.5×50.5 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	115 ユージン・バーマン(エヴゲーニー・ベルマン) 「ネロ」の衣裳デザイン(映画『ウォ・ヴァディス』より火事の場面) 1943年 グワッシュ、水彩、墨汁・紙 31.5×24.2 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク
91 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1925年 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	100 ロシア・ドイツ劇場「青い鳥」のためのプログラム 1921年12月-1922年12月 イラスト(カラーリトグラフ):K.ボグスラフスカヤ、E.リッスネル、P.チェリチェフ、A.フジャーコフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	108 レオン・バクスト 「ドン・カスパール」の衣裳デザイン(演劇「ドン・ファン・レフュット」より) 1907年 水彩、インク・紙 15.0×20.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	116 イワン・ビリーピン 「奴隷の少女」の衣裳デザイン(オペラ=バレエ『金鶏』より) 1909年 鉛筆、水彩、銀彩・紙 36.8×22.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
92 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1925年(モスクワ) 表紙:S.ステイキン イレヌ・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー	101 ロシア・ドイツ劇場「青い鳥」のためのプログラム 1922年4月 イラスト:A.フジャーコフ、K.ボクスラフスカヤ、P.チェリチェフ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	109 レオン・バクスト 「フェリチタ」の衣裳デザイン(バレエ「上機嫌な婦人たち」より) 1916年 水彩、鉛筆・紙 48.5×32.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	117 ミハイル・ポフィシヨフ 公爵夫人の衣裳デザイン(演劇「執事ヴァーニカと侍従ジャン」より) 1912年 水彩、石墨、金属の箔彩・紙 46.0×28.0 イリヤ・ベカーマン蔵、ニューヨーク
93 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1926-27年 表紙:M.ドブジンスキー イラスト:M.ドブジンスキー、S.ステイキン、V.シュハーエフ、G.ド・ボジダエフ、D.ステツッキー スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	102 演劇「ヴェニスのじゃじゃ馬」初日公演の招待状 1915年2月23日 表紙:S.ステイキン スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	110 アレクサンドル・ブノフ 衣裳デザイン(バレエ「ドン・キホーテ」より) 1932年 水彩・紙 48.0×32.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	118 マカーリー・ドムラチェフ 衣裳デザイン(オペラ「ホフマン物語」より) 1925年 グワッシュ、ペン、インク・紙 34.0×19.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク
94 ニキータ・バリーエフのこうもり座プログラム 1929年 表紙:S.チェホーニン イラスト:M.ドブジンスキー、S.ステイキン、S.チェホーニン スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	103 ミハイル・アンドレエンコ 舞台デザイン(演劇「愛・黄金の書」より) 1922年 グワッシュ・紙 24.0×39.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	111 アレクサンドル・ブノフ 仕立て用の指示が書き込まれた衣裳デザイン 水彩、墨汁、石墨、生地見本・紙 32.0×24.0 1939年パリ・オペラ座の上演で使用 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	119 ヴァレンチーナ・ホダセーヴィチ 衣裳デザイン 1920年 グワッシュ・紙 36.0×21.0 アローノフ家蔵、ニューヨーク
95 『こうもり座プログラム・コレクション 1920-1921』 1920-21年 プログラム4冊のセット イレヌ・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイバーマン蔵、ニュージャージー			

120 コンスタンチン・コロヴィン 衣裳デザイン (バレエ『紅の花』より) 1910年 水彩・紙 33.0×22.5 ルネ・ゲラ蔵、パリ	128 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 「漁師」の衣裳デザイン (オペラ『ナイチンゲール』より) 1926年 グワッシュ、水彩・紙 28.0×23.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	136 アレクサンドル・ジノヴィエフ ミュージック・ホールのための衣裳デザイン 1920年代 水彩、グワッシュ・紙 29.0×23.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	145 ボリス・フェルディナンドフ 舞台デザイン (演劇『オイディプス』より) 1921年 墨汁・紙 22.2×29.8 ヒデーケリ家蔵、ニューヨーク
121 コンスタンチン・コロヴィン 衣裳デザイン (バレエ『紅の花』より) 1910年 水彩・紙 32.5×21.5 ルネ・ゲラ蔵、パリ	129 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 「僧侶」の衣裳デザイン (オペラ『ナイチンゲール』より) 1926年 グワッシュ、水彩・紙 28.0×23.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	137 アレクサンドル・ジノヴィエフ ミュージック・ホールのための衣裳デザイン 1920年代 水彩、グワッシュ・紙 29.0×23.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	146 ナタリア・ゴンチャロフ 「ロシア芸術家協会主催 オリンピック舞踏会」のポスター 1924年 リトグラフ・紙 66.0×25.4 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
122 コンスタンチン・コロヴィン 舞台デザイン (オペラ『ファウスト』より) 1910年 水彩、木炭・紙 43.2×66.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	130 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 舞台デザイン (オペラ『魔笛』より) 1926年 水彩・紙 33.0×50.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	138 ニーナ・アイゼンベルグ 「ママーシャ」の衣裳デザイン 1927年 グワッシュ・ペーパーボード 39.0×28.0 アローノフ家蔵、ニューヨーク	147 ナタリア・ゴンチャロフ 「ロシア芸術家協会主催 舞踏会」の入場券 1925年 リトグラフ・紙 22.9×15.2 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
123 セミョーン・リッシム 舞台デザイン (演劇『鷲の子』より) (第1幕、ウィーン近郊バーデン、1830年) グワッシュ、水彩・紙 42.0×61.5 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	131 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 「ババゲーノ」の衣裳デザイン (オペラ『魔笛』より) 1926年 グワッシュ・紙 35.5×23.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	139 ニーナ・アイゼンベルグ 「飛行士」の衣裳デザイン 1927年 グワッシュ・紙 39.0×28.0 アローノフ家蔵、ニューヨーク	148 ナタリア・ゴンチャロフ バレエ『恋は魔術師』のポスター下絵 制作年不詳 インク、水彩、油彩、色鉛筆・紙 33.0×41.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
124 セミョーン・リッシム 「スルタン」の衣裳デザイン (演劇『青い鳥』より) 1927-28年 水彩、グワッシュ・紙 73.0×52.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	132 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 「女性登場人物」の衣裳デザイン (ミュージカル『クリスマスキャロル』より) 1937年 グワッシュ、水彩・紙 64.0×45.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	140 アナトーリー・ボスラエフ 舞台デザイン (レビュー『ドラマ』より) 1929年 水彩、インク、金彩、銀彩、鉛筆・紙 ジューン・アンド・ロバート・ライボヴィッツ蔵、ニューヨーク	149 ニコラス (ニコライ)・イサーエフ 舞台デザイン 1930年 水彩・ペーパーボード 37.0×47.5 ルネ・ゲラ蔵、パリ
125 セミョーン・リッシム 「パンブリューク」のための衣裳デザイン (バレエ『コサック』より) 1930-31年 水彩、墨汁、鉛筆、金属の着彩・ボード 47.3×34.3 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	133 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 衣裳デザイン (ミュージカル『クリスマスキャロル』より) 1937年 グワッシュ・紙 61.0×45.7 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	141 アレクサンドラ・エクステル 舞台デザイン (悲劇『魔性の女』より) 1920年代 ディステンパー・紙 43.5×60.6 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	150 ラザリ・ヒデーケリ 登場人物スケッチ (オペラ『太陽の征服』より) 1919年 鉛筆・紙 17.9×11.0 ヒデーケリ家、ニューヨーク
126 セミョーン・リッシム 龍のいる「スルタン」の衣裳デザイン 1939年 グワッシュ・アセテート紙 87.0×62.5 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	134 セルジュ (セルゲイ)・ステイキン 舞台デザイン (バレエ『金魚』より) 1937年 グワッシュ、水彩、鉛筆ボード 35.6×88.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	142 アレクサンドラ・エクステル ある悲劇のための構成主義者の舞台デザイン 1924年 グワッシュ・紙 50.8×52.7 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	151 ラザリ・ヒデーケリ 舞台デザイン (オペラ『太陽の征服』より) 1920年 鉛筆・紙 11.6×8.2 ヒデーケリ家、ニューヨーク
127 ジョルジュ・ド・ボジェダイエフ (ゲオルギー・ボジェダイエフ) 衣裳デザイン3点 (演劇『リア王』より) 1931年 グワッシュ、水彩・紙 41.9×54.6 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	135 アレクサンドル・ジノヴィエフ 「悪魔」の衣裳デザイン (演目不詳) 1920年 水彩、グワッシュ・紙 29.0×23.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	143 アレクサンドラ・エクステル 舞台デザイン (バレエ『ドン・ファン』より) グワッシュ・紙 45.1×60.3 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	152 ミハイル・ラリオノフ 「商人」の衣裳デザイン (バレエ『道化師』より) 1915年頃 グワッシュ、鉛筆・糊付けされた2枚の厚紙 69.5×38.0 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵
		144 アレクサンドラ・エクステル 「男性ダンサー」の衣裳デザイン (バレエ『ドン・ファン』より) グワッシュ・紙 54.3×28.6 ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館蔵	

153 ミハイル・ラリオノフ 「ココロギ」の衣装デザイン（上演されなかったバレエ『博物誌』より） 1919年 ステンシル・紙（『現代の舞台装飾芸術』より） 22.0×35.5 ジェーン・アンド・ロバート・ライボヴィッツ蔵、ニューヨーク	161 セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン ヴェラ・ネムチノワのバレエ・リュスのための衣装デザイン 1928年 グワッシュ・紙 49.0×30.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	170 『ロシア芸術家協会主催 オリンピック舞踏会』のプログラム 1924年7月11日開催、パリ リトグラフ イラスト：E. マネ、P. ピカソ他 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	178 ラド・グディアシビリ カフェのテラスにいるイダ・ルビンシュテイン 1921年 水彩、鉛筆・紙 40.6×25.4 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
154 ミハイル・ラリオノフ 『ロシア芸術家協会主催 倒錯仮装大舞踏会』入場券 1923年 リトグラフ・紙 50.8×12.7 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	162 セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン ヴェラ・ネムチノワのバレエ・リュスのためのプログラム表紙デザイン 制作年不詳 グワッシュ・紙 64.0×43.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	171 『ロシア芸術家協会主催 大熊座舞踏会』のプログラム 1925年5月8日開催、パリ リトグラフ 表紙：ミハイル・ラリオノフ イラスト：ラビノヴィチ、P. ピカソ、N. ゴンチャロフ、M. ラリオノフ、F. レジェ、D. ステレンベルク、A. ロトチェンコ、ワシリエフ、メリニコフ、フレンケル他 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	179 コンスタンチン・コロヴィン フォードル・シャリアピンのための「コンチャク」の衣装デザイン（オペラ『イーゴリ公』より） 1909年 グワッシュ・紙 43.2×33.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
155 アナトリー・ベトリツキー 衣装デザイン（オペラ『イーゴリ公』より） 1926年 コラージュ、水彩、金属の着彩・紙 62.9×44.0 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	163 ゲオルギー・ヤクローフ 舞台デザイン（演劇『ブランピラ姫』より） グワッシュ、水彩・紙 40.0×65.0 ヒデーケリ家、ニューヨーク	172 ナタン・アリトマン 演劇『偉大なる勝利』で「シメール・ソロケル」を演じるミホエルス 1926年 水彩、インク、墨汁、鉛筆・紙 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	180 コンスタンチン・コロヴィン フォードル・シャリアピンの 1921年 油彩・厚紙で裏打ちされたカンヴァス 45.7×58.4 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
156 セルジュ（セルゲイ）・ステイキン 『私自身のための劇場』（ニコライ・エヴレイノフ著）の表紙デザイン 1915年 水彩・紙 20.3×27.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	164 エリザヴェータ・ヤクローニナ 「ゾフィー」の衣装デザイン（オペラ『薔薇の騎士』より） サテン、紗、畝織り、レース サンクトペテルブルク国立演劇音楽博物館蔵	173 ジョルジュ（ユーリー）・アンネンコフ エレナ・バリエフ 制作年不詳 ペン、ブラシ、墨汁・紙 48.0×38.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク	181 イサク・マフリス フセヴォロド・メイエルホリドのカリカチュア 1922年頃 30.0×23.0 ヒデーケリ家蔵、ニューヨーク
157 セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン ダンサーのための衣装デザイン 1925年 グワッシュ・紙 48.2×30.5 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	165 喜劇『森』のポスター 1924年 凸版印刷 91.4×68.6 ジェーン・アンド・ロバート・ライボヴィッツ蔵、ニューヨーク	174 ボリス・シャリアピンの バリエフ夫人 1937年 油彩・カンヴァス 64.0×54.0 イリヤ・ペカーマン蔵、ニューヨーク	182 ニコライ・レミソフ ニキータ・バリエフのカリカチュア 1925年 水彩・紙 15.2×22.9 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
158 セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン 「大きな頭のダンサー」の衣装デザイン 1928年 グワッシュ・紙 35.6×30.5 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	166 モスクワ芸術座音楽スタジオのプログラム 1925年 表紙：アンドレイ・フジャーコフ イレヌス・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイパーマン蔵、ニュージャージー	175 ムスティスラフ・ドブジンスキー クロチルド・サハロフ 1929年 インク、鉛筆・紙 33.0×25.4 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	183 ジナイーダ・セレブリャコワ タマラ・カルサヴィナ 1915年頃 木炭、チョーク・紙 47.0×31.8 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
159 セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン ヴェラ・ネムチノワのバレエ・リュスのための衣装デザイン 1928年 グワッシュ・紙 49.0×30.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	167 モルドキン・バレエのプログラム 1937-38年 写真：ルーカス・プリチャード・スタジオ スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	176 フォードル・シャリアピンの（オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』より） 1922年 磁器 高さ：27.9 衣装デザイン：アレクサンドル・ゴロヴィン 制作：トルビャンスキー スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	184 サヴェーリー・ソーリン アンナ・バヴロワ 1915年 パステル、クレヨン・ボード 57.2×43.2 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
160 セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン ヴェラ・ネムチノワのバレエ・リュスのための衣装デザイン 1928年 グワッシュ・紙 49.0×29.0 ルネ・ゲラ蔵、パリ	168 ロンドン・バレエ劇場のプログラム 1946-47年 表紙：ユージン・バーマン イレヌス・ドロバチェフスキー・アンド・アラ・トイパーマン蔵、ニュージャージー	177 ボリス・グリゴリエフ アリサ・コーオネン 1917年 鉛筆・厚紙 スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク	185 セルジュ（セルゲイ）・ステイキン 劇場の中 制作年不詳 油彩・カンヴァス 126.0×126.0 リュドミラ・カブラン蔵、ニューヨーク

- 186
セルジュ（セルゲイ）・チェホーニン
イダ・ルビンシュテイン
1919年
インク・紙
22.9×12.7
スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
- 187
パオロ（バーヴェル）・トルベツコイ
アレクサンドラ・ダニロワ嬢
1925年
ブロンズ
高さ：45.7 cm
スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
- 188
アレックス・シュタインのためのメーキャ
ップデザイン（メロドラマ『ディブック』
より）
1924年
石墨・紙
16.0×12.0
イリヤ・ペカーマン蔵、ニューヨーク
- 189
タマラ・カルサヴィナ
1908年
写真（署名入り）
スタヴロフスキー蔵、ニューヨーク
- 190
エミール・オットー・ホッペ
『バレエ・リュス写真集』
1913年頃
38.0×27.0
兵庫県立芸術文化センター
薄井憲二バレエコレクション
- 190-1
タマラ・カルサヴィナ（『火の鳥』より）
- 190-2
ワツラフ・ニジンスキー（『シェエラザード』
より）
- 190-3
ワツラフ・ニジンスキー（『薔薇の精』より）
- 190-4
タマラ・カルサヴィナ（『薔薇の精』より）
- 190-5
タマラ・カルサヴィナとミハイル・モルドキ
ン（『アルミードの館』より）
- 190-6
タマラ・カルサヴィナ（『火の鳥』より）
- 190-7
アドルフ・ホルム（『タマール』より）
- 190-8
アドルフ・ホルム（『カルナヴァル』より）
- 190-9
ソフィ・フョードロワ（オペラ『イーゴリ公』
『ボロヴェツ人の踊り』より）
- 190-10
アドルフ・ホルム（オペラ『イーゴリ公』『ボ
ロヴェツ人の踊り』より）
- 190-11
タマラ・カルサヴィナ（『クレオパトラ』より）
- 190-12
タマラ・カルサヴィナとミハイル・フォーキ
ン（『火の鳥』より）
- 190-13
アドルフ・ホルムとタマラ・カルサヴィナ（『タ
マール』より）
- 190-14
タマラ・カルサヴィナ（『アルミードの館』
より）
- 190-15
アドルフ・ホルム（『火の鳥』より）

掲載記事

東奥日報

2007年11月13日(火)
アレコの解説を延長 県立美術館

陸奥新報

2007年10月31日(水)
「アレコ」鑑賞特別プログラム 1月6日まで延長

朝日新聞

2007年10月25日(木)
シャガール背景画に光

河北新報

2007年10月10日(水)
ロシア・バレエ衣装など190点 青森で企画展

毎日新聞

2007年10月9日(火)
20世紀前半のデザイン動向紹介 ロシア舞台美術展 28日まで青森・県立美術館

陸奥新報

2007年7月30日(月)
「色使い 素晴らしい」「舞台芸術の世界」展が開幕 ダンサー衣装など来場者を魅了

2007年9月29日(土)
ロシアの舞台芸術 衣装や映像で紹介 きょうから県立美術館

2007年9月29日(土)
きょうから「舞台芸術の世界」展 アレコのルーツ紹介

2007年9月27日(木)
県立美術館で29日開幕 舞台芸術の世界 展示準備着々と

2007年9月26日(水)
花開いた舞台芸術5・完 29日から県立美術館企画展 版画、プログラム、ダンサーの人気を投影

2007年9月25日(火)
花開いた舞台芸術4 29日から県立美術館企画展 ダンサー バプロワらスター活躍

2007年9月24日(月)
花開いた舞台芸術3 29日から県立美術館企画展 デザイン画 慣例を無視する衣装も

2007年9月23日(日)
花開いた舞台芸術2 29日から県立美術館企画展 バクストとブノワ 独特の色彩やデザイン

2007年9月22日(土)
花開いた舞台芸術1 29日から県立美術館企画展 バレエ・リュス ディアギレフが旗揚げ

毎日新聞

2007年8月28日(火)
ディアギレフのロシアバレエの舞台芸術紹介 来月29日から県立美術館デザイン画など190点

読売新聞

2007年7月5日(木)
「バレエ・リュス」100年 再び脚光 ピカソ コクトー シャネル… 「才能発掘史」展示や本に

棟方志功・崔榮林展

Munakata Shiko and Choi Young-Lim

開催概要

会期:2007年11月10日(土) - 2007年12月24日(月・祝)

主催:棟方志功・崔榮林展実行委員会(青森県立美術館・NHK
青森放送局・財団法人棟方志功記念館)

共同企画:国立現代美術館分館徳寿宮美術館(韓国)

特別協力:財団法人棟方板画館、青森市

協賛:青森オリンパス株式会社、青森銀行、住友化学株式会社
三沢工場、株式会社日本マイクロニクス

後援:駐日韓国大使館 韓国文化院、国際交流基金、大韓航空青
森支店 他県内マスコミ

観覧料:

一般 800円(700円)、大学生・高校生 560円(460円)、
中学生・小学生 320円(220円)

※()内は前売券および20名以上の団体料金

※アレコホール以外の常設展観覧料は含まない

入場者数

4,156人

関連企画

シンポジウム「棟方志功・崔榮林展をめぐって」

日時:2007年11月10日(土) 14:00 - 16:00

場所:シアター

コーディネーター:三好徹(青森県立美術館美術企画課長)

パネリスト:崔銀珠(国立現代美術館分館徳寿宮美術館館長)、
奇恵卿(国立現代美術館徳寿宮美術館学芸員)、武田公平
(棟方志功記念館館長補佐)、池田亨(青森県立美術館学芸
主幹)

特別講演会「柳宗悦と棟方志功の朝鮮芸術観」

日時:2007年12月2日(日) 14:00 - 15:30

場所:シアター

講師:尾久彰三(日本民藝館学芸部長)

ギャラリートーク

講師:池田亨(本展担当学芸員)

日時:会期中の土曜日・日曜日 14:30 -

カタログ

仕様:254頁(うちカラー136頁)、日本語・韓国語(一部英
語併記)

編集:池田亨(青森県立美術館)、奇恵卿(韓国国立現代美術館)

デザイン:須藤一幸

発行:棟方志功・崔榮林展実行委員会

内容:

- ・ごあいさつ
- ・池田亨
「棟方志功・崔榮林展について」
- ・奇恵卿
「語りかける作品:棟方志功と崔榮林展について」
- ・函版
棟方志功
崔榮林
- ・棟方志功から崔榮林への手紙
- ・三好徹
「世界のムナカタ」
- ・武田公平
「棟方志功と柳宗悦—初めての師、そして最大の師」
- ・権幸佳
「崔榮林と珠壺会」
- ・金炫淑
「崔榮林と棟方志功」
- ・棟方志功年譜
- ・崔榮林年譜
- ・近代日本美術年表
- ・近代韓国美術年表
- ・棟方志功作品解説
- ・崔榮林作品解説
- ・棟方志功参考文献
- ・崔榮林参考文献
- ・出品リスト

共同開催館による韓国展

会期:2008年1月23日(水) - 2008年3月30日(日)

会場:国立現代美術館分館徳寿宮美術館(韓国、ソウル市)

主催:国立現代美術館(韓国)

入場者数

22,695人



ポスター



展示風景 撮影：三澤章

本展は青森県立美術館における青森県と韓国の国際交流事業の一環として韓国の国立現代美術館分館徳寿宮美術館との共同企画として開催された。欧米の美術の学習や単なる自国の伝統の継承にとどまらず、伝統を咀嚼しながら国際的に評価される普遍的かつ独創的なスタイルを創造した棟方志功と、その影響をうけて広く自らの民族の心に根ざした美術を志した崔榮林という、それぞれの国の独自性とともに普遍性を志向した日本と韓国の画家の二人展である本展は、学術的側面からも、近年研究が進んでいるアジアの近代美術の相互交流や日本と韓国の近代美術の交流関係について具体的な事例にもとづき光をあてる貴重な機会であり、またアジアの大きな枠組みの中で「世界のムナカタ」を検証する機会となった。

青森会場での展示会は、展示構成として青森県立美術館ならではの広大な空間を生かし、棟方志功の大型の作品を展示室 C にまとめて展示し、通常の展示では見られない棟方のスケール感を表現した。また、いくつかの展示室で二人の画家の作品を同一空間内に展示することにより、類似と影響関係、それぞれ

の個性について検証するような展示を試みた。

今回の展示会は韓国近代美術への日本近代美術の影響と交流を作家の具体的な交流によって実証的に展示した初めての展示会であり、これまであつかわれることの少なかった日本による植民地支配下の時代の両国近代美術の研究への重要な一歩を踏み出す展示会である。また青森県立美術館のコレクションの中核をなす棟方志功の作品を活用し、両国美術史において重要な展示会を韓国の国立美術館と共同で開催したことは、文化交流及び学術的な面における県立美術館の使命という側面から意義のある事業であった。

出品作品

棟方志功

1
棟方志功
雪国風景図
1924
板・油彩
23.6×32.9
青森県立美術館

2
棟方志功
八甲田山麓図
1924
板・油彩
23.5×33.0
青森県立美術館

3
棟方志功
十和田・奥入瀬 C
1932
紙・木版、彩色
12.0×16.0
棟方志功記念館

4
棟方志功
桃真盛り
1933
板・多色木版
16.8×23.1/16.8×23.0
青森県立美術館

5
棟方志功
萬葉譜
1935
紙・木版
各 42.9×39.6
棟方志功記念館

6
棟方志功
大和し美し
1936
紙・木版
32.0×723.0
棟方志功記念館

7
棟方志功
華厳譜
1936
紙・木版
各 30.0×39.0
棟方志功記念館

8
棟方志功
空海頌
1937
紙・木版
各 27.3×20.5
棟方志功記念館

9
棟方志功
東北経鬼門譜
1937
紙・木版
122.5×990.5
棟方志功記念館

10
棟方志功
山間風景図
1938
紙・墨画
91.2×62.7
青森県立美術館

11
棟方志功
勝鬘譜善知鳥版画曼荼羅
1938
紙・木版
各 24.0×28.0
青森県立美術館

12
棟方志功
二菩薩祝迎十大弟子
1939
紙・木版
各 101.5×38.0
棟方志功記念館

13
棟方志功
夢応鯉魚版画柵
1940
紙・木版
各 31.8×31.8
棟方志功記念館

14
棟方志功
群鯉図
1940 頃
紙・着彩
各 131.0×68.2
青森県立美術館

15
棟方志功
大旭日山
1941
キャンバス・油彩
37.7×45.4
青森県立美術館

16
棟方志功
東西南北頌
1941
紙・木版
各 119.2×41.0
棟方志功記念館

17
棟方志功
鐘溪頌
1945/1969
木版彩色・紙
各 45.4×32.7
棟方板画美術館

18
棟方志功
御三尊像図
1950
板・着彩
（左）165.3×86.5（中）165.3×85.7（右）
165.5×92.0
青森県立美術館

19
棟方志功
いろは板画柵
1952
紙・木版
各 175.0×180
棟方志功記念館
棟方志功記念館に展示

20
棟方志功
御巨銘薫樹圖
1952
紙・着彩
各 129.0×62.3
青森県立美術館

21
棟方志功
流離抄板画柵
1953
紙・木版、彩色
各 30.5×26.5
棟方志功記念館
棟方志功記念館に展示

22
棟方志功
angeles (A)
1953
紙・木版
121.1×122.2
青森県立美術館

23
棟方志功
angeles (B)
1953
紙・木版
121.1×122.2
青森県立美術館

24
棟方志功
湧然する女者達々
1953
紙・木版
各 92.5×104.5
棟方志功記念館

25
棟方志功
宇宙頌
1954
紙・木版、彩色
各 106.2×99.8
青森市（棟方志功記念館寄託）

26
棟方志功
華狩頌
1954
紙・木版
132.0×158.0
青森市（棟方志功記念館寄託）

27
棟方志功
柳緑花紅頌
1955
紙・木版
各 46.5×46.7
棟方志功記念館

28
棟方志功
貴理寿渡の柵
1956
紙・木版
56.0×23.0
青森県立美術館
常設展示棟方志功展示室に展示

29
棟方志功
鍵板画柵
1956
紙・木版
6.7×22.7（×9） 13.1×16.7（×50）
青森県立美術館

30
棟方志功
幻想板画柵
1956
紙・木版
各 13.7～14.5×12.6～14.8
青森県立美術館

31
棟方志功
蒼原の柵
1956
紙・木版
77.0×112.5
棟方志功記念館

32
棟方志功
群生の柵
1957
紙・木版
各 140.8×373.0
棟方板画美術館

33
棟方志功
摩奈那発門多に建立すの柵
1959
紙・木版
109.5×148.5
青森県立美術館

34
棟方志功
ハドソン河自板像
1959
紙・木版
40.3×30.0
棟方板画美術館

35
棟方志功
鷺囀の柵
1960
紙・木版
135.0×225.0
青森県立美術館

36
棟方志功
花矢の柵
1961
紙・木版・彩色
252×711
青森県立美術館

37
棟方志功
瘋癲老人日記板画柵屏風
1963
紙・木版・彩色
5.9×5.3 ~ 25.2×34.2
青森県立美術館

38
棟方志功
賜顔の柵
1964
紙・木版
121×94.7
青森県立美術館

39
棟方志功
円融無碍頌
1965
紙・着彩
45.0×54.0
青森県立美術館

40
棟方志功
金富士の柵
1965
紙・木版・彩色
25.0×28.0
青森県立美術館

41
棟方志功
黒富士の柵
1965
紙・木版
22.5×22.5
青森県立美術館

42
棟方志功
赤富士の柵
1965
紙・木版・彩色
29.4×77.2
青森県立美術館

43
棟方志功
弁財天妃の柵
1965/1974 摺
紙・木版・彩色
25.5×19.8
棟方板画美術館

44
棟方志功
御吉祥大辨財天御妃尊像図
1966
紙・着彩
135.0×69.5
青森県立美術館

45
棟方志功
門世の柵
1968
紙・木版・彩色
34.3×29.2
棟方志功記念館

46
棟方志功
東北風の柵
1969
紙・木版・彩色
65.5×86.0
棟方板画美術館

47
棟方志功
鷺栖図
1971
紙・着彩
275.0×803.0
青森県立美術館

48
棟方志功
大印度の花の柵
1972
紙・木版
36.4×31.0
青森県立美術館

49
棟方志功
富嶽大観々図
1972
紙・着彩
69.2×135.0
青森県立美術館

50
棟方志功
青森山之神図
1974
紙・墨彩
67.3×37.2
青森県立美術館

51
棟方志功
釈迦十大弟子 画稿
1939 頃
紙・墨画
各 89.0×31.0
個人（宮城県美術館寄託）

崔榮林

1
崔榮林
馬
1952
キャンバスに紙・油彩
34.0×51.4
京畿道美術館

2
崔榮林
女性
1952
紙・油彩
27.0×48.0
個人

3
崔榮林
静物
1953
壮版紙・油彩
22.0×25.0
個人

4
崔榮林
女性
1959
紙・油彩
64.5×51.5
サムソン美術館 リウム

5
崔榮林
海辺
1956
キャンバス・油彩
90.0×117
サムソン美術館 リウム

6
崔榮林
白鳥
1950 年代後半
キャンバス・油彩
83.5×45.5
個人

7
崔榮林
黒白時代
1960
パネル・油彩
50.0×62.0
個人

8
崔榮林
豪華な御幸
1958
合板に紙・油彩
27.5×54.5
個人

9
崔榮林
花一輪
1958
紙・油彩
43.5×43.5
個人

10
崔榮林
女性日誌
1959
キャンバス・油彩
105.0×145.0
国立現代美術館（韓国）

11
崔榮林
家族
1961
キャンバス・油彩
60.5×39.0
個人

12
崔榮林
胎母
1961
キャンバス・油彩
117.0×91.0
国立現代美術館（韓国）

13 崔榮林 開門 1961 キャンバス・油彩 116.5×91.0 個人	21 崔榮林 伝説 1962 キャンバス・油彩 91.0×117.0 ソウル市立美術館	29 崔榮林 佛心 1969 キャンバス・油彩 117.0×117.0 国立現代美術館 (韓国)	37 崔榮林 チャンミンと私 1966 板に紙・油彩 47.5×32.7 個人
14 崔榮林 作品 1961 キャンバス・油彩 91.0×117.0 国立現代美術館 (韓国)	22 崔榮林 佛 1965 パネル・油彩 55.0×35.0 国立現代美術館 (韓国)	30 崔榮林 佛心 1970 キャンバス・油彩 116.0×116.0 国立現代美術館 (韓国)	38 崔榮林 画室にて 1979 板にキャンバス・油彩 40.5×31.5 個人
15 崔榮林 胎母 1962 キャンバス・油彩 117.0×91.0 国立現代美術館 (韓国)	23 崔榮林 佛心 1967 キャンバス・油彩 97.0×130.0 国立現代美術館 (韓国)	31 崔榮林 花と女性 1969 キャンバス・油彩 49.0×60.5 個人	39 崔榮林 自画像 1971 キャンバス・油彩 41.0×32.0 個人
16 崔榮林 蓮の花 1962 キャンバス・油彩 161.0×106.0 国立現代美術館 (韓国)	24 崔榮林 沈清伝より 1965 キャンバス・油彩 162.0×130.0 国立現代美術館 (韓国)	32 崔榮林 ブドウ畑の出来事 1971 キャンバス・油彩 104.0×104.0 国立現代美術館 (韓国)	40 崔榮林 お祝いの日 1975 キャンバス・油彩 75.0×170.0 個人
17 崔榮林 水族 1963 キャンバス・油彩 130.0×130.0 国立現代美術館 (韓国)	25 崔榮林 沈清伝より 1967 キャンバス・油彩 85.0×81.0 国立現代美術館 (韓国)	33 崔榮林 落花 1970 キャンバス・油彩 115.0×115.0 個人	41 崔榮林 春の丘 1982 キャンバス・油彩 130.0×196.0 個人
18 崔榮林 水宮 1963 キャンバス・油彩 130.0×130.0 国立現代美術館 (韓国)	26 崔榮林 花嵐 1962-1968 キャンバス・油彩 84.0×121.0 個人	34 崔榮林 童心春心 1970 キャンバス・油彩 116.5×116.5 個人	42 崔榮林 朝鮮戦争 1950.6.25 1974 キャンバス・油彩 144.0×96.0 国立現代美術館 (韓国)
19 崔榮林 乾魚 1962 キャンバス・油彩 105.5×65.5 個人	27 崔榮林 虎の話 1968 (1982年加筆) キャンバス・油彩 130.0×161.0 国立現代美術館 (韓国)	35 崔榮林 嬉しい日 1971 キャンバス・油彩 104.0×104.0 個人	43 崔榮林 鳳凰 / 鹿 1973 韓紙・墨・水彩 66.0×47.0 (2) 個人
20 崔榮林 野牛 1964 キャンバス・油彩 105.5×145 国立現代美術館 (韓国)	28 崔榮林 女性と牛 1969 キャンバス・油彩 117.0×117.0 国立現代美術館 (韓国)	36 崔榮林 裸群 1975 キャンバス・油彩 91.0×116.0 国立現代美術館 (韓国)	44 崔榮林 花鳥 1971 キャンバス・油彩 53.0×45.5 個人

45 崔榮林 春の丘で 1979 キャンバス・油彩 38.0×45.0 個人	53 崔榮林 木と鳥 1957 紙・木版 27.5×41.0 個人	61 崔榮林 風景 不明 韓紙・木版 50.0×64.5 個人	69 崔榮林 佛 年代未詳 韓紙・木版 36.8×66.5 個人
46 崔榮林 母子 1975 キャンバス・油彩 48.0×59.0 個人	54 崔榮林 春の行進 1963年 韓紙・木版 38.2×26.0 個人	62 崔榮林 無題 年代未詳 韓紙・木版 27.5×36.0 個人	70 崔榮林 佛心 1968-69 韓紙・木版 34.0×64.0 個人
47 崔榮林 母子 1976 キャンバス・油彩 91.0×65.0 国立現代美術館（韓国）	55 崔榮林 水瓶を運ぶ女性 制作年未詳 韓紙・木版 31.5×24.0 個人	63 崔榮林 女性と子供 年代未詳 韓紙・木版 63.0×62.0 個人	71 崔榮林 女性坐像 年代未詳 韓紙・木版 92.7×53.0 個人
48 崔榮林 母子 1977 キャンバス・油彩 53.0×46.0 個人	56 崔榮林 山の裾野 壇期 4289（1956）年作 韓紙・木版 28.5×34.8 個人	64 崔榮林 女性と魚 年代未詳 韓紙・木版 63.0×62.0 個人	72 崔榮林 佛心 年代未詳 韓紙・木版 33.5×22.5 個人
49 崔榮林 鼓舞 1976 キャンバス・油彩 130.0×161.0 国立現代美術館（韓国）	57 崔榮林 笛を吹く女性 年代未詳 韓紙・木版 63.0×62.0 個人	65 崔榮林 沈清 年代未詳 韓紙・木版 34.0×24.0 個人	73 崔榮林 佛心 1968-69 韓紙・木版 93.8×53.0 個人
50 崔榮林 佛弟子 1977 麻布・油彩 96.0×225.0 個人	58 崔榮林 女性と子供たち 年代未詳 韓紙・木版 62.5×62.0 個人	66 崔榮林 蓮 1968-69 韓紙・木版 93.7×54.5 個人	74 崔榮林 季節 1968-69 韓紙・木版、水彩、染料 40.5×52.5 個人
51 崔榮林 二つの植木鉢 1979 キャンバス・油彩 73.0×60.0 個人	59 崔榮林 春 1968-69 韓紙・木版 34.0×64.0 個人	67 崔榮林 季節 1961 韓紙・木版、彩色 83.0×46.0×4（幅） 国立現代美術館	75 崔榮林 母子 1968-69 韓紙・木版、水彩、染料 42.0×53.0 個人
52 崔榮林 山寺のお話 1978 キャンバス・油彩 117.0×91.0 国立現代美術館（韓国）	60 崔榮林 女心 年代未詳 韓紙・木版 36.0×66.0 個人	68 崔榮林 樂 1967 韓紙・木版 35.0×62.5 個人	76 崔榮林 女性2 1968-69 韓紙・木版、水彩、染料 54.0×40.5 個人

77

崔榮林

季節

1968-69

韓紙・木版、水彩、染料

53.5×40.5

個人

78

崔榮林

女性と鳥

年代未詳

韓紙・木版、水彩、染料

57.5×42.0

個人

79

崔榮林

沈清伝より

1968-69

韓紙・木版、水彩、染料

42.0×53.0

個人

80

崔榮林

印章・印譜

個人

掲載記事

デーリー東北

2007年12月3日（月）
県都だより 韓国の崔榮林と志功の作品129点

河北新報

2007年11月24日（土）
青森県立美術館企画展 棟方志功・崔榮林展
近代美術の日韓関係探る 池田亨

毎日新聞

2007年11月20日（火）
国際交流の一環、県立美術館で開催 2人の
作品一堂に 県内出身の版画家 棟方志功
交流があった韓国の画家 崔榮林

陸奥新報

2007年11月9日（金）
伝統と民族性追求した軌跡 あすから棟方志
功・崔榮林展

聖教新聞

2007年11月7日（水）
韓国で志功からの手紙が発見 知られざる二
人の交流を紹介 棟方志功・崔榮林展 池田
亨

読売新聞

2007年9月30日（日）
棟方志功韓国画家との交流 企画展11月か
ら 来年ソウルでも

2007年11月4日（日）
美術館は「ドラマ」を発掘する 角俊行

2007年12月21日（金）
ひと寄港あおり街物語 県立美術館 アー
ト幅広く挑戦 映画の定期上映会 / 日韓交
流演劇 / 青森らしさ発信

東奥日報

2007年11月9日（金）
芸術交流知る二人展 あすから県立美術館
棟方志功・崔榮林展

2007年11月11日（日）
作品個性に映る個性、友情 志功・崔榮林展
が開幕 県立美術館

2007年12月3日（月）
素晴らしい企画 志功・崔榮林展 五所川原
市・風鈴

2007年12月4日（火）
棟方志功と崔榮林 県立美術館企画展1 日
韓の画家の交流 画風の影響と独自性 池田
亨

2007年12月5日（水）
棟方志功と崔榮林 県立美術館企画展2 悲
劇の体験作品に反映 朝鮮戦争前後 池田亨

2007年12月6日（木）
棟方志功と崔榮林 県立美術館企画展3 韓
国代表する画家生む 小野忠明と珠壺会

2007年12月7日（金）
棟方志功と崔榮林 県立美術館企画展4 文
面ににじむ深い友情 手紙の交流 池田亨

2007年12月8日（土）
棟方志功と崔榮林 県立美術館企画展5 人
間の原風景に根ざす 2人の共通点 池田亨

東洋経済日報

2007年12月7日（金）
韓日大家の交流の跡探る 「棟方志功・崔榮
林展」青森県立美術館で24日まで 独特の
画風に共通点と相違点

平成 19 年度常設展示

Permanent Exhibition 2007

第 1 期：都市の空気、故郷の土

2007 年 4 月 10 日（火）－ 6 月 24 日（日）

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」（通年）

展示室 F 奈良美智インスタレーション（通年）

青森県弘前市出身の奈良美智（1959－）は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980 年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど、精力的に発表を続けている。青森県立美術館は、1997 年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は 150 点を越える。

《Hula Hula Garden》と《ニュー・ソウルハウス》（奈良美智＋graf）という 2 点のインスタレーションを中心に、奈良美智の世界を紹介。

展示室 G 寺山修司の映像世界（通年）

寺山修司（1935－1983）は東京を活動の拠点としつつも、故郷青森の言葉や風土を意識した作品を数多く手がけている。

偽の自伝映画「田園に死す」（1974 年、ATG）は、恐山と新宿のイメージが交錯する物語だが、青森の家が壊れると新宿東口があらわれる不思議なラストシーンに象徴されるように、現実と虚構、都市と地方、現在と過去、内面と外面、創造と破壊といった対立概念を同時に内包している点に寺山作品の大きな特徴があると言える。寺山の本質を端的に示す映像作品を中心に展示。

展示協力：（株）テラヤマ・ワールド

棟方志功展示室

ひょっとして青森の人は東京に行くことと海外に出ることと感覚的にほとんど差異がないのでは、と思うことがよくある。棟方志功（1903－1975）をはじめ、寺山修司、工藤哲巳、奈良美智ら青森県出身のユニークな芸術家を挙げてみても、海外で活躍し、高い評価を受け、普遍性を持っている。青森に生まれ、画家を志し東京に出た棟方は、富山県旧福光町での疎開を経て、やがて世界のムナカタとなった。

青森時代の作品から東京に出た頃の初期作品、代表作である《二菩薩釈迦十大弟子》、他力と言うことを知った疎開時代、数度の海外旅行における作品等を展示。

展示室 H 阿部合成：ふるさとと都会の間で

青森市浪岡（旧浪岡町）の旧家に生まれた阿部合成（1910－

1972）は、そのドラマチックな生涯から、「修羅の画家」と呼ばれている。大作《見送る人々》が反戦的な絵画とされて迫害を受け、出征してシベリアに抑留され生死の境を生き抜かざるを得なかった過酷な戦争体験、旧制青森中学以来の友人であった太宰治の生涯と呼応するような、東京へ出たのデカダンスな生活など、合成の生涯はいかにも芸術家らしく波乱に富んだものだ。

そのなかで合成は、何度も飛び出したはずの故郷に戻り、傷ついた心をいやし、また旅立っていく。

今回の常設展示では、初期から晩年までの合成の作品から郷土青森の風景や親しい人々を描いた作品と、東京へ出て、デカダンスな生活の中でしばしば自らをたとえた道化師やサーカスをテーマにした作品を中心に展示。

展示室 I 佐野ぬいの世界

昭和 7 年、弘前の洋菓子店に生まれた佐野ぬいは、歴史ある城下町で新しい時代の文化の息吹に触れながら成長し、また、雪国の自然の中で色彩への鋭敏な感覚を磨いてゆく。

パリにあこがれ、やがて女子美術大学に学んで画家になった彼女は、戦後、海外からつぎつぎと押し寄せる新しい美術の動向と、それに呼応するように日本国内で沸き起こる斬新な芸術活動に刺激を受けつつ、「人と同じ絵は描かない」という信念のもと、キャンバスに向かってきた。

昭和 20 年代、30 年代、40 年代、そして昭和から平成へ、さらに 21 世紀へという、佐野ぬいの半世紀に渡る作品を展示。

展示室 J 成田亨：怪獣デザインあれこれ

成田亨（1929－2002）が手がけたウルトラシリーズの怪獣デザイン原画を紹介。

展示室 K 小野忠弘入門

大正 2 年、青森県弘前市に生まれた小野忠弘（1913－2001）は、東京美術学校彫刻科で本格的に美術を学んだ後、美術教師として赴任した福井県三国町に居を構え、88 歳で命を落とすまでの半世紀以上の間、独自の創造の世界に没頭した。

厚塗りの絵具、樹脂のしたたり、貼り付けられた廃品の数々。絵画でもない、彫刻でもない、雑多な素材の無限の絡まりの中に、宇宙の文（あや）ともいうべき、深遠なる表現世界が展開しています。

当館が有する作家本人からの寄贈作品を含む 80 点あまりの小野忠弘コレクションの中から、生涯の活動を概観する 16 点を展示。

展示室 L 小島一郎：下北ー東京

1924年、青森市大町（現：本町）に、県内でも有数の写真材料商「小島写真機店」を営む父平八郎と母たかの長男として生まれた小島一郎は、1950年代半ばから1960年代半ばまでの約10年間、青森県内をくまなく歩き、風景や人々を写真に撮り続けた。

津軽の貧しい農村や下北の雪景色などを、独特の焼きこみの手法により、力強く表現した写真の数々は、時代を経た今も新鮮な魅力をたたえている。

小島にとって、運命の被写体ともいえる青森の風土。しかし、この土地の多くの芸術家たちがそうであるように、小島もまた、活躍の場をもとめて、青森から東京へと移り住む。小島の本領が発揮された厳寒の下北と、上京してから撮られた東京の風景の写真とを並べて紹介し、作家の個性と風土との関係について考察。

展示室 M 工藤甲人：夢と覚醒のはざまに

工藤甲人（くどう・こうじん）は、1915（大正4）年現在の弘前市百田に生まれ、戦後、新しい日本画を創り出そうとした美術団体、創造美術・新制作日本画部・創画会を活動の舞台とし、夢幻の世界と現実の世界のはざまを漂う独特の画風を築き上げた。

1962年、47歳のとき、工藤甲人は故郷弘前を離れ、神奈川県平塚市に移り住む。弘前時代最後の作品が『荊蕀（けいきょく）』、中央画壇から取り残された当時の心境をイバラに閉じこめられた鳥に自らの姿を重ね合わせた。師ともいうべき秋田県小坂町出身の日本画家福田豊四郎にその悩みを打ち明けたところ、「弘前は世界の弘前ではないか。それと同時にいまは世界の工藤甲人なんだよ。」と励まされる。

その後、工藤甲人は次々と新境地を拓いていくが、常に忘れず胸中にあったのは、この『山野光礼讃』などに見られる津軽人の春を待つ心であった。

展示室 N 特別史跡三内丸山遺跡出土の重要文化財：縄文の表現（通年）

特別史跡三内丸山遺跡は我が国を代表する縄文時代の拠点的な集落跡。縄文時代前期中頃から中期終末（約5500年前ー4000年前）にかけて長期間にわたって定住生活が営まれた。これまでの発掘調査によって、住居、墓、道路、貯蔵穴など集落を構成する各種の遺構や多彩な遺物が発見され、当時の環境や集落の様子などが明らかとなった。また、他地域との交流、交易を物語るヒスイや黒曜石の出土、DNA分析によるクリの栽培化などが明らかになるなど、数多くの発見がこれまでの縄文文化のイメージを大きく変えた。遺跡では現在も発掘調査がおこなわれており、更なる解明が進められている。

一方、土器や土偶などの出土品の数々は、美術表現としても重要な意味を持っている。当時の人間が抱いていた生命観や美意識、そして造形や表現に対する考え方など、縄文遺物が放つエネルギーは数千年の時を隔てた今もなお衰えず、私達を魅了し続けている。

国指定重要文化財の出土品の一部を展示し、三内丸山遺跡の豊かな文化の一端を紹介。

※ 展示品はすべて青森県教育庁文化財保護課所蔵

展示室 O 小企画：概念芸術ー「美術」への挑戦ー

現代芸術の多様な展開を決定づけた動向の一つに、1960年代から70年代にかけて、アメリカ、ヨーロッパそして日本などに広まった「概念芸術（コンセプチュアル・アート）」がある。

「概念芸術」のアーティストたちは、美術作品の物としての側面よりも、そこから伝わる観念を重視したため、写真や文字など、あえて物質性を感じさせない媒体を表現手段とした。これは、それまでの「美術」に対する一般的な考え方や「美術」をとりまくさまざまな制度への果敢な挑戦であった。

「概念芸術」の動きの中で特に重要な役割を果たした日本と海外のアーティストの5点の作品を紹介。

展示室 P Q 斎藤義重：創作のプロセス

絵画や彫刻といったジャンル分けを超えた独自の表現を追求した斎藤義重（1904ー2001）。

1960年代以降は、電気ドリルを使って合板に線を刻んだ連作を発表することで作品の物質性に重点をおき、1970年代末からは空間を取り込んだ立体作品へと移行していった。

本コーナーでは、そうした斎藤の創作プロセスを、立体やレリーフの作品とあわせて、設計図とも言えるドローイングや大辻清司、安齋重男が撮影した斎藤の様々なポートレートをとおして紹介。

第2期：変革の時 — 60年代を中心に—
2007年6月26日（火）—9月24日（月）

棟方志功展示室 60年代の棟方

1950年代後半、棟方はサンパウロ及びヴェネツィア・ビエンナーレなどの国際美術展で相次いで受賞し、国際的な評価を得、世界のムナカタとなった。59年には初めての海外旅行で欧米各国を歴訪し知見を広め、60年代にも2度アメリカに渡っている。60年、左眼の視力を失い、制作活動への不安を抱えながらも、逆に創作意欲を大いに募らせ、61年の「花矢の柵」、63年、69年に発表された「大世界の柵」などの大型板画にチャレンジする一方、「大首の柵」（鍵板画柵）を端緒とする、棟方の女性像、美人画の典型「大首絵」のスタイルを確立し、棟方志功の名が広く世に知れわたった時期である60年代の作品を中心に展示。

展示室 H 教育普及企画：菊地敦己ワークショップ・インスタレーション

当館のシンボルマーク、ロゴタイプ等の総合的なビジュアルイメージを担当したアートディレクターの菊地敦己による、ワークショップ及びインスタレーション。ワークショップは、情報の整理と再構成とその効果を伝えることをねらいとし、素材、用途、大きさ等の条件にもとづく分類・整理による配置の方法と効果の違いを感じてもらいながら、展示を作り上げる。

6月26日（火）—7月21日（土）タイポグラフィ：青森
7月23日（月）—9月24日（月）スカイブルー スノーホワイト ソイルブラウン

展示室 I 澤田の戦場、戦場のSAWADA

1950年代中葉から約20年間におよんだベトナム戦争は、当事国のみならず、世界のさまざまな国を巻き込んで、激しい論争を引き起こした。日本においても、日米安保体制のもとアメリカの政策を支持していた政府を厳しく批判する反戦の声が高まった。1960年代の美術界に噴出した従前の枠組みから逸脱する多様な表現は、ベトナム戦争を中核とし、既成の体制に強く反発する、安保闘争や学生運動といった社会的な状況と無関係ではなかった。

ベトナム戦争に対する世論の形成に大きな役割を果たしたのが、戦地の生の状況取材し、リアルタイムで発信したジャーナリストやカメラマンである。青森県出身の澤田教一は、そうした戦場カメラマンの一人。1936（昭和11）年、青森市に生まれた澤田は、1965年から1970年までの5年間、ベトナムやカンボジアなど、銃声と砲火の絶えないインドシナ半島の戦況をカメラで追い続けた。澤田の写真と、戦場で彼の活動を生々しく伝える数々の資料とをあわせて展示。

出品協力：フォト・オフィス・サワダ（澤田偉治雄）、澤田サタ
調査協力：今城力夫

展示室 JK 反芸術 — 芸術をぶっ壊した芸術

1960年代は高度経済成長と政治的な混乱によって、人々の生活や価値観が大きく変化した時代だった。そうした世相を受けて、美術の分野においても多くの若い美術家たちが旧来的な芸術観を否定し、新しい価値の創造を追求していく。

関西においては1954年に活動を開始した具体美術協会が、各種のパフォーマンスや身体的行為と密接に結びついた作品で注目を集め、関東でも東京都美術館で毎年開催されていた「読売アンデパンダン展」を主な舞台として、廃品や既製品など様々な素材を用いた作品や、挑発的な表現が多く見られるようになる。美術評論家の東野芳明が1960年の読売アンデパンダン展に出品していた工藤哲巳の作品に対し「反芸術」という名称を与えて以降、こうした動向は一気にブームとなっていった。1960年代の社会状況を反映した作品を紹介。

展示室 L 今和次郎、今純三：しらべもの [考現学] 展覧会

1927（昭和2）年の秋、創業まもない新宿紀伊國屋書店の一角で、一つの展覧会が開催された。「しらべもの [考現学] 展覧会」と名付けられたこの展覧会には、当時早稲田大学の教授をしていた今和次郎を中心に、和次郎の後輩で舞台美術の仕事に携わっていた吉田謙吉ら仲間達によって、自身の目とノートと鉛筆を駆使して、あたかも昆虫学者が蝶や甲虫を採集するかのごとく生け捕りにされたモノたち（都市風俗の記録）が、さながら昆虫標本のように展覧会場の壁面を埋め尽くしていた。展覧会は連日多くの人々で賑わい、「近頃珍しい展覧会」としてマスコミからも注目されることとなった。そして、1929（昭和4）年には和次郎と吉田謙吉との共著による『モデルノロヂオ（考現学）』（春陽堂）が出版され、ここに「考現学」という学問が一般に広く知られることとなった。一方、1923（大正12）年の関東大震災を機に東京から青森へと転居した和次郎の弟、純三も一人青森において考現学採集に取り組み、その成果を和次郎の許へ送っていた。「しらべもの展」に出品された「青森雪の風俗帳（其1）」には、「考現学」というフィルターを通して純三の視線がとらえた、雪深い一地方都市の風俗が鮮やかに写し出されている。

協力：工学院大学図書館、荻原正三

展示室 M 版画表現の挑戦

近代以降、日本の版画は、海外から入ってくる最新の芸術に関する情報に敏感に反応する一方で、海外での評価が高い江戸時代の浮世絵など、日本の伝統も意識しながら独自の表現を追求し、多くの作家が模索と挑戦を続けてた。その数十年の積み重ねを経た1950～60年代を中心に、恩地孝四郎（1891—1955）、青森市出身の関野準一郎（1914—1988）、常盤村（現藤崎町）出身の高木志朗（1934—1998）の三人の作家の作品を紹介。

展示室 O ×A プロジェクト No. 1:

フロリアン・クラール「無限カノン」× 成田亨

青森県ゆかりの作家と関連の深い作家、青森県の特性を導きだし得る作家を取り上げ、コレクションと連動させながら「青森」を考察していくプロジェクトとして「×A プロジェクト」を開催する。アートをとおして青森発の新しい視点を提示する試みである。

第 1 回はフロリアン・クラール (1968 ー、ドイツ生まれ) によるインスタレーションを紹介。フロリアン・クラールは自然界をモジュール化し、幾何学的調和を目指して再構成された立体作品を数多く手がけている美術家。「建築と機械、生命体を取りまぜたキャラクターを作りたい」と語るクラールは、どこにでもありそうで実はどこにも存在しない形を追求し続けている。その幾何学的な形態は成田亨のデザインした怪獣群とも共通する要素を持っている。

「無限カノン第四番」は、正十二面体にその対となる正二十面体の等比級数をもとに制作された作品。バッハの三声カノンに着想を得た音楽的構造を持っており、三重の構造体の各比率が $3/2$ (音程の 5 度)、 $1/2$ (オクターブ) 等で構成され、さらに細部まで音程の 3、4、6 度を含んだ協和性によって成立している。内と外、細部と全体が複雑にからみあい、音楽的なハーモニーを奏でている。

「万物の究極は数である」というピタゴラスに倣うかのように、世界、ひいては宇宙の構造を支える公式を探しだし、作品として提示していくクラール。三内丸山遺跡の発掘現場に着想し、厳密な法則のもとに設計された美術館の展示空間、中でも外壁が内部空間に入り込んだ特徴的な構造を持つ展示室 O とクラール作品が共鳴させながら、「空間の美しさ」を創出。

展示室 P 具象絵画の戦後 1: 津軽じょんから～斎藤真一の世界
岡山県出身の斎藤真一 (1922 ー 1994) は、パリ留学の際に知遇をえた藤田嗣治のすすめで東北・北陸を旅し、そこで盲目の旅芸人である替女 (ごぜ) のテーマと巡りあった。中でも青森県の津軽じょんから節や十三の砂山唄といった民謡をテーマとし、女旅芸人の苛酷な生と死を描いた一連の作品は、日本の風土に根ざした深い情念を感じさせる表現として、高く評価されている。その代表的な作品である『風・津軽じょんから』を中心に展示。

展示室 Q 具象絵画の戦後 2: 夜の静物 渡辺貞一・名久井由蔵・石ヶ森恒蔵

渡辺貞一 (青森市出身、1917 ー 1981)、名久井由蔵 (八戸市出身、1917 ー 1979)、石ヶ森恒蔵 (三戸町出身、1910 ー 1987) の三人は、戦前の一時期、松木満史と浜田英一が青森市に設けた美術研究所に学び、同じ国画会に所属していた。彼らの、1950 年代から 70 年代にかけての作品は、塗り重ねただけではなく、画面をひっかいたり傷をつけたりしてつくられた複雑なマチエールで描かれているが、特に静物画は、静謐な雰囲気の中に多彩な表情が感じられる魅力的な作品群となっている。アンフォルメルや抽象表現主義などの嵐が吹き荒れる中、独自の

詩情を感じさせる油彩画で具象絵画の可能性を追求した三人の画家の作品を展示。

第3期：企画展と合わせて楽しむ

2007年9月26日（水）－12月24日（月・祝）

棟方志功展示室 大世界の柵、そして白と黒の世界

棟方板画美術館の協力を得て、世界最大級の版画とされる「大世界の柵」（乾・坤）の二面を紹介。（展示スペースの関係上、会期中、前期・後期に分けて、一面ずつ展示）

展示室 H 1922年の朝鮮と今和次郎

弘前市出身の建築家、今和次郎は考現学の創始者として知られる存在ですが、一方で、1917（大正16）年頃から本格的にはじめた民家調査においても、重要な足跡を残した人物。和次郎は、日本のみならず朝鮮半島へも赴き、1922（大正11）年の9月から10月にかけて各地を巡って民家調査をおこなった。この調査は、1910（明治43）年の日韓併合により、日本が朝鮮を統治するために設置した植民地政府、朝鮮総督府からの依頼により実現したものであり、総督府囑託の任に就いていた地理学者小田内通敏（おだうち・みちとし）がおこなっていた朝鮮の暮らしに関する調査の特別調査として和次郎が担当し、その成果は1924（大正13）年に『朝鮮部落調査特別報告第一冊』として総督府より発行された。

和次郎はこの調査において、あくまでフラットな視線をもって朝鮮の民家とそこに暮らす人々の有様を詳細に見つめ、記録した。その結果、80年以上の時を経た現在、和次郎が採集したこれらの記録は、特定のイメージに絡めとられることのない、当時の朝鮮の記憶を次代に手渡すための貴重なイメージとして残されることになった。

展示室 I 考古学と前衛と 一 小野忠明／小野忠弘の芸術一

小野忠明と小野忠弘の兄弟は弘前市出身。兄の小野忠明は若き日の棟方志功にゴッホを教えたことでよく知られているが、画家であり、考古学者でもありました。戦前には当時日本占領下にあった朝鮮に渡り、平壤府博物館につとめて楽浪郡の遺跡などの発掘に従事した。また、そこで崔榮林をはじめとする現地の若い画家たちに美術を教え、彼らが結成した美術団体珠壺会からは戦後韓国を代表する画家たちが育っていった。戦後帰国して後は、明の星高校で教鞭をとり、青森県の考古学界の先駆者の一人として活躍したが、画家としても独自の技法による抽象的な版画を制作する。一連の出展作は、ほとんど発表されることもないまま残されていたもので、韓国の古い壁画をおもわせるような独特の質感と色彩が感じられる。

弟の小野忠弘はジャンク・アートの第一人者であり、戦後はヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど、世界的にも高く評価された前衛のアーティスト。福井県の三国町に居を定め、教鞭をとるかたわら、古美術や考古学にも造詣が深く、同地の文化財審議委員などもつとめていた。様々な古物が貼り込まれた深い青の地に白いエナメルドリッピングが自在に走り、遙かにひろがる夜の空を思わせるような雄大・深遠な印象をあたえる晩年のBLUEのシリーズを展示。

展示室 K 青光画社と青森県の洋画の先駆者たち

1921（大正10）年、18才の棟方志功は友人の松木満史らと語り、自分たちの手によって公募し展示する美術団体「青光画社」をたちあげ、10月15日 新町小学校にて第1回展を開催した。さらに古藤正雄、鷹山宇一を仲間に加え、毎年2回、彼らが上京するまでの間10回展まで続いたこの青光画社は、志功をはじめ後に日本の画壇に確固たる地位を占めるに至る彼ら4人の芸術家の輝かしい出発点となった。この展示では、県立美術館で所蔵する棟方志功、松木満史、鷹山宇一の作品に加え、むつ市が所蔵する古藤正雄の大正期の油絵と、代表的な彫刻作品を展示。夢を抱いた若き日より、晩年にいたるまで終生の友人でありつづけた青光画社の4人の作品を集めた。

展示室 L 石井康治：詩・季・彩

当館はガラス作家石井康治の作品150点余の寄託を御遺族より受けた。生前、「青森で作った作品を、青森の人たちに見てもらえるスペースを作りたい」と作家本人が語っていた志を承けてのことである。

1946年千葉県に生まれた石井康治は、東京芸術大学卒業後、ガラス工芸作家として活動を始め、1991年には三内丸山に念願の工房「石井ガラススタジオ青森工房」を開設。1996年11月19日、青森で急逝するまで、青森の自然は彼の創作の源泉となった。

石井康治は「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」と語り、こよなく青森を愛し、青森の地で制作し、青森を表現し作品に留めようとした作家であった。

展示室 M 寺崎廣業と鶯谷龍岬

慶応2年、羽後国秋田東根小屋町（現秋田市）に生まれた廣業は、青年期に狩野派および四条派、さらには南画を学び、それらを融合した独自の画境を切り開いていった。文展の第1回展から出品を続ける一方、東京美術学校の教授として教鞭をとり、明治34年には私塾である天籟画塾も開設するなど後進の育成にも力を注いだ。その門弟の中には青森県出身の日本画家、鶯谷龍岬や鳥谷幡山も含まれている。

出品作の「四季山水図」は古い山水画の形式を踏まえ、写生に基づく空間表現に大和絵、四条派、南画の筆法が融合された広業円熟期の作風がよく示されている。四季の景観が巧みに描き分けられ、情感あふれるおだかやかな作風の中にも、作家の高い精神性が感じられる四幅対の佳品。

寺崎廣業および東京美術学校日本画科選科に学び、のちに文展・帝展で活躍した戦前の青森県を代表する日本画家。平家物語などを多く題材とし、藤原時代の絵巻物や古扇面を参考にするなど、大和絵を基調とする濃厚な詩情をたたえた画風で知られている。「雨情三題」は三幅対の作品で、水墨を基調としながらも金泥、岩絵の具を用いた大胆な賦彩を試みるなど、龍岬最盛期の傑作と言える優品。

展示室 O ×A プロジェクト No. 2: 鈴木正治の“わ”

1919 (大正 8) 年青森市に生まれ、今年、88 歳を迎える鈴木正治。戦後、復員して青森に戻り、読売アンデパンダン展などに出品を続けるも、石彫、木彫から、版画、墨絵など様々な表現技法に取り組み、鈴木ならではの軽妙洒脱かつ含蓄のある作品を創り続けている。

鈴木を慕う創り手が、地元青森は言うに及ばず全国各地から青森県立美術館に集まり、それぞれが個性豊かに鈴木に対するオマージュを表現し、鈴木との目に見えぬ輪を美術館の展示空間に現出させた。

※ 会期中の 9 月 29、30 日、鈴木と親交のあるフランスの歌手 ピエール・バルーのコンサートが美術館シアターで開催された

展示室 P Q 海外版画特集: 世紀末から 20 世紀へ - 西洋美術の成熟と革新 -

19 世紀の終わりから 20 世紀へと続く時代、ヨーロッパでは近代社会が成熟し、新大陸ではアメリカ合衆国が大きな成長を遂げた。一方で、諸国の利害は国家間、民族間の対立と複雑に絡み合い、20 世紀前半の二つの世界大戦に象徴される多くの戦争が起こっている。交通や情報通信手段の進歩に合わせるように、芸術運動は地域や国を超え、さらに、しばしば美術、文学、音楽などのジャンルを超えた展開をみせ、芸術家同士の交流も活発になる。画家や詩人、音楽家の共同制作が行われたり、一人の芸術家が絵画、彫刻、版画、さらには舞台や映画など、多様なジャンルに取り組んでいることも珍しくない。

19 世紀後半から 20 世紀初頭に活動した作家から、第一次世界大戦後から 1980 年代まで活動した作家まで、6 名の作品を紹介。彼らは生涯を通して、旅行も含めヨーロッパ各地やアメリカなど多くの場所に滞在している。さらに 20 世紀に入って本格的な創作活動を始めた 4 人の作家 - カンディンスキー、クレー、ピカソ、ダリ - は、故郷への愛着やアイデンティティへのこだわりを持ちながらも、生涯を通して母国以外を主な活動の場としている期間が長いという共通点を持っている。国を超えて広がりを見せる芸術活動と、迫害や戦争など、自らが生きる時代と社会の光と影と対峙しながらそれぞれの表現を追求した作家達の代表作を集めた。

第 4 期: 近代版画の発展と青森

2008 年 1 月 1 日 (火・祝) - 4 月 13 日 (日)

棟方志功展示室 芸業の展開

油絵画家を目指して上京した棟方志功は、川上澄生の版画「初夏の風」に出会ったことがきっかけで版画を始めるようになった。棟方が版画を始めた頃の作品は、当然のごとく川上澄生の作品と似たもので、その時期を過ぎてからは棟方独自の版画が展開される。

版画を本業としてからも、自ら倭絵 (やまとえ) と称している肉筆作品も描いており、晩年には棟方美人画と言われるような独自の世界を確立する。初期棟方版画をはじめ、幅広い棟方の芸業を示す作品を展示。

(展示構成: 棟方志功記念館)

展示室 H ×A プロジェクト No. 3: 六ヶ所村開拓写真 × 小島一郎

大正 13 年、青森市大町 (現: 本町) に、県内でも有数の写真材料商「小島写真機店」を営む父平八郎と母たかの長男として生まれた小島一郎は、昭和 30 年代、青森県内をくまなく歩き、津軽の貧しい農村や厳冬の下北の風景などを撮り続けた。青森県立美術館は、平成 17 年に、3000 点以上に及ぶ小島の写真や資料を、遺族から寄託されている。

本プロジェクトでは、この小島の寄託作品の一部とともに、庄内酪農農業協同組合 (現: らくのう青森農業協同組合) が保管する、六ヶ所村の開拓時代の写真を展示。

「庄内開拓団」は、戦後の食糧難を克服するために打ち出された国策を受け、昭和 22 年、山形県庄内郷から青森県六ヶ所村芋ヶ崎地区に入植した人々である。彼らは、幕舎に暮らしながら、家畜や器具も持たないまま、鋤一本で荒涼たる原野を切り開いていった。自らの手で開墾した地に根づいていく庄内開拓村民のたくましい暮らしぶりを、一人のアマチュアカメラマン、川村勇がカメラに収めていた。

厳寒の大地をひたすら歩き、そこで得た身体感覚を、独特の焼きこみによる造形で力強く表現した小島一郎、自らも開拓民としてその地に住まい、内側からのまなざしでシャッターを切り続けた川村勇。それぞれの方法で、被写体となった土地と真摯に向き合った二人の写真から、写真家の個性と写真における場所の力について考えた。

協力: 小島弘子、川村勇、庄内酪農農業協同組合、野坂千之助

展示室 I 成田亨の怪獣デザイン: その「構造」と「意外性」

成田亨 (1929 - 2002) が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画を展示。

展示室 J K 今井俊満：ゆたかなる混沌への序章

1957年、フランスに渡っていた今井俊満（いまい・としみつ 1928－2002）は、アンフォルメル運動の主唱者ミシェル・タピエらとともに一時帰国し、アンフォルメル旋風を巻き起こした。それは、戦後の日本美術の動向に大きな影響を与えると同時に、日本の若い世代に強烈な刺激を与えた。自らの活動も、アンフォルメルの旗手として、その仕事は高く評価されたものの、「自分をコピーし続ける」ことを否定し、ひとつとところに安住することを潔しとせず、常に新たな表現に挑戦し続けた。

アンフォルメルの前衛的な非具象の世界から一転し、『花鳥風月』の安土桃山時代を思わせる豪壮華麗な世界、『飛花落葉』のいぶし銀の世界へ。さらに変転して、戦争をテーマにしたヒロシマ・シリーズ。そして、癌という病を押して、渋谷109に出入りし、コギャルの持っているエネルギーを「ゆたかな混沌」として肯定的に捉え、残り少ない命を自覚しつつ、猛然と絵筆を振るったコギャル・シリーズ。

死の直前、作家本人から寄贈を受けたこれら100点を超える作品及びこれまで収集してきた作品の中から、アンフォルメルなど初期作品を中心に紹介。

展示室 L 近藤悠三：陶業の展開

近藤悠三（こんどう・ゆうぞう 1902－1985）は京都に生まれ、1977年、染付の技法で無形重要文化財保持者（人間国宝）の認定を受け、日本の陶芸界に大きな足跡を残した。当館は生前、近藤悠三と親交があった八戸市出身の故中村正信氏から、平成8年度に94件（150点）に及ぶ寄贈を受けた。その中村コレクションの中から、直径70cmを超える大皿「梅染附金彩大皿」をはじめ、花瓶、壺など主要な作品を3期に分け、1月は染付に金彩を施した豪壮華麗な作品、2月は雄渾な山水をテーマにした作品、3～4月は1965年から重要無形文化財（人間国宝）に認定された1977年までの日本伝統工芸展出品作品を展示。

展示室 M 日本近代版画特集2：屏風仕立て

屏風仕立てにした版画作品を紹介。関野準一郎の『アメリカインディアン』では、大きな画面全体を埋め尽くす、うねるような紋様とダイナミックな動きを感じさせるモチーフが、二曲一隻の屏風装によって観るものを取り込むような空間性を得て、一層迫力を増している。高木志朗の『作品貼交屏風』は、4点の作品を四曲一隻の屏風に仕立てたもの。4点はそれぞれ独立した作品だが、抽象的な絵柄の4つの作品が一つの屏風に取り入れられることで、新しい美しさが生まれている。

展示室 O 青森「創作版画誌」時代

「版画雑誌流行時代」といわれた1930年代、その波は本州最北端の地、青森にも押し寄せた。1930（昭和5）年の春、青森中学校（現・青森高等学校）に通う3人の若者（柿崎卓二、佐藤米次郎、根市良三）により、一冊の雑誌が創刊される。各人が制作した版画が挿入された『緑樹夢』（りよくじゅむ）という美しいタイトルを持つこの雑誌は、青森県初の創作版画誌として美術を愛好する同世代の若者達の支持を集めるところとなり、その後、次々に新しい版画誌が刊行されていくことになった。

これら版画誌の製作には佐藤米次郎、関野準一郎など戦後、青森県を代表する版画家として活躍することになる若者が中心となっていたが、その他にも多くの若者が参加し、また、今純三、下澤木鉢郎、棟方志功といった先輩美術家や中央で活躍する版画家など当時、版画制作に関わっていた多彩な美術家の作品が掲載されていた。さらに全国各地で同様の活動をおこなっていた愛好家の作品が掲載されているのも大きな特徴である。当時、版画誌は誰もが参加できる展示会場としての役割を担い、広く開かれた交流の場となっていた。

こうした活動は明治後半期に起こった、自画・自刻・自摺を旨とする「創作版画運動」が昭和初期には全国に浸透していたことを示す証であり、これら版画誌の流行によって、さらに創作版画の裾野は広がっていった。青森県で戦前に発行された代表的な創作版画誌を展示し、昭和初期、青森の若者達を熱中させた創作版画誌というメディアを振り返った。

展示室 P Q 日本近代版画特集1：銅版画と青森を結ぶ糸 ー今純三と関野準一郎ー

西洋伝来の技法である銅版画に取り組んだ作家達は、それぞれ工夫を凝らしてこの舶来の技法に取り組む。その探求は第二次世界大戦後、日本の作家による銅版画が数多くの国際展で受賞し、豊かな実を結ぶことになる。今回の展示では、銅版画と青森とのこれまであまり知られていない結びつきを紹介。

関野準一郎は、1950年代の前半、東京の自宅で銅版画の研究会を開催していた。駒井哲郎、浜田知明、浜口陽三など、1950年代以降に国際的に活躍する銅版画家たちがここを訪れている。銅版やインクの方法、紙まで自前で調達し、道具を工夫して版を作り、プレス機まで自作したりした。戦後の物不足で画材の入手もままならないなか、銅版画の魅力に惹かれた多彩な人物がここに集い、やがてそれぞれの道を歩んで行く。

東京で新進の画家として活躍していた今純三は、1923年の関東大震災を機に青森に戻り、銅版画や石版画を中心に制作に取り組んだ。関野をはじめ、棟方志功など美術に魅入られた青森の若者達が純三のアトリエを訪れている。戦前の青森での純三と関野の作品、そして戦後、関野の銅版画研究会に集った日本を代表する作家達の作品を中心に展示。

学芸

美術資料貸出状況

作品保存修復

美術資料貸出状況

中村宏展

貸出先

- ・東京都現代美術館
- ・名古屋市美術館
- ・東京新聞

展示施設（会期）

- ・東京都現代美術館（07 / 1 / 20 - 4 / 1）
- ・名古屋市美術館（07 / 7 / 21 - 9 / 17）

貸出点数：3

作品名

- ・中村宏「テロル」
- ・中村宏「場所の兆（2）」
- ・中村宏「観光独裁」

棟方志功展

貸出先

- ・国際交流基金

展示施設（会期）

- ・バリ日本文化会館（07 / 3 / 6 - 4 / 7）

貸出点数：4

作品名

- ・棟方志功「モンマルトル・ムーランルージュの柵」
- ・棟方志功「オーベールのゴッホの教会の柵」
- ・棟方志功「巴里セーヌ河の柵」
- ・棟方志功「雪国風景図」

ウルトラマン伝説展

貸出先

- ・浦添市美術館

展示施設（会期）

- ・浦添市美術館（07 / 4 / 19 - 6 / 5）

貸出点数：14

作品名

- ・成田亨「ウルトラマンイラスト」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「カネゴン初稿」
- ・成田亨「ガラモン初稿」
- ・成田亨「ケムール人」
- ・成田亨「ゴモラ初稿」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル、s号ドッキング案」
- ・成田亨「バルタン星人初稿」
- ・成田亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」
- ・成田亨「科学特捜隊基地セット」
- ・成田亨「特殊潜航艇s号（3面図）」

棟方志功ー「板画への挑戦」

貸出先

- ・那珂川町馬頭広重美術館

展示施設（会期）

- ・那珂川町馬頭広重美術館（07 / 4 / 20 - 6 / 3）

貸出点数：3

作品名

- ・棟方志功「大和しよし」
- ・棟方志功「花矢の柵」
- ・棟方志功「鷺囀の柵」

ウルトラマン伝説展

貸出先

- ・郡山市立美術館

展示施設（会期）

- ・郡山市立美術館（07 / 7 / 14 - 8 / 26）

貸出点数：37

作品名

- ・成田亨「アイロス星人」
- ・成田亨「アポラス」
- ・成田亨「アントラー初稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン決定稿 B 案」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「カネゴン決定稿」
- ・成田亨「ガラダマ」
- ・成田亨「ガラモン初稿」
- ・成田亨「キングジョー初稿」
- ・成田亨「グリーンモンス決定稿」
- ・成田亨「ケムール人」
- ・成田亨「ゴウガ注意書き」
- ・成田亨「ゴドラ星人」
- ・成田亨「シーポーズ」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル、s号ドッキング案」
- ・成田亨「セミ人間」
- ・成田亨「ダダ頭部（2点）」
- ・成田亨「バニラ」
- ・成田亨「バラージ「ノアの神」神殿セット」
- ・成田亨「バラージの青い石 神殿正面の壁画」
- ・成田亨「バルタン星人初稿」
- ・成田亨「ビートル2号」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」
- ・成田亨「レッドキング」
- ・成田亨「ワイアール星人」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊セット（ホーク1号発進口）」
- ・成田亨「科学特捜隊基地セット」
- ・成田亨「特殊潜航艇s号（3面図）」

「怪獣と美術ー成田亨の造形芸術とその後の怪獣美術ー」展

貸出先

- ・財団法人山形市文化振興事業団
- ・三鷹市芸術文化振興財団
- ・財団法人足利市みどり文化スポーツ財団

・東京新聞

展示施設（会期）

- ・山寺芭蕉記念館（07 / 7 / 18 - 8 / 26）
- ・三鷹市美術ギャラリー（07 / 9 / 8 - 10 / 21）
- ・足利市立美術館（07 / 11 / 3 - 12 / 24）

貸出点数：31

作品名

- ・成田亨「アントラー決定稿」
- ・成田亨「イカルス星人イラスト」
- ・成田亨「ウー A 案」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「エレキング」
- ・成田亨「カネゴン決定稿」
- ・成田亨「ガボラ」
- ・成田亨「ガボラ」
- ・成田亨「ガラモン決定稿」
- ・成田亨「キャンゴ」
- ・成田亨「ギラドラ初稿」
- ・成田亨「キングジョー決定稿」
- ・成田亨「グビラ初稿」
- ・成田亨「ケスラ決定稿」
- ・成田亨「ゴモラ決定稿」
- ・成田亨「ザラブ星人」
- ・成田亨「ザンボラー」
- ・成田亨「ジャミラ」
- ・成田亨「ダダ」
- ・成田亨「チブル星人」
- ・成田亨「ドドンゴ」
- ・成田亨「ドラコ決定稿」
- ・成田亨「ドラコ初稿」
- ・成田亨「バルタン星人決定稿」
- ・成田亨「プラチク星人」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ミクラス」
- ・成田亨「メトロロン星人」
- ・成田亨「メフィラス星人」
- ・成田亨「ラゴン」
- ・成田亨「レッドキング」

日展 100 年記念展

貸出先

- ・独立行政法人国立美術館 国立新美術館
- ・日本経済新聞社
- 展示施設（会期）
- ・独立行政法人国立美術館 国立新美術館（07 / 7 / 25 - 08 / 9 / 3）

貸出点数：1

作品名

- ・棟方志功「勝鬨善知鳥版画曼陀羅」

～青森の女流画家～ 橋本花・佐野ぬい二人展

貸出先

- ・十和田市

展示施設（会期）

- ・十和田市称徳館（07 / 7 / 26 - 9 / 4）

貸出点数：124

作品名

- ・橋本花「奥入瀬渓流」
- ・橋本花「バリの裏街（メトロ）」
- ・橋本花「シャルトル風景」
- ・橋本花「バリの裏街」
- ・橋本花「カーニバル」
- ・橋本花「カーネーション」
- ・橋本花「南米の港街」
- ・橋本花「秋」
- ・橋本花「ぼたん」
- ・橋本花「あじさい」
- ・橋本花「春の山道」
- ・橋本花「ぼたん」
- ・橋本花「花々」
- ・佐野ぬい「スケッチブック一式」
- ・佐野ぬい「瓶」
- ・佐野ぬい「角はデパート」
- ・佐野ぬい「青い自画像」
- ・佐野ぬい「或るところ」
- ・佐野ぬい「くるまの唄」
- ・佐野ぬい「系譜」
- ・佐野ぬい「青の背景」
- ・佐野ぬい「ブルーノートの系譜」
- ・佐野ぬい「青と白のスクウェア」
- ・佐野ぬい「フルートの扉」

版画を通じた北の風土

貸出先

- ・紋別市立博物館

展示施設（会期）

- ・紋別市立博物館（07 / 7 / 28 - 8 / 19）

貸出点数：1

作品名

- ・棟方志功「無盡蔵画欄 東湧西没画欄」

「磯部行久」展

貸出先

- ・東京都現代美術館

展示施設（会期）

- ・東京都現代美術館（07 / 7 / 28 - 9 / 30）

貸出点数：3

作品名

- ・磯部行久「WORK 61-1」
- ・磯部行久「WORK 61-2」
- ・磯部行久「WORK 61-3」

ウルトラマン大博覧会

貸出先

- ・ウルトラマン大博覧会実行委員会

展示施設（会期）

- ・森アーツセンター（07 / 11 / 28 - 08 / 1 / 25）

貸出点数：26

作品名

- ・成田亨「アポラス」
- ・成田亨「ウー決定稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」
- ・成田亨「ウルトラセブン初稿」

- ・成田亨「ウルトラマン初稿」
- ・成田亨「カネゴン初稿」
- ・成田亨「カネゴン初稿」
- ・成田亨「ガラダマ」
- ・成田亨「キュラソ星人」
- ・成田亨「キングジョー初稿」
- ・成田亨「グリーンモンス決定稿」
- ・成田亨「ケムール人」
- ・成田亨「シーボーズ」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル、s号ドッキング案」
- ・成田亨「バニラ」
- ・成田亨「バルタン星人初稿」
- ・成田亨「ビートル2号」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」
- ・成田亨「レッドキング」
- ・成田亨「ウルトラ警備隊セット（ホーク1号発進口）」
- ・成田亨「科学特捜隊基地セット」
- ・成田亨「特殊潜航艇s号（3面図）」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録を行った。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

アートイン三内丸山遺跡プロジェクト

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

平成 18 年度 普及プログラム

概要

来館者が自らの興味に応じて芸術に対する関心を高め理解を深めることができるよう、2006年7月の開館直後から、多様な普及プログラムを展開している。なかでも、子どもたちの感性や創造力を育むため、子どもを対象に楽しみながら芸術に親しむプログラムを積極的に実施している。また、県民とともに活動する美術館を目指して、県内大学や地域の民間団体との連携推進にも取り組んでいる。

平成18年度は、鑑賞支援のためのプログラムとして、子どもや親子のための鑑賞ツアーとして美術館探検ツアー及び当館学芸員が展示作品を中心に解説する講義形式のアート入門を、体験支援のためのプログラムとして、様々な創作体験や造形遊び等をテーマとしたオープンアトリエ、アーティストと出会い交流するアーティストワークショップやトークイベント及び学校と連携した交流プログラムを実施した。

鑑賞支援のためのプログラム

1 美術館探検ツアー

概要：子ども・親子を対象にした、作品と美術館に親しむための鑑賞ツアー。9月は開館記念展「シャガール：アレコとアメリカ亡命時代」を、11月～2月は常設展をテーマに、建物の特徴も説明しながら、各月1回、それぞれ11:00～12:00と14:00～15:00の1日2回開催した。

対象：小学生以上 各回20人

場所：展示室

(1) シャガールの世界をたのしもう

開催日：2006年9月9日

参加者数：20人

(2) 青森県立美術館のメインコレクションから①

開催日：2006年11月12日

参加者数：244人

(3) 青森県立美術館のメインコレクションから②

開催日：2006年12月24日

参加者数：20人

(4) 青森県立美術館のメインコレクションから③

開催日：2007年1月28日

参加者数：29人

(5) 青森県立美術館のメインコレクションから④

開催日：2007年2月25日

参加者数：5人

2 アート入門

概要：青森県ゆかりの作家や展示中の作品を中心に、当館学芸員が映像を交えながら解説する講座。9月から2月まで原則として毎月第2水曜日14:00～15:30に開催した。

対象：一般 各日220人

場所：シアター

(1) 横溢する生命力ー棟方志功・工藤哲巳・近藤悠三の世界ー

講師：三好徹

開催日：2006年9月13日

参加者数：54人

(2) 「縄文と現代」展その①ー現代美術早わかり講座

講師：工藤健志

開催日：2006年10月11日

参加者数：42人

(3) 「縄文と現代」展その②ー楽しく見る縄文

講師：板倉容子

開催日：2006年11月8日

参加者数：28人

(4) シャガール『アレコ』ー第3幕とのお別れの前に…

講師：高橋しげみ

開催日：2006年12月13日

参加者数：68人

(5) 版画の魅力ー技法のいろいろ

講師：菅野晶

開催日：2007年1月17日

参加者数：34人

(6) 青森県の美術史ー美術家たちの肖像

講師：池田亨

開催日：2007年2月14日

参加者数：42人

体験支援のためのプログラム

1 オープンアトリエ

(1) 「ぼくはうみ わたしはひかり vol. 1」

子どもの色彩に対する感受性を育むため、絵本「あおくときいろちゃん」の読み聞かせや手形を使った「あおくときいろちゃん」制作、巨大風船制作を行った。

講師：西村恵美子（青森市読書団体連絡会会長）、佐藤秀樹（こどもランドあおもり代表）、橋本まゆ（当館エデュケーター）

日時：2006年8月19日（土）10：30－12：00

場所：ワークショップ B

対象：4歳～小学校低学年程度 20人

参加者数：42人

(2) 「ピンホール写真に挑戦」

スチール缶を加工したピンホールカメラ制作から撮影、現像までを体験した。

講師：三澤章（写真家）

日時：2006年8月19日（土）13：00－16：00、20日（日）10：00～15：00（2日間連続）

場所：ワークショップ A

対象：4歳～小学校低学年程度 20人

参加者数：25人

(3) 「大きな絵と砂遊び」

家庭では描けないような大きな絵を自由に描いたり、砂を糊で固めた立体作品を作ること、創作の楽しさを体験した。青森中央短期大学幼児保育学科との連携プログラム。

日時：2006年9月9日（土）10：00－16：00

場所：ワークショップ B

対象：3～5歳 40人

参加者数：54人

(4) 「人形を作って演じてみよう」

「大きなかぶ」に登場する動物の人形作りと人形劇を演じる体験。

講師：弘前大学児童文化研究部

日時：2006年9月10日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップ A

対象：親子（小学1年生～3年生とその保護者）15組

参加者数：27人

(5) 人形劇公演「白雪姫」

人形劇団つがるによる公演。津軽弁で演じられる「白雪姫」を楽しんだ。

日時：2006年9月10日（日）15：15－16：00

場所：ワークショップ B 屋外

対象：こども～一般 100人程度

参加者数：71人

(6) 「にじみ絵、フォルメン」

シュタイナー教育で実践されているにじみ絵とフォルメン線描の体験。弘前大学教育学部教育学科教育史研究室との連携プログラム。

日時：2006年9月23日（土）、24日（日）各日13：00－16：30

場所：ワークショップ A

対象：4歳以上 定員なし

参加者数：181人

(7) 「みんなの技術室 木工—木を知る、木に触れる」

木の種類や特性を学びながら、いろいろな種類の木から積み木を作った。

講師：葛西康人（Easy Living 代表、家具職人）

日時：2006年9月23日（土）15：00－16：00、24日（日）10：00～15：00（2日間連続）

場所：ワークショップ B

対象：小学生以上 15人

参加者数：16人

(8) 「ぼくはうみ わたしはひかり vol. 2」

「光と影」「色」をテーマに、絵本の読み聞かせとおもちゃ作りなどを体験した。

講師：西村恵美子（青森市読書団体連絡会会長）、佐藤秀樹（こどもランドあおもり代表）

日時：2006年11月4日（土）10：30－12：00

場所：ワークショップ A

対象：4歳～小学校低学年 20人

参加者数：44人

(9) 「おいしい実験茶会」

板画家棟方志功が行った「実験茶会」にならい、茶会や点茶の体験を行った。

講師：木立宗恵（茶道裏千家教授）、若井秀美（棟方志功記念館学芸員）

日時：2006年11月4日（土）13：00－15：00

場所：ワークショップ B

対象：4歳以上 20人

参加者数：26人

(10) 「ふしぎ きれい 積み木おじさんの積み木ショー」

スイス・ネフ社製の積み木を使って美しいオブジェや不思議な動きを楽しむショーを開催。

講師：相沢康夫（おもちゃデザイナー）

日時：2006年11月19日（日）10：00－11：30

場所：ワークショップ B

対象：4歳以上 30人

参加者数：163人

(11) 「クリスマスキッズパーティー！」

LED ランプを使った照明オブジェの制作と飾りつけの後、クリスマスパーティーを開催。

講師：長根寛（照明デザイナー）、小野さやか（インテリアデザイナー）、DJ タカイチ★ヤング（DJ）

日時：2006年12月24日（日）10：00－16：00

場所：ワークショップ B

対象：4歳以上 30人

参加者数：86人

(12) 「べこもちでアート＊おいしいな！」

下北郡大間町の郷土料理「べこもち」を作り、模様の美しさとおいしさを楽しんだ。

講師：大間町こすもす生活改善グループ

日時：2007年2月3日（土）13：00－15：00

場所：ワークショップ B

対象：親子20組

参加者数：60人

(13) 「木エーシチューのための木のスプーン！」

木のスプーン作りをデザインから削り出しまで全て一人で行い、シチューを食べて仕上がりを確認した。

講師：葛西康人（Easy Living 代表、家具職人）

日時：2007年2月24日（土）、25日（日）各日10：00－16：00

（2日間連続）

場所：ワークショップ A

対象：小学校高学年以上 15人

参加者数：9人

(14) 「雪・色・あそび」

カラーインクを染み込ませた雪玉を画用紙のすべり台に乗せて、雪がとけて色の川ができる様を楽しんだり、画用紙の上でカラーインクを流して色の道を作って遊んだ。

講師：野坂徹夫（美術家）、あおもり子ども劇場

日時：2007年3月4日（日）10：00－12：00

場所：ワークショップ B

対象：4歳以上 40人

参加者数：56人

(15) 「シルクスクリン版画—色と形のふしぎ」

シルクスクリン版画の初歩的な技術を使って布の作品を制作した。

講師：乗田菜々美（当館企画展実行委員会スタッフ）

日時：2007年3月24日（土）10：00－16：00

場所：ワークショップ A

対象：小学生以上 15人

参加者数：13人

2 アーティストワークショップ

(1) 馬場哲晃「D1 グランプリ」

企画展「縄文と現代」展出品作家の馬場哲晃さんによるワークショップ。出品作であるD1 グランプリ（粘土で作った土偶をコンピューター上で対戦させるゲーム）を体験した。

講師：馬場哲晃（メディアアーティスト）

日時：2006年10月8日（日）、9日（月）各日14：00－17：00

場所：ワークショップ A、エントランス

対象：小学生以上 30人

参加者数：49人

(2) 菊地敦己「ピクトデザイン」

当館のビジュアル・アイデンティティを手がけた菊地敦己さんによるワークショップ。館内のピクトデザインを体験した。

講師：菊地敦己（アートディレクター）

日時：2006年11月3日（金）13：00－16：00

場所：ワークショップ A

対象：小学生以上 20人

参加者数：13人

(3) 横山裕一「版画を楽しもう」

企画展「縄文と現代」展出品作家の横山裕一さんによるワークショップ。消しゴムで作った版を並べて押して「顔」を描くなど、消しゴム版画を楽しんだ。

講師：横山裕一（漫画家・イラストレーター）

日時：2007年1月28日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップ A

対象：小学生以上 20人

参加者数：31人

(4) 柳谷暁彦「音の言葉」

青森市在住のアーティスト柳谷暁彦さんによる、音を言葉（形）にするワークショップ。

講師：柳谷暁彦（アーティスト）

日時：2007年2月11日（日）13：30－16：30

場所：ワークショップ A

対象：中学生以上 15人

参加者数：22人

3 トークイベント

「福田里香と Goma のフード+アートのおはなし」

企画展「縄文と現代」展出品作家である福田里香さんと女性 3人組の料理創作ユニット Goma をゲストに、これまでの活動やフードとアートの関係性などのお話をうかがった。

ゲスト：福田里香（料理研究家）、Goma（料理創作ユニット）

進行：板倉容子（当館学芸員）

日時：2007年3月18日（日）15：00－16：30

場所：美術館カフェ「4匹の猫」

対象：一般 50人

参加者数：60人

4 学校連携プログラム

(1) 「高校生ポスターデザインワークショップ」

県立黒石商業高等学校情報デザイン科生徒を対象にポスターデザインワークショップを開催し、その成果物である「縄文と現代」展ポスターデザイン案を同展会期中に当館及び青森市新町商店街に展示した。

講師：菊地敦己（アートディレクター）、工藤健志（当館学芸員）

日時：2006年8月10日（木）13:00 - 17:00

場所：ワークショップ A

参加者数：県立黒石商業高等学校情報デザイン科の生徒 18人

(2) 「高校生アート交流プログラム」

県内の美術関連学科に在籍する高校生を対象とした交流プログラム。企画展「縄文と現代」展出品作家の馬場哲晃さんのインタラクティブアートの体験や、意見交換を行った。

日時：2006年10月10日（火）12:00 - 15:00

場所：シアター、ワークショップ B

参加者数：県立青森戸山高等学校（美術科）、県立黒石商業高等学校（情報デザイン科）及び八戸工業大学第二高等学校（美術コース）の生徒 165人

(3) 「小学校交流」

青森市立新城小学校と函館市立東小学校の5年生児童が、共同で鑑賞と創作体験を行った交流プログラム。

日時：2006年11月27日（月）

場所：常設展示室、ワークショップ B

参加者数 青森市立新城小学校及び函館市立東小学校の5年生 113人



p77 オープンアトリエ (1) 「ぼくはうみわたしはひかり vol. 1」



p77 オープンアトリエ (10) 「ふしぎ きれい 積み木おじさんの積み木ショー」



p78 オープンアトリエ (14) 「雪・色・あそび」



p78 アーティストワークショップ (1) 馬場哲晃 「D1 グランプリ」

平成 18 年度 スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子ども達に優れた美術作品に出会い、本物が持つ素晴らしさを実体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りを持てる鑑賞指導が極めて重要である。

このため、居住地域や家庭環境の影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで、等しく学ぶ機会を提供できる学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体鑑賞ツアー

多くの子ども達に優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを実体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供するためには、居住地域（移動時間）や家庭環境（親の興味や経済力等）の影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで、等しく学ぶ機会を提供できる学校教育の果たす役割が極めて大きいことから、学校団体を対象とする美術鑑賞の指導を実施した。

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数					
			合計	小	中	高	特	大
7月	1,282	1,155	13	4	7	2	0	0
8月	1,201	1,109	12	3	4	2	0	3
9月	4,729	2,399	62	29	22	7	4	0
10月	2,811	1,025	38	17	10	7	4	0
11月	1,378	329	28	17	7	2	2	0
12月	148	73	4	2	0	1	1	0
1月	33	0	1	0	0	1	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	18	0	1	1	0	0	0	0
合計	11,600	6,090	159	73	50	22	11	3

合計 159 団体 17,690 人

お出かけ講座

児童生徒の美術を愛好する心を育て、豊かな情操を養うことを目的に、県内の学校に出向いて、当館コレクションのエピソード紹介やクイズ出題、児童生徒の作品を題材とした自由トークなど美術鑑賞の指導を行った。

実施日	学校名	人数
7月4日	県立黒石商業高校	115
8月10日	県立黒石商業高校	15
10月19日	青森第一高等養護学校	21
12月1日	弘前市立松原小学校	49
	弘前市立松原小学校	57
12月6日	五戸町立五戸小学校	99
	五戸町立南小学校	24
12月7日	むつ市立苫生小学校 5年生	103
12月20日	青森市立箕町小学校	92
	青森市立長島小学校	65
1月19日	三沢市立第五中学校	61
1月29日	八戸市立明治中学校	45
1月30日	八戸市立旭ヶ丘小学校	81
	八戸市立三条小学校	49
2月6日	県立盲学校	7
2月22日	弘前市立新和小学校	98
	青森市立浪岡南小学校	107
2月8日	階上町立道仏中学校	108

合計 1,196 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で、気軽に使用できる学校貸し出し用の鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作した。

鑑賞教材「アートカード」セットの内容：

- ・アートカード（50枚1組）×4セット
- ・利用ガイド冊子×1冊
- ・アートバッグ×1個

制作数：100セット

貸出施設・手続き等の検討：

アートカードセットの活用促進の観点から、各学校が借用しやすい貸出施設の検討並びに各施設への協力依頼を進めた。

併せて、貸出手続き等について学校関係者からの意見や貸出施設側の意見を踏まえながら検討を進めた。

教員研修

居住地域や家庭環境の影響を受けずに多くの子ども達が優れたアートに出会い、本物が持つ素晴らしさを体験するためには、子ども達に等しく質の高い学習機会を提供する学校教育の役割、とりわけ教育内容を決定する教員の役割が極めて大きい。

このため、県内の教員を対象に、当館のコレクションや鑑賞指導法などについて研修する機会を提供した。

主催	月日	研修名	会場	人数	
県立美術館	8月9日(水)	教育関係者のための美術鑑賞研修会 (学校、県・地教委)	県立美術館	227	
	8月18日(金)	教育関係者のための美術鑑賞研修会 (学校、県・地教委)	〃	211	
	1月11日(木)	教師のための鑑賞ツアー研修会 (学校、県・地教委)	〃	35	
	1月12日(金)		〃	22	
県教育委員会との共催	8月3日(木)	青森県総合学校教育センター主催 初任者研修(小・中学校)、 教職一般研修講座	〃	102	
	10月5日(木)	青森県総合学校教育センター主催 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】 ～美術館と連携した鑑賞指導の在り方	〃	39	
	10月6日(金)		県総合学校教育センター		
教育機関・教育研究団体等との共催	7月25日(火)	東北北海道地区インテリア科 教育研究大会	県立美術館	40	
	7月26日(水)	青森市小学校教育研究会 (図画工作研究部会)	〃	78	
		青森市中学校教育研究会(美術部会)	〃	15	
	7月27日(木)	弘前市小学校教育研究会(造形部会)	〃	60	
	7月30日(日)	第18回全国高等学校商業デザイン科 教育研究会 青森大会	〃	20	
	8月7日(月)	弘前地区中教研(美術部会)	〃	15	
	8月8日(火)	北五小学校教育研究会(社会科部会)	〃	24	
	8月19日(土)	県高文連美術部県南支部	〃	40	
	9月8日(金)	県公立学校事務長研修会	〃	60	
		南地方小学校教育研究会 (図画工作部会)	〃	23	
	9月29日(金)	東青地区高等学校教育研究会 (地歴公民科部会)	〃	33	
	10月5日(木)	青森市中学校教育研究会(美術部会)	〃	23	
	10月19日(木)	西津軽教育美術部会	〃	6	
	11月11日(土)	教育事務所社会教育主事研修会	〃	12	
	合計				1,085人

学校連携プログラム推進委員会

スクールプログラムを円滑に進め、児童生徒の鑑賞を効果的に進める観点から、プログラムの企画・運営・鑑賞教材の作成、学校への周知・鑑賞ツアー促進等について検討し協力する学校連携プログラム推進委員会を設置し、運営した。

第1回 平成18年6月16日(金) 午後1時～4時

- ・平成18年度教育普及事業の概要
- ・スクールプログラム(学校団体申込状況、管内マップ・作品カ

ードの作成、ファシリテーターの配置、教員研修とお出かけ講座の実施)

- ・こども・一般プログラムの実施
- ・大学・県内美術館との連携方策
- ・ワークショップルームの活用方策

第2回 平成18年12月12日(火) 午後1時～4時

- ・平成18年度教育普及事業の実績と課題(スクールプログラム、こども・一般プログラム、教員研修)
- ・平成19年度教育普及事業計画(スクールプログラム、こども・一般プログラム、鑑賞ツアー新メニュー)
- ・平成18年度教員研修会(冬期研修会)の企画
- ・鑑賞教材の作成(アートカード、ワークシート)
- ・ワークショップルームを活用した教育普及活動の在り方

第3回 平成19年3月13日(火) 午後1時～4時

- ・アートカードの作成
カードデザインと掲載データ、アートカードの利用方法、アートカードの貸し出し方法
- ・平成18年度教育普及事業の成果と課題
- ・平成19年度教育普及事業の概要と進め方(スクールプログラム、こども・一般プログラム)

委員一覧

- 県義務教育課：中村泰子(主任指導主事)
- 県立学校課：中村充(主任指導主事)
- 文化財保護課：大平哲世(文化財保護主事)
- 県総合学校教育センター：杉本光世(指導主事)
- 東青教育事務所：吉川智好(教育課長)
- 青森市教育委員会：木村優(指導主事)
- 弘前市教育委員会：藤田澄生(指導主事)
- 八戸市教育委員会：丹野隆之(指導主事)
- 青森市立浪打小学校：小塚紀子(教諭)
- 青森市立筒井中学校：奈良佳彦(教諭)
- 県立青森戸山高校：横山隆雄(教諭)
- 県立黒石商業高校：菊谷哲(教諭)
- 青森山田高校：三橋文彦(教諭)
- つがる市立稲垣中学校：山内久(教頭)
- 八戸市立市川中学校：戸来忠雄(教頭)
- 八戸工業大学第二高等学校：大久保和兼(校長)
- 県立青森第二高等養護学校：岩淵宏子(教諭)
- 青森市立葛町小学校：小鹿哲朗(校長)
- 弘前市立裾野中学校：佐々木健(校長)
- 県立青森戸山高校：金子昭夫(校長)
- 県立郷土館：山内智(学芸主幹)
- 国際芸術センター青森：日沼禎子(学芸員)
- (財)棟方志功記念館：若井秀美(学芸員)
- 八戸市美術館：山田泰子(副参事)
- 七戸町立鷹山宇一記念美術館：鷹山ひばり(館長)
- 青森県立美術館：山谷清人(事務局長)

ファシリテーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導を行うファシリテーター（自らの理解を促す人）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

印刷物

教師のための利用ガイドブック、児童生徒用資料（館内マップ、作品カード）、及びオリジナル鑑賞教材（アートカード）を制作した。

- 1 教師のための利用ガイドブック：2,000部
- 2 館内マップ：30,000部
- 3 作品カード：30,000部
- 4 アートカードセット：100セット



p80 アートカードセット



p80 お出かけ講座：コレクションに関するクイズ



p80 お出かけ講座：児童作品について自由にトーク



p82 ファシリテーターの育成：オリエンテーション中のファシリテーター

平成 19 年度 普及プログラム

概要

平成 19 年度の普及プログラムは、鑑賞支援のためのプログラムとして、主に小学生を対象にギャラリートークと創作体験等を組み合わせたこどもギャラリートーク、夏休みと冬休みの小学生を中心にギャラリートークを行う夏休み・冬休みこどもギャラリートーク及び当館学芸員が展示作品を中心に解説する講義形式のアート入門を、体験支援のためのプログラムとして、様々な創作体験や造形遊び等をテーマとしたオープンアトリエ、アーティストと出会い交流するアーティストワークショップ等を実施した。

鑑賞支援のためのプログラム

1 こどもギャラリートーク

概要：クイズ、ゲーム、ギャラリートーク等とおした作品鑑賞と、作品をヒントにした創作体験等を組み合わせ、子どもたちに作品鑑賞の楽しさを伝えるプログラム。毎月第 3 日曜日(12 月を除く)、10:00 - 12:00 (2 月のみ 10:00 - 12:30) に開催した。

対象：6 ~ 12 歳 各日 15 人 (2 月のみ 20 人) 及びその保護者
場所：常設展示室、ワークショップ A

(1) 怪獣デザインを考えよう！

成田亨が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画をヒントに、怪獣をデザインする。

開催日：2007 年 4 月 22 日

参加者数：24 人

(2) こども探偵団ーヒントを手がかりに作品を探そう

作品の一部分から作品全体を想像して描いてみる。一部分をヒントに展示室内の作品を探す。

開催日：2007 年 5 月 20 日

参加者数：11 人

(3) じっくり楽しむコレクション

作品を見て感じたことを伝え合う、ツールを使って作品の秘密を解き明かすなど、作品をじっくり味わう。

開催日：2007 年 6 月 17 日

参加者数：8 人

(4) アートカードゲームであそぼう！

当館所蔵の作品図版から作成したアートカードを使い、遊びながら鑑賞する。

開催日：2007 年 7 月 15 日

参加者数：11 人

(5) 巨大な縄文人?! アートイン三内丸山遺跡プロジェクト

館内に展示されている縄文時代の三内丸山遺跡出土品と、縄文をテーマにした現代アート作品を鑑賞する。

開催日：2007 年 8 月 19 日

参加者数：0 人

(6) かたちであそぶ

作品をヒントに、まる、さんかく、しかく、ハートなどの形を組み合わせて絵を作る。

開催日：2007 年 9 月 16 日

参加者数：14 人

(7) こども探偵団ーヒントを手がかりに作品を探そう! 第 2 弾 展示室を巡りながらヒントをもとに作品を探すクイズラリー形式のプログラム。

開催日：2007 年 10 月 21 日

参加者数：4 人

(8) アートカードゲームであそぼう! 第 2 弾

当館所蔵の作品図版から作成したアートカードを使い、遊びながら鑑賞する。

開催日：2007 年 11 月 18 日

参加者数：7 人

(9) いろであそぶ

作品の特徴的な色に注目して鑑賞し、その色で絵を描く。

開催日：2008 年 1 月 20 日

参加者数：23 人

(10) 大きな絵をかこう

舞台背景画として描かれた「アレコ」のように、大きな絵に挑戦する。

開催日：2008 年 2 月 17 日

参加者数：37 人

(11) 怪獣デザインを考えよう!

成田亨が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画をヒントに、怪獣をデザインする。

開催日：2008 年 3 月 16 日

参加者数：43 人

2 夏休み・冬休み子どもギャラリーツアー

概要：学校の夏休みと冬休み期間中に、来館した子どもや親子を対象に、当館ファシリテーター（※）による鑑賞ツアーを行った。（※）学校団体の鑑賞指導を行う専門スタッフ

対象：6 - 12歳 各回15人及びその保護者

場所：常設展示室

(1) 夏休み子どもギャラリーツアー

日時：2007年7月21日（土） - 31日（火）（11日間）11：00 - 12：00、14：00 - 15：00

参加者数：226人

(2) 冬休み子どもギャラリーツアー

日時：2007年12月22日（土） - 24日（月）（3日間）11：00 - 12：00、14：00 - 15：00

参加者数：54人

※ 学芸員実習の一環として、8月26日（日）14：00 - 15：00に臨時の子どもギャラリーツアーを実施し、参加者は5人だった。

3 アート入門

概要：青森県ゆかりの作家や展示中の作品を中心に、当館学芸員が映像を交えながら解説する講座。毎月第2水曜日（4月を除く、11月及び12月は日程変更）、14：00 - 15：00に開催した。

対象：一般 各日220人

場所：シアター

(1) 工藤甲人 - 夢と覚醒のはざまに

講師：三好徹

開催日：2007年4月30日

参加者数：42人

(2) 写真家・小島一郎の生涯

講師：高橋しげみ

開催日：2007年5月9日

参加者数：28人

(3) 村上善男の軌跡展について

講師：工藤健志

開催日：2007年6月13日

参加者数：31人

(4) 『風・津軽じょんがら』をめぐって

講師：池田亨

開催日：2007年7月11日

参加者数：29人

(5) 旅順博物館展の楽しみ方

講師：旅順博物館副館長 王智遠、三好徹

開催日：2007年8月8日

参加者数：60人

(6) 版画表現の挑戦

講師：菅野晶

開催日：2007年9月12日

参加者数：20人

(7) 「舞台芸術の世界」展

講師：板倉容子

開催日：2007年10月10日

参加者数：22人

(8) 友情は心の中に〜棟方志功・崔榮林展をめぐって

講師：池田亨

開催日：2007年11月23日

参加者数：15人

(9) 考古学と前衛とー小野忠明 / 小野忠弘の芸術ー

講師：池田亨

開催日：2007年12月15日

参加者数：8人

(10) 今井俊満と日本のアンフォルメル

講師：工藤健志

開催日：2008年1月9日

参加者数：11人

(11) 青森と写真

講師：高橋しげみ

開催日：2008年2月13日

参加者数：27人

(12) 青森の創作版画誌をめぐって

講師：板倉容子

開催日：2008年3月12日

参加者数：18人

体験支援のためのプログラム

1 オープンアトリエ

(1) 「自分色を作ろう！」

自分の肌を観察して絵の具で作った肌色と、展示されている人物画の肌の描き方の違いを見比べた後、自分の分身を描いた。

講師：對馬真（当館エデュケーター）

日時：2007年5月12日（土）10：00 - 12：00

場所：ワークショップA

対象：6歳以上 20人

参加者数：17人

(2) 「はじめての日本画ー作り方と見方」

岩絵の具や顔料といった日本画の画材を使って、大津絵の「瓢箪鯉」に挑戦した。あわせて日本の伝統絵画の技法や鑑賞のポイントについて学んだ。

講師：工藤健志（当館学芸員）

日時：2007年6月9日（土）13：00 - 16：00

場所：ワークショップA

対象：小学生以上 20人

参加者数：36人

(3) 「光を使って遊ぼう」「廃材で作る光の世界」

青森中央短期大学幼児保育学科と連携して、光をテーマにしたおもちゃづくりを行った。午前は、空き箱にカラーセロハンや厚紙などを貼って光を通したときの色や影を楽しむおもちゃを作った。午後、ペットボトルと牛乳パックを利用した万華鏡を作った。

日時：2007年7月28日（土）10：00－15：00

場所：ワークショップA

対象：親子（3～6歳の子どもとその保護者）20組程度

参加者数：87人

(4)「あおり犬ともだちになろう」

当館のシンボリック的存在、奈良美智によるコミッションワーク「あおり犬」。この白くて巨大な子犬の友達としてイメージした動物などを紙粘土や木の枝などで作った。当館ファシリテーターの企画・運営によるもの。

日時：2007年11月10日（土）11：00－15：00

場所：ワークショップA

対象：4歳以上 60人程度

参加者数：83人

(5)「にじみ絵☆フォルメンで遊ぼう」

シュタイナー教育で実践されている、ぬらした紙の上で水彩絵の具の色が混じる様を楽しむにじみ絵と、みつろうクレヨンで図形を描くフォルメン線描を体験した。弘前大学教育学部教育学科教員養成学第二研究室との連携プログラム。

日時：2007年11月17日（土）10：00－16：00

場所：ワークショップA

対象：4歳以上 60人程度

参加者数：89人

(6)「稲わらワークショップー藁∞NOW（わら・なう）」

日常生活から消えつつある稲わらに触れ、五感を刺激しながら様々なわら細工や遊び方を体験した。最後に参加者全員の協力のもと大縄づくりを行った。

講師：稲垣「藁の会」

日時：2007年12月9日（日）10：00－16：00

場所：ワークショップB

対象：どなたでも 50人程度

参加者数：52人

(7)「人形をつくろうクマちゃんと仲間たち」

ポーランドの人形アニメーション映画『おやすみ、クマちゃん』の上映にあわせて、スポンジや色紙を使った動物の指人形づくりを行った。

講師：あおり子ども劇場

日時：2008年1月6日（日）12：30－13：30

場所：ワークショップA

対象：4歳～小学低学年 80人程度

参加者数：102人

(8)「絵本をつくろうーごちそうでてこい・ふしぎなおさら」

エリック・カール作の絵本「こんにちは あかぎつね！」を使って、あるものを凝視した後に残像で補色（反対色）が見える現象を体験し、同じしかけの絵本づくりを行った。

講師：アイウエオの木絵本の会（青森市読書団体連絡会）

日時：2008年1月12日（土）10：00－12：00

場所：ワークショップA

対象：4歳～小学生 20人 及び 絵本読み聞かせに関心を持つ大人 10人程度

参加者数：45人

(9)「ふしぎ きれい 積み木おじさんの積み木ショー」

前年度大好評だった積み木ショー。スイス・ネフ社製のものや講師デザインのものなど、美しい形、色、構成を持つ積み木の魅力を堪能した。

講師：相沢康夫（おもちゃデザイナー）

日時：2008年1月13日（日）10：30－11：30

場所：ワークショップB

対象：4歳以上 100人

参加者数：99人

(10)「ブナコの器を作ろう」

青森県で約50年前に開発されたブナコの器づくりを体験。厚さ1mmのテープ状のブナ材をバウムクーヘンのように巻き重ねたコイル状の板をスライドさせて形を作り、オリジナルの器を作った。

講師：相沢法生（ブナコ漆器製造株式会社）

日時：2008年2月24日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップA

対象：小学校高学年以上 20人

参加者数：29人

2 アーティストワークショップ

(1) 空気公団「青森 一風・暮らし・言葉・街」

ミュージシャンの空気公団と山口ともさんを迎えての音楽ワークショップ。参加者は3グループに分かれ、空気公団が作ったフレーズに思い思いに歌詞、リズム、コーラス、朗読などをつけてアレンジし、それらをつなげて一曲に仕上げた。最後に、一般のお客様を前に、参加者全員の演奏による成果発表ミニライブを行った。

講師：空気公団（山崎ゆかり、戸川由幸、窪田渡）、山口とも（パーカッショニスト）

日時：2007年4月21日（土）13：00－18：00、22日（日）10：00－17：00（2日間連続）

場所：ワークショップB

対象：小学校高学年以上 20人

参加者数：ワークショップ17人、ライブ43人

(2) 菊地敦己「美術館の色あそび ー空色、雪色、土色」

当館のビジュアル・アイデンティティを担当した菊地敦己さんのワークショップ。当館のシンボルカラーである「（青森の）空色・雪色・土色」の品物を参加者が持ち寄り、それらを色の濃淡、硬さ、大きさなど条件を変えて並べていくことで、分類と整理による配置の方法とその視覚的効果を体感した。最後に配置したものを、インスタレーションとしてワークショップ翌日から9月24日まで展示室で紹介した。

講師：菊地敦己（アートディレクター）

日時：2007年7月22日（日）13：00－16：30

場所：ワークショップA、展示室H

対象：4才以上 40人程度

参加者数：47人

(3) 西澤徹夫「ダンボールハウスを作ろう！」

当館の建築デザインを担当した西澤徹夫さんを講師に迎えてのワークショップ。屋外創作ヤードを街に見立て、好きな場所を選んでダンボールハウスを建てた。

講師：西澤徹夫（建築家）

日時：2007年8月11日（土）10：00－17：00

場所：ワークショップB、屋外創作ヤード

対象：4才以上 20人程度

参加者数：65人

(4) 豊嶋秀樹「自分の居場所に旗を掲げてカレーを食べろ！」

大阪を拠点に活動するクリエイティブ集団 graf（グラフ）の豊嶋秀樹さんによるワークショップ。奈良美智と graf が協働で制作した当館の「ニュー・ソウルハウス」に、参加者が制作した旗を飾りつけ、全員でカレーを作って食べた。

講師：豊嶋秀樹（アーティスト）

日時：2008年3月2日（日）14：00－20：00

場所：常設展示室、ワークショップA、ワークショップB、コミュニティホール

対象：高校生以上 20人

参加者数：20人

3 学校連携プログラム

(1) 青森県立弘前工業高等学校お出かけ講座

青森県内で長く建築の仕事に携わり、建築雑誌『Ahaus』を出版するなど意欲的に建築の普及活動を行っている森内忠大さんが、都市景観の中での建築の美的な役割と責任、これからの建築に望むことなどについて講演した。また、同校卒業生のアーティスト・小野忠弘について当館学芸員が解説した。

講師：森内忠大（森内建設株式会社専務取締役）、池田亨（当館学芸員）

日時：2008年2月7日（木）13：25－15：15

場所：県立弘前工業高等学校

参加者数：建築科及びインテリア科 2年生 70人

(2) 青森市立古川小学校お出かけ講座

動物、ロボット、車、人など、すべてのものを立方体の箱型で表現する「箱式ワークショップ」を行い、箱型の怪獣を作った。

講師：オオクラテツヒロ（アーティスト）

日時：2008年2月13日（水）10：45－12：20

場所：青森市立古川小学校

参加者数：4年生 30人

4 イベント関連ワークショップ

(1) 県民参加型演劇「MIYAZAWA」関連

「宮沢賢治の童話を演じてみよう！」

当館主催の県民参加型演劇「MIYAZAWA」上演前に、宮沢賢治の世界を感じてもらうため、賢治の童話「どんぐりと山猫」を使ったドラマリーディングを体験した。

講師：当館パフォーミングアーツ推進チームスタッフ

日時：2007年6月2日（土）13：00－16：00

場所：ワークショップA

対象：小学校高学年以上 15人程度

参加者数：8人

(2) 企画展「舞台芸術の世界」展関連

「マトリョーシカを作ろう」

白木のマトリョーシカ（ロシアの民芸品で、入れ子式の人形）に顔や服を描き、オリジナルのマトリョーシカを制作した。

講師：對馬眞（当館エデュケーター）

日時：2007年9月22日（土）13：00－16：00

場所：ワークショップA

対象：6歳以上 20人程度

参加者数：31人

(3) 企画展「舞台芸術の世界」展関連

「銅版画ワークショップ－『アレコ』のことば－」

バレエ「アレコ」のストーリーから連想したイメージを、銅版画のディープエッチングとリフトグランドエッチングの技法を使って表現した。

講師：乗田菜々美（当館企画展実行委員会スタッフ）

日時：2007年10月20日（土）、21日（日）各日10：00－16：00
（2日間連続）

場所：常設展示室、ワークショップB

対象：小学校高学年以上 15人

参加者数：4人

(4) 企画展「寺山修司劇場美術館1935－2008」関連

「寺山修司増殖計画」

寺山修司の等身大パネルを作成し、美術館内外に設置した。

講師：森崎偏陸（テラヤマ・ワールド）

日時：2008年3月22日（土）、23日（日）各日10：00－17：00

場所：シアター、コミュニティ・ギャラリー及び青森市新町通り周辺

対象：どなたでも

参加者数：90人

5 共催事業

(1) 「おやおパイリンガルえほん おはなしかい」(harappa)

日時：2007年10月14日（日）14：00－15：00

場所：キッズルーム

対象：6歳以上

参加者数：14人

(2) 積み木おじさん講演会「子どもとおもちゃ」(おもちゃデザイナー 相沢康夫)

日時：2008年1月13日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップB

対象：一般

参加者数：10人



p84 夏休みこどもギャラリーツアー



p85 アーティストワークショップ（1）空気公団「青森 一風・暮らし・言葉・街」



p84 オープンアトリエ（2）「はじめての日本画ー作り方と見方」



p85 アーティストワークショップ（2）菊地敦己「美術館の色あそび ー空色・雪色・土色」



p84 オープンアトリエ（3）「光を使って遊ぼう」「廃材で作る光の世界」



p86 アーティストワークショップ（3）西澤徹夫「ダンボールハウスを作ろう！」



p85 オープンアトリエ（6）「稲わらワークショップー葉∞NOW（わら・なう）」



p86 「舞台芸術の世界」展関連「マトリョーシカを作ろう」

平成 19 年度 スクールプログラム

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りを持てる鑑賞指導が極めて重要である。

このため、居住地域や家庭環境の影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供できる学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体鑑賞ツアー

多くの子どもたちに優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供するためには、居住地域や家庭環境の影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供できる学校教育の果たす役割が極めて大きいことから、学校団体を対象とする美術鑑賞の指導を実施した。

鑑賞ツアーのメニュー：

ギャラリートークコース、オリエンテーションコース、自由鑑賞コース、オリジナルプログラム、三内丸山遺跡連携コース、自主見学コース

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数					
			合計	小	中	高	特	大
4月	718	335	7	5	2	0	0	0
5月	967	52	19	10	8	1	0	0
6月	2,006	0	29	21	5	3	0	0
7月	507	0	24	12	9	0	2	1
8月	219	184	4	2	1	0	0	1
9月	1,449	0	23	11	11	1	0	0
10月	1,291	775	28	18	8	1	1	0
11月	589	74	15	9	3	3	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	31	0	1	0	0	1	0	0
2月	26	0	1	1	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7,803	1,420	151	89	47	10	3	2

合計 151 団体 9,223 人

お出かけ講座

児童生徒の美術を愛好する心を育て、豊かな情操を養うことを目的に、県内の学校に出向いて、当館コレクションのエピソード紹介やクイズ出題、アートカードによる鑑賞の楽しみ方、児童生徒が創作した作品を題材に自由トークなど美術鑑賞の指導を行った。

実施日	学校名	人数
6月21日	青森市立造道小学校	113
9月10日	十和田第一中学校	117
9月13日	弘前市立弘前北小学校	90
10月9日	五戸町立五戸小学校	102
10月16日	十和田三本木小学校	113
10月18日	蓬田町立蓬田小学校	85
11月9日	弘前市立百沢小学校	29
11月12日	弘前市立常磐野小学校	15
11月21日	青森第一高等養護学校	44
11月14日	五所川原小学校	80
12月6日	八戸市立市川中学校	452
12月13日	十和田市立藤坂小学校	73
12月14日	つがる市立稲垣中学校	48
12月18日	八戸市立明治中学校	55
1月24日	黒石市立上十川小学校	66
2月7日	弘前工業高校(2年生)	70
2月13日	古川小学校	30

合計 1,582 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で、気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を平成19年7月1日から、県内9施設において学校への貸出しを開始した。

また、当館主催の教員研修会、並びに県総合学校教育センターや市町村教育委員会主催の教員研修会において、アートカードの利用方法について演習を行った。

このほか、県内各地の図画工作・美術科教育研究会から要請を受けた出張研修会、学校の現職教育（職場の研修会）として招かれて出張研修会を実施した。

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教育研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑 52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西 13 番町 2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央 2 丁目 3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター「ウイング」	大間町大字大間字内山 48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531



アートカードゲーム

教員研修

居住地域や家庭環境の影響を受けずに多くの子どもたちが優れたアートに出会い、本物が持つ素晴らしさを体験するためには、子ども達に等しく質の高い学習機会を提供する学校教育の役割、とりわけ教育内容を決定する教員の役割が極めて大きい。

このため、県内の教員を対象に、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカード等）などについて研修する機会を提供した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	7月23日(月)～27日(金)	教職員「ティーチャーズ・ウィーク」 (対象=学校、県・市町村教育委員会職員)	県立美術館	68
	1月10日(木)～11日(金)			16
県・市町村教育委員会と共催	8月2日(木)	青森県総合学校教育センター主催 初任者研修(小・中学校) 教職一般研修講座	◇	96
	10月11日(木)～12日(金)	青森県総合学校教育センター主催 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】 ～美術館と連携した鑑賞指導の在り方～	県立美術館と 県総合学校教育センター	88
	5月29日(火)	弘前市教育委員会主催 (教職員図工美術鑑賞講座)	県立美術館	20
	8月8日(水)	青森市教育委員会主催 (教職員初任者研修講座)	◇	25
	7月24日(火)	八戸市小学校図画工作科教育研究会 (夏期講習会)	八戸市総合教育センター	50
教育研究団体等と共催	7月26日(木)～27日(金)	県造形教育研究会 (東北造形教育研究会大青森大会 中学校部会) ※美術館と学校との連携方策及び 研究授業・研究協議	県立美術館	102
	10月17日(水)	弘前市造形教育研究会 (美術鑑賞研修会)	弘前市総合教育センター	70
	10月23日(火)	東津軽小学校教育研究会図工部会 (研究授業)	県立美術館	22
	11月28日(水)	東津軽郡小中学校教頭研修会 (美術館の活用方策等)	◇	20
	1月7日(月)	青森市小学校教育研究会 (市図工教育セミナー)	◇	65
	1月8日(火)	青森市立大野小学校 (アートカードゼミナール)	大野小学校	40

合計

682人

学校連携プログラム推進委員会

スクールプログラムを円滑に進め、児童生徒の鑑賞を効果的に進める観点から、プログラムの企画・運営・鑑賞教材の作成、学校への周知・鑑賞ツアー促進等について検討し協力する「学校連携プログラム推進委員会」を設置し、運営した。

1 第1回推進委員会

実施時期：平成19年10月5日（金）

事業報告：

- ・平成19年度教育普及事業（概要）について
- ・スクールプログラムについて
学校団体鑑賞ツアーの申込み状況、館内マップの作成、教員研修の実施、お出かけ講座の実施、アートカードの貸出
- ・こども・一般プログラム
こどもプログラム及び一般プログラムの実績・予定
- ・その他
アートイン三内丸山遺跡プロジェクトの実施（ベジタブル・ウェポン、こどもアートベンチ制作）
こども美術館デイ・冬のファミリープログラム

協議事項：

- ・学校団体鑑賞ツアーのメニュー改善案
- ・アートカードの利用促進策
- ・教員研修の進め方
- ・平成20年度教育普及事業（案）

2 第2回推進委員会

実施時期：平成20年1月28日（月）

検討内容：

スクールプログラム

- ・08年度の学校団体鑑賞ツアーのメニュー及び教員研修の改善案
- ・教師のための利用ガイドブック（08版）の内容
- ・アートカードの遊び方拡充・利用促進案
- ・ワークシート・セルフガイド案

委員一覧

- 県義務教育課：中村泰子（主任指導主事）
- 県立学校課：成田昌造（主任指導主事）
- 県文化財保護課：貝吹信一（総括主幹）
- 県総合学校教育センター：杉本光世（指導主事）
- 県東青教育事務所：吉川智好（教育課長）
- 青森市教育委員会：木村優（指導主事）
- 弘前市教育委員会：藤田澄生（指導主事）
- 八戸市教育委員会：丹野隆之（指導主事）
- 青森市立浪打小学校：小塚紀子（教諭）
- 青森市立造道中学校：奈良佳彦（教諭）
- 県立青森戸山高校：前田留実（教諭）
- 県立黒石商業高校：菊谷哲（教諭）
- 青森山田高校：三橋文彦（教諭）
- つがる市立稲垣中学校：山内久（教頭）
- 八戸市立市川中学校：戸来忠雄（教頭）

- 八戸工業大学第二高等学校：大島光子（校長）
- 県立青森第二高等養護学校：岩淵宏子（教諭）
- 青森市立莨町小学校：小鹿哲朗（校長）
- 弘前市立裾野中学校：佐々木健（校長）
- 県立青森戸山高校：川口克徳（校長）
- 県立郷土館：山内智（学芸主幹）
- 国際芸術センター青森：日沼禎子（学芸員）
- 八戸市美術館：山田泰子（副参事）
- 七戸町立鷹山宇一記念美術館：鷹山ひばり（館長）
- 十和田市企画調整課：中野渡一耕（主幹）
- 青森県立美術館：本多信雄（事務局長）

ファシリテーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導に当たるファシリテーター（自らの理解を促す人）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。



p88 学校団体鑑賞ツアー：オリジナルプログラム



p88 お出かけ講座（説明）

県教育委員会との連携

県教育委員会の新規事業として実施される下記の事業は、当美術館のスクールプログラムの推進、並びに児童生徒の豊かな感受性や創造力の育成に大きく貢献すると考えられることから、研究指定校と密接に連携しながら、美術館における鑑賞・創作プログラム、学校に出向いた「お出かけ講座」などで、先進的な内容で実施することにより、スクールプログラムの新たな方策を検討するものである。

事業主体：県教育委員会（義務教育課）

事業名：平成19年度こども美術館体験事業（新規事業：アレコレドキドキ体験事業）

実施期間：平成19年度から平成20年度までの2年間

事業概要：

子どもたちの情操を養い、郷土への愛着や歴史への理解を深めるとともに、豊かな人間性を育むため、本物の芸術作品や文化遺産に触れる機会を提供するため、「こども美術館体験事業研究指定校」6校を指定し、県立美術館、三内丸山遺跡、郷土館等において様々な体験活動を工夫してもらい、その成果や活用事例を小学校等に周知する。

研究指定校

学校名	学年	児童数	活動概要
青森市立造道小学校	2	113	6月21日「お出かけ講座」：美術館紹介、怪物デザイン、アートカード 6月26日来館：ギャラリートーク、創作活動「新しい怪物を描こう」
五所川原小学校	1	80	11月14日「お出かけ講座」：美術館紹介、創作活動「アレコの白馬を描く」 11月27日来館：アレコ鑑賞、創作活動「アレコとぼくたち」、アレコ鑑賞
弘前市立北小学校	4	90	9月13日「お出かけ講座」：美術館紹介、アートカード 9月28日来館：ギャラリートーク、成田亨の作品鑑賞と学芸員の解説
十和田市立三本木小学校	4	110	10月16日「お出かけ講座」：美術館紹介、アートカード 10月23日来館：ギャラリートーク、自由鑑賞
むつ市立第一田名部小学校	5	90	9月6日：午前中は三内丸山遺跡見学、午後は美術館で、ギャラリートークとワークシート活用の自由鑑賞 *来館前にアートカードで事前学習済み
五戸町立五戸小学校	6	102	10月9日「お出かけ講座」：美術館紹介、アートカード 10月25日来館：ギャラリートーク、自由鑑賞

合計 6校 585人

共催事業

本県の美術教育振興並びに美術館における鑑賞教育の振興の観点から、次の教育研究団体と共催して事業を実施した。

1 第52回東北造形教育研究大会 青森大会

「きらめく感性、ゆたかな想像」を大会主題とし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、「みずみずしい感性」「ゆ

たかな人間性」や「生きる力」の育成、「心の教育」を推進していく造形教育の在り方を研究し、その諸課題について協議し、教員としての資質を高めていくことを目的に実施した。

主催：東北造形教育連盟・青森県造形教育連盟

全体日程：

平成19年7月26日（木） 理事会、開会行事、記念講演

平成19年7月27日（金） 公開授業、分科会研究協議、閉会行事

中学校分科会

日時：平成19年7月27日（金）9:00 - 15:00

会場：青森県立美術館の展示室、シアター、ワークショップA・B、屋外スペース

公開授業（青森市内中学校4校）：

- ・古川中学校3年生
（鑑賞：美術作品との出会い～シャガール「アレコ」）
- ・新城中学校2年生
（デザイン：青森の四季をイメージして）
- ・油川中学校2年生
（絵画：リンゴをモチーフにしたアクリル画）
- ・浪岡中学校2年生
（彫刻：ダンボールでつくろう）

※各校1クラスの生徒を対象に実施。

参加者数：102人

2 第21回青森県中学校選抜美術展

本県中学校の美術教育の向上を図ることを目的に、県内全ての中学校に在籍する中学生を対象に美術の授業で制作した作品を中心とした絵画・版画・デザイン・彫刻・工芸の5分野からの作品を募集し、集まった作品の中から県内9支部で審査を行い、入選以上の作品を広く県民に公開した。

主催：青森県中学校教育研究会美術部会

会期：2008年1月11日（金） - 1月14日（月）

会場：青森県立美術館コミュニティギャラリーA・B・C

展示：平面作品約900点、立体作品約450点 合計約1,350点

料金：無料

観覧者数：580人

印刷物

教師のための利用ガイドブック、児童生徒用資料（館内マップ、作品カード、セルフガイド）、鑑賞教材（アートカード）を作成した。

- 1 教師のための利用ガイドブック：1,800部
- 2 館内マップ：70,000部
- 3 アートカードチラシ：3,000枚
- 4 セルフガイド：20,000部

平成 19 年度 アートイン三内丸山遺跡プロジェクト

概要

2010 年の東北新幹線全線開業、県内縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す運動を踏まえ、隣接する三内丸山遺跡と県立美術館が一体的な魅力ある芸術・文化・観光の拠点であるとアピールすることを目的としたアートプロジェクト。事業期間は平成 19 年度から 2 年間。

平成 19 年度は小沢剛『ベジタブル・ウェポナー縄文鯛鍋 / 青森』制作及び小中学生らによる縄文アートベンチ制作を行った。

小沢剛『ベジタブル・ウェポナー縄文鯛鍋 / 青森』制作

現代美術作家・小沢剛の「ベジタブル・ウェポン」シリーズ最新作にあたる 34 作目を制作し、三内丸山遺跡内に屋外展示した。展示期間は 8 月 1 日から 11 月 18 日までの 110 日間。

「ベジタブル・ウェポン」は、野菜などの食材で作られた武器を持つ女性たちの写真シリーズで、これまでに世界 20 都市で制作された。モデルとなる現地の女性と一緒にその土地の名物料理などの食材を買出しに出かけ、まずは食材を銃の形に仕立てて、それを持つモデルを撮影したのち、解体して調理したもののみんで分け合って食べるというプロセスアート。

今作品では、それまでのシリーズ作品と趣向を変え、時代を縄文中期の青森と設定して、研究成果に基づいた当時の衣装や食材を取り入れて制作された。

作品名：ベジタブル・ウェポナー縄文鯛鍋 / 青森

作家：小沢剛

制作年：2007 年

素材：タイプ C プリント

協力：モデル / 吉原由紀、ボランティアスタッフ（食材調査及び装身具制作） / 泉谷汐里、鹿内麻梨亜、中嶋未希子、ヘアメイク協力 / ヘアアートカレッジ木浪学園、鯛提供 / 遊漁船オーツーマリン

縄文アートベンチの制作

青森市内の小・中・養護学校の児童生徒が「縄文人の豊かな暮らしに息づくアート」をテーマに栗の木に電熱ペンで絵を描き、ベンチを制作した。完成後、美術館園路に設置した。

制作日時：平成 19 年 7 月 30 日、31 日

参加者：三内西小学校、浪打小学校、造道小学校、大野小学校、長島小学校、三内中学校、造道中学校及び青森第二高等養護学校の 8 校の児童生徒 41 人



小沢剛『ベジタブル・ウェポナー縄文鯛鍋 / 青森』の展示風景
copyright : Tsuyoshi Ozawa
courtesy : Ota Fine Arts, Tokyo



縄文アートベンチ

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように常に工夫し、「県民と共に活動する」ことを目指している。

その取組の一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

平成 18 年度

募集・登録

募集期間：2006 年 5 月 22 日－ 6 月 16 日

募集人数：150 人程度

応募条件：

- ・満 18 歳以上（2006 年 4 月 1 日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び、活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：136 人（年度末現在）

活動内容

1 研修

(1) 第 1 回 6 月 24 日（土）9：30－11：00

内容：平成 18 年度事業概要説明、館内見学等

(2) 第 2 回 7 月 3 日（月）18：00－20：00

内容：誘導案内業務について

(3) 第 3 回 7 月 8 日（土）10：00－12：00

内容：接遇（講師：外崎禎子）

2 サポート活動

(1) 開館記念展「シャガール：『アレコ』とアメリカ文明」における入場整理、誘導案内等

期間：2006 年 7 月－ 9 月

活動日数：63 日

参加人数：延べ 545 人

(2) 県立美術館及び三内丸山遺跡周辺の環境安全整備（草刈等）

期間：2006 年 8 月－ 9 月末

活動日数：5 日

参加人数：延べ 70 人

平成 19 年度

募集・登録

募集概要

募集期間：2007 年 3 月 20 日－ 5 月 30 日

募集人数：50 人程度

応募条件：平成 18 年度と同様

登録者数：74 人（年度末現在）

活動内容

1 研修

基礎研修 6 月 10 日（日）10：00－15：00

内容：平成 19 年度事業概要及び活動内容説明、接遇（講師：外崎禎子）

2 サポート活動

(1) 学芸（データ入力、蔵書整理等）

活動日数：37 日

参加人数：延べ 40 人

(2) 教育普及（アート入門及びワークショップ補助）

活動日数：17 日

参加人数：延べ 73 人

(3) 舞台芸術（映画上映会、コンサート及び演劇公演補助）

活動日数：17 日

参加人数：延べ 62 人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：25 日

参加人数：延べ 66 人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：26 日

参加人数：延べ 366 人

(6) イベント補助（企画展オープニングセレモニー補助）

活動日数：4 日

参加人数：延べ 34 人

(7) 自主企画イベント実施

クリスマスミニライブ「音とクリスマス」

期間：2006 年 12 月 22 日－ 24 日

活動日数：3 日

参加人数：延べ 27 人

イベント参加者：600 人

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、ギャラリートourをはじめとした会員限定プログラムの実施、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ (VI) を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ

一般会員：3,000 円

学生会員：2,000 円 (学生のためのプログラム)

特別会員：10,000 円 (一般会員をさらにすすめたプログラム)

会員数

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

一般会員：54 人

学生会員：4 人

特別会員：29 人

計 83 人

(平成 20 年 3 月 31 日現在)

一般会員：103 人

学生会員：4 人

特別会員：30 人

計 137 人

事業内容 (一般会員)

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 いつでも前売料金にて観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

会員への情報提供

- ・年に 4 回、美術館スケジュールのごあんないを送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5 % 割引 (一部商品を除く)
- ・館内カフェでの飲食代 5 % 割引 (一部商品を除く)

各種行事の企画・実施 (平成 19 年度)

- ・museum lounge (ミュージアムラウンジ)
- ・会員限定のプログラム。バックヤードツアーや当館学芸員のトークイベント、交流会などを行うもの。
- ・9 月 1 日 (土)
バックヤードツアー、会員と美術館スタッフの交流会を実施
- ・9 月 29 日 (土)
「舞台芸術の世界展」オープニングセレモニーにご招待、ギャラリートourを実施
- ・11 月 3 日 (土・祝)
「常設展Ⅲを楽しむ」ギャラリートour、ユビキタス体験会を実施
- ・11 月 10 日 (土)
「棟方志功・崔榮林展」オープニングセレモニーにご招待、ギャラリートourを実施
- ・2 月 2 日 (土)
「常設展Ⅳを楽しむ」ギャラリートourを実施
- ・3 月 1 日 (土)
「寺山修司を楽しむ」ギャラリートourを実施

パフォーマンスアート

演劇

ダンス

音楽

映画

平成 18 年度 演劇

県民参加型演劇「戯曲寺山修司論」

概要

県民が出演者となるなど、県民と青森県立美術館がともに作り上げていく県民参加型演劇を実施。オーディション・ワークショップを開催し、参加者募集後、三沢市・青森市・むつ市の3市での稽古を開催。合同稽古の後、本公演を三沢市・青森市で開催。三十歳までの寺山修司に焦点をあて、「新しい寺山修司を発見する」ことをテーマに、一輪車やダンスなど様々なパフォーマンスを組み合わせた屋内外で展開される新しい形の舞台を創造した。脚本・演出は、長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督が担当。

・三沢公演

日時：2006年9月23日、24日

会場：三沢市国際交流センター

・青森公演

日時：2006年9月30日・10月1日・7日・8日

会場：青森県立美術館

主催：青森県立美術館、県民参加型演劇制作実行委員会

助成：財団法人地域創造

入場料：一般 2,000 (2,500) 円 大学・高校 1,000 (1,500) 円
中学生・小学生 500 (700) 円 一般ペア 3,600 (4,500) 円

入場者数

1,006人

関連事業

出演者オーディション・ワークショップ

日時及び会場：

- ・2006年5月21日（青森県立美術館シアター）
- ・2006年5月27日（下北文化会館）
- ・2006年5月28日（三沢市国際交流教育センター）
- ・2006年5月28日（八戸市公会堂）



「戯曲寺山修司論」

平成 18 年度 ダンス

青森県立美術館 version 舞踊劇「アレコ」

概要

青森県立美術館が所有するバレエ「アレコ」の舞台背景画 3 点を活用するため、プーシキンの長篇叙事詩「ジプシー」を底本として脚色し、バレエだけではなく、ジャズダンスやコンテンポラリーダンスなど様々なジャンルのダンスで青森県立美術館 version 舞踊劇「アレコ」を制作。平成 17 年度に開催された現代版「アレコ」国際ダンスコンペティションの優勝者や出演者などの招待ダンサーとオーディションによる先行された青森県内のダンサーらが出演。4 幕からなる。

日時：2007 年 3 月 20 日・21 日

会場：青森県立美術館アレコホール

主催：青森県立美術館、舞踊劇「アレコ」制作実行委員会

助成：財団法人地域創造

入場料：一般 2,800 (3,000) 円 大学生・高校生 2,000 (2,500) 円 中学生・小学生 1,000 (1,500) 円 一般ペア 5,000 円 (前売のみ販売) シアター席 1,500 円

入場者数

630 人

関連事業

出演者オーディション (映像審査)

日時：2007 年 1 月 5 日

会場：青森県立美術館



青森県立美術館 version 舞踊劇「アレコ」

平成 18 年度 音楽

青森県立美術館コンサート ベートーヴェンピアノソナタ全 32 曲連続演奏

概要

青森県立美術館アレコホールに於いて

日時：2006 年 5 月 20 日、7 月 15 日、8 月 19 日、9 月 16 日、10 月
21 日、11 月 18 日、12 月 16 日、1 月 20 日、2 月 17 日、3 月 17 日

会場：青森県立美術館アレコホール

主催：青森県立美術館、青森県立美術館コンサート実行委員会

入場料：

- ・全公演パス 一般 18,000 円 / 学生 9,000 円
- ・一日券 一般 2,000 (2,500) 円 / 学生 1,000 (1,500) 円
/ 一般ペア 3,600 円

入場者数

1,429 人

平成 18 年度 映画

映画祭「美術館の映画祭」

概要

「映画は、闇の中の美術館」をテーマに、青森県立美術館に關係する様々な芸術をテーマにした映画を上映。

日時：2006年11月22日—26日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

協力：ユーロスペース、毎日映画社、東北新社、セテラ・インターナショナル、フランス映画社、日活、パンドラ、角川ヘラルド映画、(財)国際文化交流推進協会(エースジャパン)、松竹、コミュニティシネマ支援センター、東京国立近代美術館フィルムセンター

入場料：1回券 1,000(1,200)円 / 1回券3枚綴り 2,500円
(前売りのみ販売) / 大学生以下は当日券600円のみ販売

上映作品：

- ・シャガール ロシアとロバとその他のものに(2003 フランス カラー 52min)
- ・彫る 棟方志功の世界(1975 日本 カラー 38min)
- ・青森ノ顔 縄文ノ顔(2006 日本 カラー 90min)
- ・NARA：奈良美智との旅の記録(2006 日本 カラー 93min)
- ・パリ・ルーヴル美術館の秘密(1990 フランス カラー 85min)
- ・はなればなれに(1964 フランス モノクロ 96min)
- ・パリのランデブー(1994 フランス カラー 100min)
- ・エルミターージュ幻想(2002 ロシア・ドイツ・日本 カラー 96min)
- ・BALLET アメリカン・バレエ・シアターの世界(1995 アメリカ カラー 170min)
- ・残菊物語(1939 日本 モノクロ 143min)
- ・書かれた顔(1995 スイス・日本 カラー 89min)
- ・トスカの接吻(1984 スイス カラー 87min)
- ・人生とんぼ返り(1955 日本 モノクロ 117min)
- ・Wの悲劇(1984 日本 カラー 108min)
- ・恋ごころ(2001 フランス・イタリア・ドイツ カラー 155min)
- ・紙の花(1959 インド モノクロ 148min)
- ・ユリシーズの瞳(1995 フランス・イタリア・ギリシャ カラー 177min)
- ・楽日(2003 台湾 カラー 82min)

入場者数

685人

関連事業

1 奈良美智ティーチ・イン

日時：2006年11月22日

会場：青森県立美術館シアター

2 シンポジウム 『「映画の呼吸」澤井信一郎監督をお迎えして』

日時：2006年1月25日

会場：青森県立美術館シアター

各種上映会

1 「大人になる前に見ておきたい映画コレクション」

概要：「第1回 美術館の映画祭」イベントとして、大学生以下を対象にした映画上映会を開催。

日時：2006年11月18日(土)、19日(日)

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

入場料：無料

上映作品：

- ・美女と野獣(1946 フランス モノクロ 95min)
- ・キートンの探偵学入門(1924 アメリカ モノクロ 50min)
- ・キートンのセブン・チャンス(1925 アメリカ モノクロ 60min)
- ・王と鳥(1980 フランス カラー 87min)
- ・ポール・グリモー短編傑作集～ターニング・テーブル～(1998 フランス カラー 79min)

入場者数：74名

2 「クリスマス映画上映会」

概要：美術館主催の事業「ありがとうアレコ第3幕」関連イベントとしてクリスマス期間に映画を上映

日時：2006年12月23日・24日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

入場料：無料

上映作品：素晴らしき哉、人生！(1946 アメリカ モノクロ 130min)

入場者数：20人

3「クリスマス無料映画上映コーナー」

概要：美術館主催の事業「ありがとうアレコ第3幕」関連イベントとして、コミュニティホールにクリスマス期間限定無料映画上映コーナーを設置

日時：2006年12月23日・24日

会場：青森県立美術館コミュニティホール

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

入場料：無料（終日繰り返し上映につき入退場自由）

上映作品：ポール・グリモー短編傑作集 ～ターニング・テーブル～（1998 フランス カラー 79min）

4「初笑いコメディ映画特集」

概要：美術館主催の事業「ありがとうアレコ第3幕」関連イベントとしてお正月期間に映画を上映。

タイトル：初笑いコメディ映画特集

日時：2007年1月1日（月）—7日（日）

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

入場料：無料

上映作品：

- ・キートンの蒸気船（1928 アメリカ モノクロ 69min）
- ・チャップリンのスケート（1916 アメリカ モノクロ 21min）
- ・チャップリンの勇敢（1917 アメリカ モノクロ 20min）

入場者数：40人

5「韓国映画の真髄」

概要：2年間にわたって行ってきた重点的国際連携推進プロジェクトの最後を締めくくるものとして、「韓国映画の真髄」と題して映画上映会及び講演会を行い、日韓交流の根源と最新の潮流を対比して紹介。

日時：2007年2月24日・25日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

共催：韓国文化院（『開闢』上映共催）

協力：あおもり映画祭

入場料：「まぶしい1日」「URINARA」のみ各作品500円 / 「酔画仙」「開闢」は無料

上映作品：

- ・まぶしい一日（2006 韓国 カラー 133min）
- ・URINARA 祖国 ～母のまなざし、息子の声～（2006 韓国 カラー 60min）
- ・酔画仙（2002 韓国 カラー 119min）
- ・開闢（1991 韓国 カラー 146min）

入場者数：230人

関連事業：講演会「巨匠イム・グォンテクの世界」

演者：佐藤忠男氏

日時：2007年2月25日

平成 18 年度 その他

三内丸山遺跡と青森県立美術館を結び、縄文と現代をつなぐ媒体である「芸術」の中心として美術館が機能していくことを目的に、「縄文」をテーマとした「縄文をめぐる」プロジェクトを実施することとし、音楽事業及び写真事業を行った。

1 「縄文」コンサート

日時：2006 年 10 月 9 日

会場：青森県立美術館アレコホール

主催：青森県立美術館、「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会

入場料：3,000 円

入場者数：186 人

2 「縄文」写真コンテスト

日時：入賞作品展示 2007 年 3 月 13 日ー 28 日

会場：青森県立美術館コミュニティギャラリー

※ 全希望作品のスライド上映を同時実施。

募集テーマ：あなたが自由にイメージする「縄文」

審査員：

- ・和田光弘（日本大学芸術学部写真学科講師）
- ・鈴木理策（第 25 回木村伊兵衛写真賞受賞者）

主催：青森県立美術館、「縄文をめぐる」プロジェクト実行委員会

応募作品数：124 点（1 人 1 点の応募）

入賞数：20 点

入賞作品展示入場者数：500 人

平成 19 年 演劇

県民参加型演劇「MIYAZAWA」

概要

県民が出演者となるなど、県民と青森県立美術館がともに作り上げていく県民参加型演劇を実施。オーディション・ワークショップを開催し、参加者募集後、八戸市での稽古を開催。本公演を八戸市・青森市で開催。宮沢賢治を題材とし、彼の童話や詩の世界を、演劇・ダンスなどで表現。えんぶり（八戸の伝統芸能）やジャズダンス、HIPHOP ダンスなど様々なパフォーマンスを織り交ぜた舞台を創造した。脚本・演出は、長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督が担当。

・八戸公演

日時：2007年6月30日、7月1日

会場：八戸市公会堂文化ホール

・青森公演

日時：2007年7月7日・8日

会場：青森県立美術館

主催：青森県立美術館、県民参加型演劇制作実行委員会

助成：財団法人地域創造

入場料：一般 2,000 (2,500) 円 / 学生 1,000 (1,500) 円 / 一般ペア 3,600 (4,500) 円

入場者数

861人

関連事業

出演者オーディション・ワークショップ

日時：2007年5月5日・6日

会場：八戸市エスタシオン2F



「MIYAZAWA」

青森県日韓演劇交流事業「ソウルの雨」

概要

青森県立美術館が、絵画・映像事業などの面で進めてきた交流・調査を演劇の分野にも広げ、一步踏み込んだ文化交流事業を展開することを目標に、韓国で、現在、最も注目を集めている劇団「コルモックキル」（作・演出の朴根亨氏は2006年の韓国の主な演劇賞を多数受賞。）と青森県の演劇人との共同制作による「ソウルの雨」を上演。この「ソウルの雨」は、長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督が脚本・演出を担当し、各国での稽古を重ねた後、青森県内で合同稽古を行い、青森、ソウル、東京の3都市で字幕付きで上演した。（ソウル公演は、ソウル公演芸術祭参加。）

・青森公演

日時：2007年9月14日・15日・16日

会場：青森県立美術館

・ソウル公演

日時：2007年9月28日・29日・30日

会場：Small hall of ARKO Art Theatre

・東京公演

日時：2007年10月19日・20日・21日

会場：シアターグリーン BIG TREE THEATER

主催：青森県立美術館、青森県日韓演劇交流実行委員会

助成：財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

後援：在日本大韓民国民団青森県地方本部、大韓航空青森支店

入場料：

・青森公演 一般 2,000 (2,500) 円 / 学生 1,000 (1,500) 円 / 一般ペア 3,600 (4,000) 円

・東京公演 一般 3,000 (3,200) 円 / 学生 1,500 (1,800) 円 / 一般ペア 5,000 (5,500) 円

入場者数

1,026人

関連事業

出演者オーディション・ワークショップ

日時：2007年7月14日

会場：青森県立美術館

平成 19 年度 音楽

青森県立美術館コンサート 2007 「祈り」

概要

青森県立美術館アレコホールに於いて、「祈り」をメインテーマにした声楽とピアノによるコンサートを開催。サブテーマをそれぞれ設け、そのテーマに沿った楽曲を選択。12月8日は、プッチーニの4幕オペラ「ラ・ボエーム」からの主要キャストによる抜粋を開催。

主催：青森県立美術館、青森県立美術館コンサート実行委員会

入場料：

- ・7月28日・10月27日 一般 2,500 (3,000) 円 / 学生 1,200 (1,500) 円 / 一般ペア 4,000 (4,500) 円
- ・12月8日 一般 4,500 (5,000) 円 / 学生 2,400 (3,000) 円 / 一般ペア 8,000 (9,000) 円

入場者数

339人

平成 19 年度 映画

映画祭

「美術館の映画祭 2007 ジャック・ベッケルの一撃！」

概要

2007 年で生誕 101 年を迎えるフランスの映画監督ジャック・ベッケルに焦点を当て、作品 4 本を上映。なお上映作品中『アラブの盗賊』には今回新たな字幕を製作するとともに、『偽れる装い』及び『アラブの盗賊』上映の際には美術館所蔵の字幕投影システムを使用。

日時：2007 年 6 月 15 日・16 日・17 日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

後援：フランス大使館文化部

協力：Studio Canal、TAMASA Distribution、アテネ・フランセ文化センター、東京日仏学院、映画美学校、シネカノン、セテラ・インターナショナル、コミュニティシネマ支援センター

入場料：1 回券 1,000 (1,200) 円 / 1 回券 4 枚綴り 3,600 円 / 大学生以下は当日券 600 円のみ販売

上映作品：

- ・偽れる装い (1945 フランス モノクロ 95min)
- ・アラブの盗賊 (1954 フランス カラー 88min)
- ・モンパルナスの灯 (1958 フランス・イタリア モノクロ 108min)
- ・穴 (1960 フランス・イタリア モノクロ 121min)

入場者数

367 人

関連事業

スペシャル・トーク「ジャック・ベッケルに撃たれて」

参加者：青山真治、藤井仁子

日時：2007 年 6 月 16 日

会場：青森県立美術館シアター

映画祭

「美術館の映画祭 2007 美術館はヴィスコンティが大好き！」

概要

2007 年で生誕 101 年を迎えるイタリアの映画監督ルキノ・ヴィスコンティに焦点を当て、作品 5 本を上映。同時期に実施している定期映画上映会にて取り上げない作品を中心に選定。

日時：2007 年 12 月 8 日・9 日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館、青森県立美術館映像事業実行委員会

協力：根岸邦明、内田達夫、ワーナーブラザーズ映画、ザジフィルムズ、イーサンアソシエイツ

入場料：1 回券 1,000 (1,200) 円 / 1 回券 5 枚綴り 4,500 円 / 大学生以下は 600 円 (前売り・当日とも)

上映作品：

- ・若者のすべて (1960 イタリア・フランス モノクロ 177min)
- ・ヴィスコンティの肖像 (1976 イタリア カラー&モノクロ 71min)
- ・熊座の淡き星影 (1965 イタリア モノクロ 100min)
- ・ベニスに死す (1971 イタリア・フランス カラー 133min)
- ・地獄に堕ちた勇者ども (1969 スイス・イタリア・ドイツ カラー 156min)

入場者数

203 人

関連事業

『異邦人』及び『ベニスに死す』の公開当時のポスターを展示。

各種上映会

1 「子ども映画館」

概要：同時期に実施された「夏休みこども美術館デイ」に関連し、子供から大人まで楽しめる作品を上映。

日時：2007年7月22日・29日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館

入場料：無料

上映作品：

- ・いなかねずみとまちねずみ（1961 日本 カラー 10min）
- ・かぐや姫（1961 日本 カラー 27min）
- ・たすけあいの歴史 ー生命保険のはじまりー（1973 日本 カラー 25min）
- ・草原の子 テングリ（1977 日本 カラー 22min）
- ・バルカン超特急（1938 イギリス モノクロ 94min）

入場者数：128人

2 「冬のファミリー映画館 in クリスマス ～素晴らしき哉、人生！～」

概要：同時期に開催された「美術館のクリスマス」関連企画として、クリスマス期間に関連作品を上映。

日時：2007年12月24日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館

入場料：無料

上映作品：素晴らしき哉、人生！（1946 アメリカ モノクロ 130min）

入場者数：34名

3 「冬のファミリー映画館 in お正月 ～ベティ・ブープ&ピフォア・ミッキー」

概要：同時期に開催された「美術館のお正月」関連企画として、お正月期間に家族で楽しめる1920年～30年代のアメリカアニメを上映。

日時：2008年1月1日～5日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館

入場料：無料（終日繰り返し上映につき入退場自由）

上映作品：

- ・世界アニメーション映画史⑧ マックス&ダイブ・フライシャーⅡ（ベティ・ブープシリーズ）（モノクロ 109min）
- ・世界アニメーション映画史⑩ ウォルト・ディズニー（「漫画の国のアリス」シリーズ、オズワルドシリーズ等）（モノクロ 115min）

4 「おやすみ、クマちゃん」

概要：同時期に開催された「美術館のお正月」関連企画として、家族で楽しめる子供向け人形アニメを上映。同日に人形制作のワークショップを開催し、総合的に芸術に親しむ機会を提

供。（ワークショップに関しては教育普及部門参照）

日時：2008年1月6日

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館

入場料：無料

上映作品：おやすみ、クマちゃん（1975～78 ポーランド カラー 84min（休憩あり））

入場者数：246人

5 定期映画上映会

概要：美術館所蔵の映像資料を中心に、毎月第3土曜日を中心に月1回程度の頻度で無料の上映会を開催。

会場：青森県立美術館シアター

主催：青森県立美術館

入場料：無料

(1) 下宿人（1927 イギリス モノクロ 80min）

日時：2007年4月21日

入場者数：85人

(2) 青森県立美術館 version 舞踊劇アレコ（第2幕）（2007 日本 カラー 80min）

日時：2007年5月19日

入場者数：89名

(3) 郵便配達は二度ベルを鳴らす（1942 イタリア モノクロ 140min）

日時：2007年7月21日

入場者数：69名

(4) 揺れる大地<海の挿話>（1948 イタリア モノクロ 158min）

日時：2007年8月18日

入場者数：76名

(5) イノセント（1975 イタリア カラー 124min）

日時：2007年9月22日

入場者数：95名

(6) 夏の嵐（1954 イタリア カラー 118min）

日時：2007年11月17日

入場者数：94名

(7) 山猫（1963 イタリア・フランス カラー 186min）

日時：2008年1月19日

入場者数：131名

(8) ルートヴィヒ（1972 イタリア・フランス・西ドイツ カラー 237min）

日時：2008年2月16日

入場者数：126名

(9) 家族の肖像（1974 イタリア・フランス カラー 121min）

日時：2008年3月15日

入場者数：130名

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

情報システム

貸館事業

使用施設について

(1) 使用目的

美術館施設を展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料		
	9:30～12:00	13:00～17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,130円	3,400円	1時間 850円
B (60.47㎡)	880円	1,400円	1時間 350円
C (131.30㎡)	1,880円	3,000円	1時間 750円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とする。

※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーで使用できない場合がある。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料		
	9:30～12:00	13:00～17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,500円	4,000円	1時間 1,000円
B (140.39㎡)	2,000円	3,200円	1時間 800円
C (389.51㎡)	5,500円	8,800円	1時間 2,200円
D (228.06㎡)	3,250円	5,200円	1時間 1,300円
E (105.91㎡)	1,500円	2,400円	1時間 600円
映像室 (70.38㎡)	1,000円	1,600円	1時間 400円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とする。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料
シアター [220席] (348.20㎡)	1時間 2,400円
映写室 (36.36㎡)	1時間 260円
アナウンスブース (6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップ A (124.38㎡)	1時間 900円
ワークショップ B (185.28㎡)	1時間 1,300円
暗室 (22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ (100.98㎡)	1時間 720円
映像編集室 (24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1時間 210円

※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とする。

※ 2 暗室は、ワークショップ A を利用する場合、又はワークショップ A が利用されていないとき使用できる。

※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できる。

※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できる。

(3) 使用期間

① 展示施設

・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできない。

・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできない。

② シアター等

・1日単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできない。

※ 美術館のすべての施設において

・美術館の休館日は、使用できない。(準備、撤去作業の場合は除く。)

・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において、必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとする。

(4) 使用時間

使用時間は、美術館の開始時間 [9時30分から17時まで (6月～9月は、9時から18時)] とし、各施設の取扱は以下のとおりとする。

① 展示施設

9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とする。

② シアター等

1時間単位での使用とする。

平成 18 年度

■ コミュニティギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
8 / 22 - 9 / 1	(財) 青森市文化スポーツ振興公社	ミュージカル「棟方志功～炎じゃわめぐ」関連事業	A B C	2,132
9 / 2 - 9 / 17	加藤明	青森の自然写真展	A B C	500
9 / 19 - 10 / 2	(社) 青森県文化振興会議	県展 2006	A B C	4,616
12 / 13 - 12 / 17	青森県毎日現代書藝協会	第 8 回「書藝展」、第 6 回青森県高校生選抜書藝展	A B C	2,000
1 / 15 - 1 / 21	左京三義	現代創作縄文展「よみがえる縄文の美」	B	不明
2 / 9 - 2 / 15	弘前大学教育学部美術教育講座	平成 18 年度卒業研究・卒業制作展	B C	300
2 / 16 - 2 / 18	青森プロガオフミーティング実行委員会	写真展「ブログの原点」	A	300
2 / 2	竹澤聡子	フルート練習	C	—

■ シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
8 / 23 - 8 / 25	(財) 青森市文化スポーツ振興公社	ミュージカル「棟方志功～炎じゃわめぐ」関連事業	シアター 映写室	—
10 / 13	全国私立学校審議会連合会	講演会「三内丸山遺跡について」	シアター	不明
10 / 27 - 10 / 29	㈱弘前劇場	演劇「夏の匂い」	シアター 映写室	300
11 / 5	あおもり塾同窓会こころクラブ	セミナー「縄文を知る楽しさ」	シアター	不明
11 / 7、12 / 10	加藤明	青森の自然写真展リハーサル	シアター	—
12 / 12	キッズキャンパス	「クリスマス会」リハーサル	シアター 映写室	—
12 / 15 - 12 / 16	キッズキャンパス	「クリスマス会」	シアター 映写室	不明
2 / 9 - 2 / 11	㈱弘前劇場	演劇「真冬の同窓会」	シアター 映写室	不明
2 / 18	(有)ウェルバフォーミングマネジメント	「coba」コンサート	シアター 映写室	220
3 / 3	㈱青森テレビ東京支社	試写会	シアター 映写室	200

■ ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
3 / 24	あおもり子ども劇場	トンバンクラブ	B	不明

合計 10,568 人

平成 19 年度

■ コミュニティギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4 / 29 - 5 / 6	田口有希	「色彩は燃えるよ」展	B	260
5 / 12 - 5 / 13	花と水芸術学院 岸里フミエ	春の祭典 バレエと茶の湯	B C	110
6 / 13 - 6 / 18	㈱アートコミュニケーション	みちのく芸術文化祭	A B C	350
6 / 23・6 / 30	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会	「青森の自然」音楽・写真展事前打ち合わせ会議	A	—
7 / 5 - 7 / 8	㈱阿部重組	第 1 回 未来をのぞく住宅展	A C	250
7 / 10 - 8 / 28	旅順博物館展実行委員会	旅順博物館展関連イベント	A B	10,000
7 / 13 - 8 / 27	旅順博物館展実行委員会	中国物産展	C	—
9 / 1 - 9 / 2	住友生命青森支店	第 31 回スミセイこども絵画コンクール	A B C	1,200
8 / 29 - 8 / 30	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会	「青森の自然」写真展・スライドショーコンサートリハーサル	A	—
9 / 6 - 9 / 16	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会	「青森の自然」写真展・スライドショーコンサート	A B C	410
9 / 18 - 10 / 1	(社) 青森県文化振興会議	「県展 2007」第 48 回青森県美術展覧会	A B C	1,000
10 / 5 - 10 / 7	MOA 美術館青森児童作品展実行委員会	MOA 美術館青森児童作品展	A B C	1,368

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
10 / 8 - 10 / 14	ノースプラットフォーム	長峯史紀作陶展	B C	800
10 / 11 - 10 / 14	あおもり NPO サポートセンター	キッズカレッジあおもり 07 発表展示会	A	250
10 / 26 - 10 / 28	あおもりインテリアコーディネーター倶楽部	インテリアコーディネーターがつくる家具展		372
11 / 10 - 11 / 11	青森県環境パートナーシップセンター	青い森のチーム ECO コンテスト	A B C	182
11 / 16 - 11 / 18	河合音楽教室青森事務所	カワイこども絵画造形教室さくひんてん	C	110
11 / 22 - 11 / 25	㈱阿部重組	第 2 回 未来をのぞく住宅展	A C	250
11 / 29 - 12 / 5	創価学会青森文化会館	平和の文化と子ども展	A B C	6,300
12 / 8 - 12 / 16	柳谷俊彦	柳谷俊彦作品展	B	100
1 / 10 - 1 / 14	青森県中学校教育研究会美術部会	第 21 回青森県中学校選抜美術展	A B C	580
3 / 1	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会	「青森の自然」写真展・スライドショーコンサートリハーサル	C	—
3 / 14 - 3 / 16	㈱阿部重組	第 3 回 未来をのぞく住宅展	A B C	380

■ シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4 / 28	「CSS Nite in AOMORI」実行委員会	CSS Nite in AOMORI	シアター 映写室	190
5 / 12 - 5 / 13	花と水芸術学院 岸里フミエ	春の祭典 バレエと茶の湯	シアター 映写室	200
5 / 30	㈱ノースロードミュージック	宮沢和史弾き語りによるコンサート	シアター 映写室	200
6 / 10	青森「大ちゃん、だいすき。」応援隊	「大ちゃん、だいすき。」上映会	シアター 映写室	140
6 / 23 - 6 / 24	@ ff あおもり映画祭実行委員会	@ ff 第 16 回あおもり映画祭	シアター 映写室	380
6 / 30	㈲ウエルパフォーミングアーツマネジメント	日野皓正クインテットクラブツアー 2007	シアター 映写室	170
8 / 11	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会	「青森の自然」写真展・スライドショーコンサートリハーサル	シアター	—
9 / 29 - 9 / 30	ピエール・バルーを迎える会	パリからシャンソンがやって来る II	シアター 映写室	480
10 / 22	㈲パディーズ	Ma トリビュート パーマよもやまセミナー	シアター 映写室	63
12 / 14 - 12 / 16	DANCE WAG	DANCE WAG LIVE 「CARNIVAL II」	シアター 映写室	300

■ ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
7 / 14 - 7 / 15	ねぶた制作者北村隆後援会	「ねぶた面製作」講習会	A	50
1 / 13	相沢康夫	積み木おじさんの講演会「子どもとおもちゃ」	B	11

■ スタジオ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
11 / 6 - 11 / 7	高村直喜	高村直喜演奏公演「許色」	スタジオ	15
12 / 2	NHK 青森放送局	番組収録	スタジオ	—
2 / 10	小山内孝夫	ゴスペル録音	スタジオ	10

合計 26,481 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで、美術の普及を図ることを目的として、2006年11月1日から一般開放を始めている。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、県民および一般の来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、複写サービス、そして他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

さらに平成19年度は図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームではなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 4 台、図書閲覧席 20 席

開館日・開室時間：美術館開館日の 10：00 - 16：00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家およびゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1～3を理解するために必要なもの、を購入および寄贈により収集した。

蔵書数

(平成18年度3月末時点)

総冊数：3,728 冊

- ・美術図書 804 冊 (和書 503 冊、洋書 301 冊)
- ・デザイン・建築関係図書 139 冊
- ・写真関係図書 83 冊
- ・絵本・イラスト関係図書 607 冊
- ・展覧会カタログ 2,095 冊
- ・雑誌 (18 タイトル) 1,705 冊

(平成19年度収集分)

- ・美術図書 114 冊 (和書 71 冊、洋書 43 冊)
- ・デザイン・建築関係図書 19 冊
- ・写真関係図書 8 冊
- ・絵本・イラスト関係図書 86 冊
- ・展覧会カタログ 299 冊
- ・雑誌 (18 タイトル) 243 冊

(平成19年度3月末時点の総計)

- ・美術図書 918 冊 (和書 574 冊、洋書 344 冊)
- ・デザイン・建築関係図書 158 冊
- ・写真関係図書 91 冊
- ・絵本・イラスト関係図書 693 冊
- ・展覧会カタログ 2,394 冊
- ・雑誌 (18 タイトル) 1,948 冊

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る受付（レファレンス）、複写サービス

美術に関するポスターやちらしの展示

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

(平成18年度)

開室日数：138 日

利用者数：2,552 人

レファレンス利用件数：7 件

図書室利用統計表

	開室日数 (日)		入室者数 (人)		レファレンス	
	月計	1 日平均	月計	1 日平均	月計	1 日平均
4 月						
5 月						
6 月						
7 月						
8 月						
9 月						
10 月						
11 月	30	32.6	976	32.6	1	0.1
12 月	23	20	459	20		0
1 月	29	14.9	432	14.9	2	0.1
2 月	26	11.5	297	11.5	3	0.2
3 月	30	13	388	13	1	0.1
計	138	18.5	2,552	18.5	7	0.1

(平成 19 年度)

開室日数：338 日

利用者数：7,727 人

レファレンス利用件数：38 件

図書室利用統計表

	開室日数 (日)	入室者数 (人)		レファレンス	
	月計	月計	1 日平均	月計	1 日平均
4 月	28	515	18.4	1	0.1
5 月	29	839	29	3	0.2
6 月	28	513	18.4	1	0.1
7 月	30	702	23.4	3	0.1
8 月	30	1,381	46.1	8	0.3
9 月	28	803	28.7	4	0.2
10 月	31	627	20.3	2	0.1
11 月	25	487	19.5	4	0.2
12 月	24	410	17.1	1	0.1
1 月	29	456	15.8	3	0.2
2 月	27	374	13.9	3	0.2
3 月	29	620	21.4	5	0.2
計	338	7,727	22.9	38	0.2

事業

美術館事業への支援・事業との連携

1 展示・教育普及事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、所蔵図書資料の中から展示に関連するものをピックアップし、展示期間中、図書室内の展示用書架で紹介、閲覧に供した。また平成 19 年度には図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームではおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援を行った。

他の美術館・関係団体等との連携

1 企画展関連図書資料の借用による閲覧

県立図書館から企画展関連図書の借用を受け、企画展期間中、図書室内において閲覧に供した。

2 展覧会カタログコーナーの設置

「新着カタログコーナー」を設け、新しく受け入れた展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

当館では、絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、こどもたちの美術への関心を高めることを目的として、2007年4月28日から、地下1階「キッズルーム」、そしてワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日や企画展開催時に無料で開放している。

平日は予約により幼稚園・保育園などの団体を受け入れている（実績は4件）。

「キッズルーム」は、800冊以上の絵本をはじめ、ドイツのneaf社やおもろ木製玩具研究会「わらはんど」など、色がきれいでおもしろい形の積み木を楽しめる空間、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置し、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間である。

また、絵本おはなし会や大人向けの「絵本ワークショップ」など、こどもから大人まで、絵本を通じて美術への関心を高める活動を定期的に行っている。

イベント実施状況

(1) およこバイリンガルおはなしかい

日時：10月14日（日）14：00－15：00

参加者数：10名

外国語と日本語の絵本を読みくらべて、新たな視点や発想に出会ってみようというもの。

今回の本は「マシュアのゆめ 作：レオ・レオニ」。美術館に訪れたマシュアが新しい世界に出会い、えかきになったねずみのお話。読み聞かせのあとは、お絵かきやマシュアの指人形ブローチづくりなど、簡単なワークショップを行う。大人だけの参加も可。

(2) おとなの「絵本ワークショップ」

日時：12月15日（土）、1月12日（土）、2月23日（土）の3日間。

いずれも10：00－12：00。

参加者：のべ 40名

大人が「絵本」について知り、こどもと同じように絵本を楽しむことで、こどもたちへの絵本の大切さを考え、実際に読み聞かせまでを行うワークショップ。

「えほんについていろいろ」・「えほんをよむ・よんであげる」・「えほんをつくる」の全3回ワークショップ。

利用状況・利用統計

平日は、予約制により開室しており、幼稚園・保育園などの団体が来館しています。

来館者からのアンケートでは、開室が土日祝日に限られていることへの要望などがあげられています。

	開室日数（日）	入室者数（人）			
	月計	こども	おとな	月計	平均
4月	3	36	48	84	28.0
5月	12	130	195	325	27.1
6月	9	67	87	154	17.2
7月	18	254	192	446	24.8
8月	26	259	270	529	20.4
9月	12	138	159	297	24.8
10月	28	97	131	228	8.2
11月	18	86	101	187	10.4
12月	24	100	107	207	8.7
1月	18	86	88	174	9.7
2月	9	38	41	79	8.8
3月	11	68	73	141	12.9
計	188	1,359	1,492	2,851	15.2

※ 4月28日から開室

博物館実習

概要

平成19年度より、博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2007年8月23日（木）－27日（月）

実習指導：青森県立美術館職員

実習生：大阪芸術大学、金沢美術工芸大学、東北生活文化大学より各1名 計3名

プログラム

第1日目 8月23日（木）

①オリエンテーション

- ・青森県立美術館の施設及び事業概要について
- ・施設の概要

②展示・収蔵

- ・美術館のコレクションと作品収集について

③館内見学

- ・展示室、収蔵庫、教育普及、映像、コミュニティーギャラリー、ショップ、カフェ、空調・セキュリティー設備等

④実習日誌作成

第2日目 8月24日（金）

①展示・収蔵

- ・企画展1 海外展：シャガール展

②展示・収蔵

- ・企画展2 国内展：縄文と現代展
- ・企画展3 個展：工藤甲人展

③展示・収蔵

- ・常設展示

④展示・収蔵

- ・展示作品解説作成1（常設展示から選択）

⑤実習日誌作成

第3日目 8月25日（土）

①展示・収蔵

- ・作品の取り扱い1 扱いの基本と調書の取り方 展示・収納の基本

②教育普及活動

- ・学校連携と社会教育活動
- ・パフォーミングアーツ
- ・美術館活動の広がり

③展示・収蔵

- ・作品の取り扱い2 平面・紙作品

④展示・収蔵

- ・作品の取り扱い3 立体・軸物

⑤実習日誌作成

第4日目 8月26日（日）

①～④各専門別実習

- ・映像、教育普及、保存

⑤実習日誌作成

第5日目 8月27日（月）

①展示・収蔵

- ・展示作品解説作成2 発表・相互講評

②展示・収蔵

- ・作品の取り扱い4 梱包・輸送の基本

- ・旅順博物館展撤収作業見学

③～④レポート作成（各専門別実習を中心に）

⑤実習日誌作成

情報システム

青森県立美術館ユビキタスシステム

青森県立美術館は、来館者が固定された順路にとらわれることなく、大小様々の展示空間を探索しながら自由に作品を鑑賞することを特徴としているため、展示室は縦横につながっており、複雑な構造となっている。

この特徴を活かし、来館者が快適に美術館内を鑑賞していただけるよう、最先端のナビゲーション端末を用いたユビキタス・ナビゲーション・システムを導入した。

この結果、利用者は端末画面に自動的に表示される順路情報にそって展示室を進むだけでなく、各展示室における作家・作品の情報、イベントやレストラン・ショップの情報なども得られるようになった。

システムの概要：

- ・モバイル端末の画面及びヘッドホンを通じ静止画・動画・音声・テキストで情報が提供される
- ・通路や展示室の出入り口エリアをカバーした赤外線を端末で受信する事で順路および展示室名が自動的に案内される
- ・画面メニューに触れることで展示室情報や現在地、作家・作品の解説、美術館情報などのコンテンツを選択できる
- ・回答したアンケート内容は無線 LAN によってサーバに送信される

仕様等：

- ・ヘッドホン付ナビゲーション端末：50 台（貸出 20 台）
- ・赤外線マーカ設置数（u コード）：70 ヶ所
- ・アンケート用無線 LAN：1 ヶ所
- ・アンケート用 RFID タグ（13.56MHz u コード）：1 ヶ所

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

平成 18 年度 広報

開館前活動（平成 18 年度以前のものも含む）

概要

開館に向け、青森県立美術館を広く周知するため、パンフレット等の制作・配布や、イベント、プレス向け発表会の実施、ウェブサイトの立ち上げ等を行った。

当館の事業・所在地の周知を図るに当たっては、青木淳氏設計の当館建築及び菊地敦巳氏設計のシンボルマーク、ロゴタイプをはじめとする総合的なビジュアル・アイデンティティ（VI）を積極的に活用した広報活動を展開し、青森県の芸術風土を世界に向けて発信する総合芸術の場であることを広くアピールした。

また、開館記念展である「シャガール：『アレコ』とアメリカ亡命時代」と併せての広報活動の展開をすることにより、より効果的に当館の開館周知を図ったものである。

イベント等

(1) 竣工記念シンポジウム「始動する青森県立美術館」
コーディネーター：熊倉純子氏（東京芸術大学助教授）
パネリスト：青木淳氏（青森県立美術館設計者）、奈良美智氏（美術家、コミッションワーク制作者）、三村申吾（青森県知事）
日時：2005 年 10 月 30 日（日）12：40 - 15：40
場所：青森県立美術館
内容：コミッションワーク作品の命名式、館内ミニツアー、運営方針の発表

(2) 館内見学会
日時：2005 年 11 月 3 日（木・祝）、6 日（日）、13 日（日）、20 日（日）、23 日（水・祝）、27 日（日）9：30 - 11：00、10：30 - 12：00（※20～40名の団体見学専用）、13：00 - 14：30、15：00 - 16：30

(3) 県民参加型演劇「津軽」
日時：2005 年 12 月 3 日（土）、4 日（日）、10 日（土）、11 日（日）
場所：青森県立美術館
潤色・脚本・演出：長谷川孝治

(4) 韓国映画祭「究極の韓流！」
日時：2005 年 12 月 17 日（土）、18 日（日）
場所：青森県立美術館シアター
上映作品：「春香伝」、「悪い男」、「スーパースター カム・サヨーン」、「ビッグ・スウィンドル!」、「a Family」
関連イベント：韓流パーティー（交流パーティー）
シンポジウム「韓国映画がクリエイターたちが日本にもたらしたもの」

プレス向け発表会等

(1) 青森県立美術館開館プレス発表会
日時：2006 年 6 月 13 日（火）11：00 - 12：00
場所：日本プレスセンタービル 10 階 ホール ABC

(2) 青森県立美術館開館プレス内覧会
日時：2006 年 7 月 12 日（水）13：00 - 16：00

(3) 県立美術館・シャガール展合同レセプション
日時：2006 年 7 月 12 日（水）18：00 - 20：00
場所：ホテル青森 3F 孔雀の間

印刷物等

- ・施設パンフレット
- ・施設概要
- ・見学案内
- ・開館 PR ポスター
- ・所蔵銘品選 等

※ これらの印刷物については、ビジュアル・アイデンティティ（VI）の観点から、全てのデザインを菊地敦巳氏に依頼、制作している。

その他

- ・Web サイトの作成
- ・館内にプレスセンターを設置（2006 年 7 月 12 日（水）～7 月 19 日（水））
- ・県内商店街等へのフラッグ掲出
- ・地元三紙に新聞広告掲載（東奥日報：2006 年 7 月 12 日（水）外、陸奥新報：2006 年 7 月 13 日（木）、デーリー東北：2006 年 7 月 13 日（木））等

開館後活動

開館後は、県の広報媒体を活用しての広報活動を中心とした広報活動を柱としつつも、県政記者クラブ等のメディアとの連携にも注力し、パブリシティの有効活用をしながらの広報活動を行った。

その他、道の駅等の他分野施設との相互連携によるポスター・チラシの設置等、マスメディアを使用しない広報活動も積極的に行った。

広告・宣伝等

- ・JR・JAL、商店街等へのポスター・チラシの設置及び広告掲出
- ・県立美術館ラッピングバス運行
(青森・弘前・八戸 シャガール展会期中)
- ・観光物産館にPRブース設置
- ・観光キャンペーンやイベント会場でのPRブース設置 等

Web サイト

- ・プレス向けダウンロードサービスをリリース
(外観等要望の多い画像について)
- ・掲載コンテンツ拡充 等

他分野との連携

- ・道の駅・文化施設・他の美術館等へのポスター・チラシの設置
- ・教育旅行説明会への参加
- ・県内小中高への情報提供
- ・県外事務所への情報提供 等

放映・掲載等実績(当館把握分)

新聞掲載：443件

雑誌等掲載(スケジュール掲載のみのものを除く)：388件

取材撮影等(投げ込みによるものを除く)：211件

Web サイト ヒット数：12,258,866件

アクセス数：469,164件

テレビ・ラジオ：

- ・NHK「新日曜美術館」(7/30)、「迷宮美術館」(2/19)、「ゆるやかナビゲーション」(11/22)
- ・NHK教育「高校講座」(8/14)
- ・NHK東北「ウイークエンド東北」(4/15)
- ・テレビ東京「美の巨人たち」(7/29)
- ・フジテレビ「めざましテレビ」(8/10)、「art lover」(8/18)
- ・青森テレビ「2006 燃えよ! 青森ねぶた」(8/11)
- ・仙台放送「情熱エンジン」(7/16)
- ・東北放送「ウォッチン! みやぎ」(10/10)
- ・テレビ東北「朝は楽しく」(7/27)
- ・FM青森「開館記念番組『シャガールと音楽』」(6/25)、「申吾のほっとチャンネル」(6/24)
- ・青森放送「RAB 耳の新聞」(11/5) ほか

※ 開館時には、地域ニュースで生中継されるなど、多くの番組で紹介された。

新聞：東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、北海道新聞、秋田魁新報、THE DAILY YOMIURI ほか

雑誌等：美術手帖、芸術新潮、ARTit、月刊ミュゼ、装苑、ミセス、Domani、マリクレール、SRUR、TITLE、ELLE ジャパン、VOGUE NIPPON、セサミ、Precious、メンズノンノ、GQ JAPAN、エスクァイア日本版、家庭画報、日経おとなのOFF、Pen、LEE、BRUTUS、ORANGE TRAVEL、Hanako、男の隠れ家、Giant Robot (米国雑誌)、Wa.sa.bi (台湾人向け観光情報誌)、日経アーキテクチュア、新建築、GA JAPAN、建築技術、ディテール、美術空間散歩、知恵蔵、rakra、JR 大人の休日 ほか

Web サイト：るるぶ.com、東奥WEB(動画掲載)、日経 WagaMaga、Yahoo! JAPAN「Woman's Happy Life」、千趣会「くらしのたまご」 ほか

平成 19 年度 広報

概要

県の広報媒体を活用しての広報活動を中心とした広報活動を柱としつつ、県政記者クラブ等のメディアとの連携にも注力し、パブリシティの有効活用をしながらの広報活動を行った。

その他、道の駅等の他分野施設との相互連携によるポスター・チラシの設置等、マスメディアを使用しない広報活動も積極的に行った。

広告・宣伝等

- ・屋外看板による当月イベントカレンダーの設置
- ・観光キャンペーンやイベント会場での PR ブース設置 等

印刷物等

- ・施設パンフレット
- ・施設概要
- ・年間スケジュールパンフレット
- ※ これらの印刷物については、ビジュアル・アイデンティティ (VI) の観点から、全てのデザインを菊地敦巳氏に依頼、制作している。
- ・「無料ゾーンを楽しむ」パンフレット
- ・広報誌「青森県立美術館通信 A-ism (エー・イズム)」の発行開始

Web サイト

- ・スケジュール機能及びプレスリリースページのリリース
- ・メンバーシッププログラムのページをリリース

他分野との連携

- ・道の駅・文化施設・他の美術館等へのポスター・チラシの設置
- ・教育旅行説明会への参加
- ・県内小中高への情報提供
- ・県外事務所への情報提供 等

放映・掲載等実績 (当館把握分)

新聞掲載：425 件

雑誌等掲載 (スケジュール掲載のみのものを除く)：379 件

取材撮影等 (投げ込みによるものを除く)：164 件

Web サイト ヒット数：8,378,282 件

アクセス数：317,719 件

テレビ・ラジオ：

- ・NHK 青森「情報ランチ」(4 / 27、11 / 30、12 / 28、2 / 1、2 / 18、2 / 29、3 / 5)、「あっぷるワイド」(11 / 26 - 30、3 / 10)、「ニュース TODAY」(7 / 27、9 / 26)
- ・NHK 教育「新日曜美術館」(8 / 5、9 / 2、12 / 9)、NHK「高校講座『第 2 回絵を描こう』」(再) (8 / 7)
- ・NHK 東北「情報テラス」(10 / 1、12 / 7)
- ・青森テレビ「おしゃべりハウス」(4 / 25、5 / 2、5 / 23、6 / 13、6 / 27、7 / 11、7 / 25、11 / 8、11 / 21、12 / 5)、「昼のニュース」(6 / 26)
- ・青森放送「あっと なまてれ」(5 / 18、6 / 15、6 / 22、6 / 29、9 / 21、11 / 7)、「RAB ニュースリーダー」(6 / 12、6 / 26、8 / 10、9 / 28、10 / 1 - 5、2 / 25)
- ・青森朝日放送「スーパー J チャンネル aba」(5 / 18、6 / 1、11 / 9)
- ・青森ケーブルテレビ「TV ポケット」(4 / 23、5 / 29)、「23 時のバス停」(ドラマロケ地) (12 / 17 - 21)
- ・MBC (韓国文化放送)「料理見て世界見て 青森編」(10 / 30)
- ・エフエム青森「It's My Radio」(こどもギャラリートour) (4 / 25、5 / 29、7 / 2、12 / 4)、「DAY DREAM BELIEVER」(県民参加型演劇 MIYAZAWA) (6 / 1、8 / 24)
- ・青森放送「今日も! あさぷり」(6 / 4、6 / 11、7 / 9、7 / 24、8 / 24、9 / 28、10 / 19、10 / 26、12 / 4、12 / 31)、「サタデー夢ラジオ」(9 / 29)、「あおもり TODAY」(10 / 3)、「サイエンス・カフェ」(3 / 31)
- ・FM アップルウェーブ「夕やけワイドあかねルート 788」(4 / 19)
- ・BeFM「Be Pop Evening!」(6 / 18 - 22)
- ・FM 茶笛・FM たちかわ「MOKO 週末レジャー情報」(10 / 20)
- 新聞：東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、新美術新聞、聖教新聞、スポーツニッポン、東洋経済日報 ほか
- 雑誌等：世界文化社「家庭画報」、秀学社「美術資料」、ベネッセコーポレーション「サンキュ!」、企画集団ぶりずむ「あおもり草子」、成美堂出版「SEIBIDO MOOK 東北ベストガイド 2008 年版」、ピエ・ブックス「ピクトグラム & アイコングラフィックス 2」、集英社「SPUR」、『まっぷるマガジン 08』、日経ホーム出版社「日経おとなの OFF」、集英社「LEE」、交通新聞社「別冊旅の手帖 北東北」、TOYOTA「Porte」カタログ (ロケ地)、TOYOTA「Verde」(7 月)、宝島社「ミニ」、文化出版局「ミセス」、「Museums II」(イタリアの建築書籍)、あえるクリエイティブ「rakra」、里文出版「目の眼」、ギャラリーステーション「月刊ギャラリー」、JAL「JAL スカイワード」、成美堂出版「デザインワークス 2」、「週刊金曜日」、JR 東日

本『ジバング倶楽部』、JR 東日本『大人の休日』、(独) 都市再生機構『UR press』、ノマル『RIPPLE』21号、『APLUS NEWS「A+」』、集英社『UOMO』(ロケ地)、(財) 福岡市文化芸術振興財団『wa』、KK ベストセラーズ『一個人』、毎日コミュニケーションズ『+ DESIGNING』、新書館『DANCE』、阪急コミュニケーションズ『Pen』、小学館『女性セブン』、主婦の友社『大人が憧れる全国美術館ガイド100』、アイドマ広告社『TARO』、昭文社『たびえる』、台湾旅行雑誌『MOOK 自遊自在 日本自慢旅行 東北』、小学館『和楽』、日経ホーム出版社『新・おとなの美術館』、美術出版社『美術手帖』、H & CO. 『Fmagazine Luxe』2号、藤樹社『月刊書道界』、台湾旅行雑誌『鉄道紀行 モア』、木楽舎『ソトコト』、『美術世界』(韓国美術雑誌)、アクセス・パブリッシング『東京カレンダー』『ボルボ XC70』(ロケ地)、東北電力(株)『白い国の詩』、韓国美術雑誌『美術世界』、平凡社『ミュージアムの仕事』、小学館『DIME』、講談社『新・空間設計マニュアル』、JTB パブリッシング『るるぶ青森08』、地球丸『こども天然生活』、リクルート『東北じゃらん』『関東じゃらん』、『Ahaus』、『日経グローバル』、『WebDesigning』、JTB パブリッシング『日本にはこんな傑作がある! 名画美術館ガイド』、小学館『Oggi』、講談社『げんき MOOK「アートで1・2・3!」』、『ワインアンドダイニング』(シンガポールの英文雑誌)、扶桑社『Numero TOKYO』、『THE EAST』(隔月刊英文誌) ほか

Web サイト: IHI エスキューブ『Art inn 美術館携帯ガイド』、日経 BP 社『L-Cruise』、小学館『SOOK』、(財) 日韓文化交流基金『日韓文化交流カレンダー』、阪急コミュニケーションズ『Pen』、Yahoo! 『アートな秋の美術館& デザイン探訪<週刊特集 vol.33 >』、日経 BP 社『NB オンライン』 ほか

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

館長である知事の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：青木淳氏（県立美術館設計者）、奈良美智氏（本県出身アーティスト）、逢坂恵利子氏（森美術館プログラムディレクター）

会議開催状況：

・第1回

開催日：平成18年3月17日（金）

会場：青森国際ホテル

・第2回

開催日：平成18年9月24日（日）

会場：都市センターホテル（東京都千代田区）

・第3回

開催日：平成19年3月19日（月）

会場：都道府県会館（東京都千代田区）

・第4回

開催日：平成19年10月8日（月）

会場：都市センターホテル（東京都千代田区）

・第5回

開催日：平成20年3月20日（木）

会場：青森県立美術館

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

懇話会委員：

座長：塚原隆市（コミュニティ放送局 BeFM 代表取締役専務）

副座長：鷹山ひばり（鷹山宇一記念美術館長）

委員：佐々木健（弘前市立裾野中学校長（青森県造形教育連盟会長））

委員：手塚治（西近野町会長）

委員：田中博（サポートスタッフ（メンバーシップ会員））

委員：風晴史子（サポートスタッフ（三内丸山遺跡ボランティア））

委員：本多信雄（青森県立美術館事務局長）

開催状況：

・第1回

開催日：平成19年9月13日（木）

会場：青森県立美術館会議室

・第2回

開催日：平成20年3月6日（木）

会場：青森県立美術館会議室

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	増減
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	△ 104,272
	スクールプログラム	12,685	6,968	△ 5,717
	常設展計	206,186	96,197	△ 109,989
企画展	シャガール展	192,918		△ 192,918
	縄文と現代展	14,894		△ 14,894
	工藤甲人展	1,680	10,950	9,270
	旅順博物館展		30,065	30,065
	舞台芸術の世界展		6,282	6,282
	棟方志功・崔榮林展		4,156	4,156
	企画展計	209,492	51,453	△ 158,039
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	△ 8,870
	普及プログラム	2,300	2,148	△ 152
	お出かけ講座	1,196	1,587	391
	その他	500		△ 500
	教育普及計	22,771	13,640	△ 9,131
パフォーミングアーツ	演劇	2,170	1,821	△ 349
	音楽	1,559	471	△ 1,088
	映画	975	1,954	979
	パフォーミングアーツ計	4,704	4,246	△ 458
貸館		10,268	26,481	16,213
図書館		2,552	7,727	5,175
キッズルーム			2,850	2,850
合 計		455,973	202,594	△ 253,379

※ キッズルームは平成 19 年 4 月 28 日からオープン

運営予算・決算

平成 18 年度 一般会計決算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	62,878	使用料及び手数料	167,100	職員費	人件費
	1,771	財産収入	774,417	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	1,000	寄付金			
	56,665	繰入金	151,274	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
	278,376	諸収入			
合計	400,690		1,092,791		

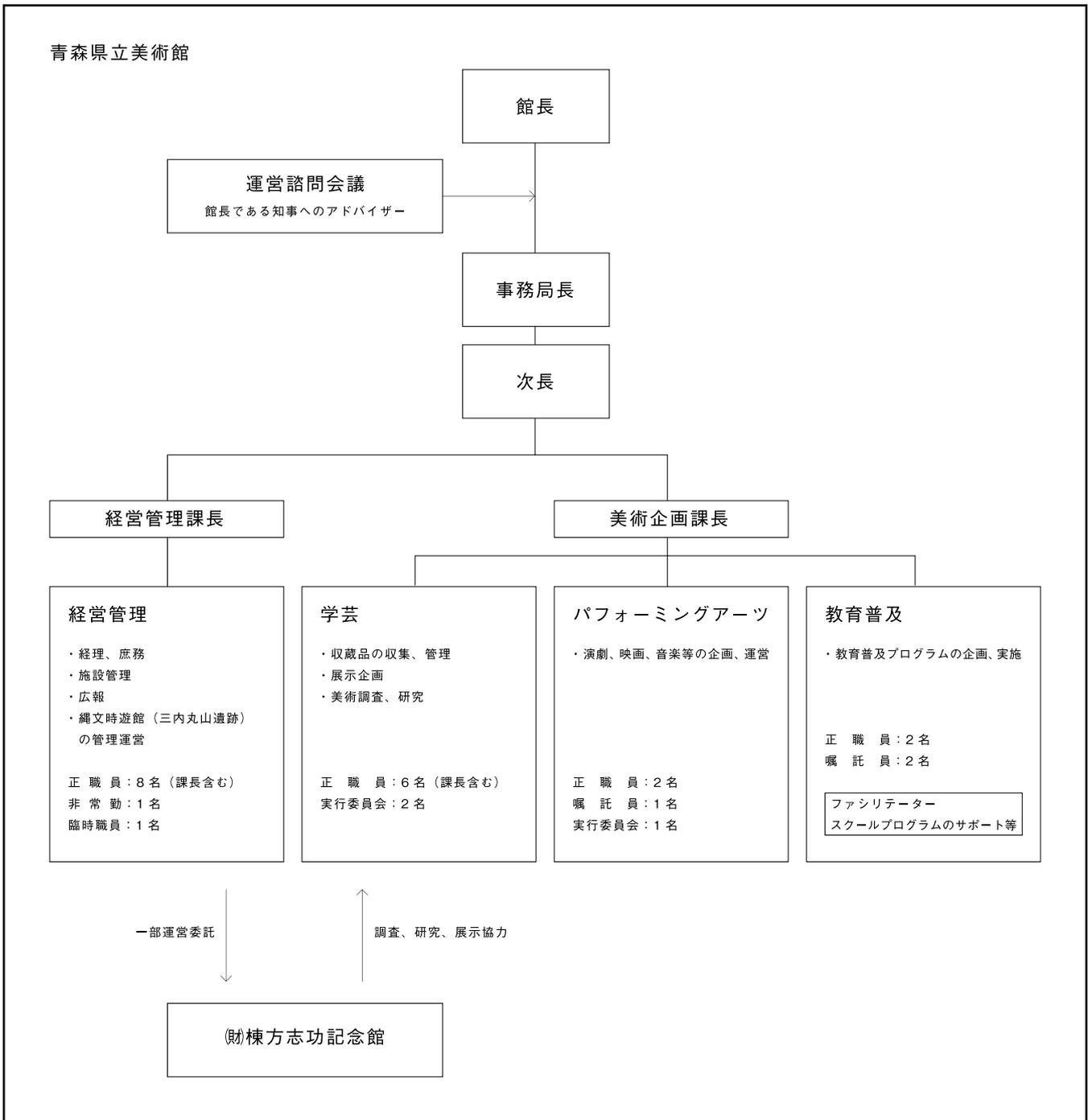
平成 19 年度 一般会計決算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	40,289	使用料及び手数料	169,084	職員費	人件費
	5,743	財産収入	438,841	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	64,880	繰入金			
	44,226	諸収入	128,232	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
合計	155,138		737,157		

組織

- 県立美術館の運営は、館長である知事が運営諮問会議の助言を得ながら行っている。
- 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館）との一体運営を行っている。
- このために配置された県職員 20 人、嘱託員及び臨時職員 5 人の計 25 人が美術館運営にあたっている。このほか、企画展実行委員会職員 2 名、パフォーミングアーツ部門の実行委員会職員 1 名が配置されている。



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以 降（一時間につき）
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、この場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップ A	九百円
ワークショップ B	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合は、イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合
知事が定める額

青森県立美術館規則

(趣旨)

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

(休館日等)

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

(使用の承認の手続)

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

(使用料の免除の申請)

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けよ

うとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

(原状回復等)

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県告示第 五百二十二 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館管理規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、青森県立美術館条例（平成 17 年 10 月青森県条例第 69 号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成 18 年 7 月青森県規則第 72 号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧券の交付)

第 2 条 条例別表第 1 号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

(使用の承認)

第 3 条 規則第 4 条第 1 項に規定する使用申込書の様式は、第 1 号様式とする。

2 規則第 4 条第 2 項に規定する使用承認書の様式は、第 2 号様式とする。

3 規則第 4 条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

(使用料の納付)

第 4 条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

(使用料の還付)

第 5 条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書(第 3 号様式)を事務局長に提出しなければならない。

(使用料等の免除)

第 6 条 事務局長は、条例別表第 1 号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第 5 条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法(昭和 22 年法律第 164 号)第 7 条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法(昭和 24 年法律第 283 号)第 15 条第 4 項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき(ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。) 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和 25 年法律第 123 号)第 45 条第 2 項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療養手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき(ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。) 使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第 1 号、第 2 号及び第 5 号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書(第 4 号様式)を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第 2 号又は第 3 号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 1 条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法(昭和 22 年法律第 164 号)第 7 条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法(昭和 24 年法律第 283 号)第 15 条第 4 項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和 25 年法律第 123 号)第 45 条第 2 項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療養手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全部の額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の 2 分の 1 に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書(第 5 号様式)を事務局長に提出しなければならない。

(美術品等の貸出)

第 7 条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

(美術品等の寄託又は寄贈)

第 8 条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又は寄贈を受けることができる。

(美術資料の特別観覧)

第 9 条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等(以下「特別観覧」という。)をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書(第 6 号様式)を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成 18 年 7 月 13 日から施行する。

附則

この規程は、平成 19 年 6 月 25 日から施行する。

青森県立美術館長及び副館長設置要綱

(趣旨)

第 1 この要綱は、青森県立美術館の館長及び副館長の設置、身分、委嘱等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 商工労働部観光局に青森県立美術館長(以下「館長」という。)及び青森県立美術館副館長(以下「副館長」という。)を置く。

(身分)

第 3 館長及び副館長は、地方公務員法(昭和 25 年法律第 261 号)第 3 条第 3 項第 3 号に規定する特別職の非常勤職員とする。

(職務)

第 4 館長の職務は、次のとおりとする。

(1) 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の運営方針の決定に関すること。

(2) 美術館について国内外に積極的に広報活動を行うこと。

(3) 美術館の事業推進のため指導及び助言を行うこと。

(4) その他美術館の使命達成のため重要な事項に関すること。

2 副館長は、前項各号に掲げる事項について館長を補佐する。

(委嘱)

第 5 館長及び副館長の委嘱は、知事が行う。

2 委嘱の期間は、1 年以内とし、更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、年度の途中において委嘱をした場合は、当該委嘱の日から当該日の属する年度の 3 月 31 日とする。

(勤務日数等)

第 6 館長及び副館長の勤務日数、勤務時間、休日、休暇については、知事が別に定める。

(報酬)

第 7 館長及び副館長の報酬は、月額とし、知事が別に定める。

(費用弁償)

第 8 館長及び副館長の費用弁償は、特別職の職員の旅費及び費用弁償に関する条例（昭和 27 年 9 月青森県条例第 43 号）

第 4 条の規定による。この場合の費用弁償の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和 27 年 9 月青森県条例第 45 号）に基づく一般職の職員で、館長にあっては行政職給料表 10 級、副館長にあっては行政職給料表 9 級の職務にある者の例により計算した額とする。

(秘密を守る義務)

第 9 館長及び副館長は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(服務)

第 10 館長及び副館長の服務については、知事が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成 18 年 7 月 13 日から施行する。

2 第 5 の規定にかかわらず、当分の間、館長の職務にあっては知事が、副館長の職務にあっては青森県立美術館事務局長が行うものとし、第 6 から第 10 まで規定は適用しない。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

(趣旨)

第 1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第 2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

(1) 知事の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項につ

いて審議し、意見を述べること。

(2) その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

(組織等)

第 3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

(任期)

第 4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の 3 月 31 日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(会議)

第 5 諮問会議は、知事が招集する。

2 知事は、諮問会議の議長となり、会議を主宰する。

3 知事は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(庶務)

第 6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

(その他)

第 7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

2 第 4 第 1 項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委嘱をした日から平成 19 年 3 月 31 日までとする。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第 1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第 2 懇話会は、10 名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第 3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第 4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第 5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第 6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第 7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成 19 年 9 月 1 日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野 185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計管理 青木淳建設設計事務所
構造：金箱構造設計事務所
設備：森村設計
音響：永田音響設計
土系素材：INAX
施工 竹中・西松・奥村・北斗特定工事共同企業体
強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体
空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体
昇降機：三菱電機株式会社
面積
 敷地面積：129,536.37 m²
 建設面積：7,228.72 m²
 延床面積：21,133.13 m² (美術館部分 163,55.03 m²)
 地下 2 階：4734.78 m²
 地下 1 階：3901.43 m²
 1 階：5315.01 m²
 2 階：2403.81 m²
 3 階：(機械エリア)：4778.10 m²
 建ぺい率：5.58%
 容積率：16.38%
階数 地下 2 階 地上 3 階
寸法
 最高高 16,160mm
 軒高 15,150mm
 階高：地下 2 階 2,300～19,000mm
 地下 1 階 2,500～7,500mm
 1 階 2,700～11,000mm
 2 階 2,500～4,000mm
 主なスパン：3,000mm～3,000mm
地域地区 都市計画区域内市街化区域
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 (地下 1・2 階)
 鉄骨造 (地上 1～3 階)
 杭・基礎：杭基礎 (PHC-ST 杭) 600Φ・700Φ (PHC) 600Φ

空調設備

AHU・定風量単一ダクト方式、一部 FCU、空冷パッケージ方式
 熱源：冷温水発生機 (320USRt280 USRt) 加湿用蒸気ボイラ
 ※ 温湿度設定予定数値

	温度	湿度
一時保管庫内 (夏期)	22 度 ±1 度	55% ±3%
企画展示室 (夏期)	24 度 ±2 度	55% ±3%

照明設備

スポットライト及び蛍光灯 (調光設備・紫外線カット付)

照度 / 50～200 ルクス

消火設備

屋内消火栓、スプリンクラー不活性ガス (窒素) 消火、加圧式粉末 ABC 消火器

設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備 (開放型、予作動型) 窒素ガス消火設備 (一部展示室、収蔵庫、熱源機械室)

排煙設備

機械排煙設備 (3 系統)

防犯設備

開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し監視室にて監視。夜間は機械警備、ただし、展覧会開催中は有人警備でも対応。

衛生設備

給水：受水槽 (50t) + 加圧給水ポンプユニット方式

給湯：局所式 (電気温水器)、ガス湯沸器 (厨房)

排水：ポンプアップ排水

電気設備

受電方式：高圧電力 3 Φ3W 6,600V 1 回線 受電 (業務用電力 + 融雪電力)

設備容量：2,650kVA

契約電力：700kW

予備電源：非常用発電設備 500kVA、直流電源設備 (非常照明用)

設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同、受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備 (シアター、スタジオ)、演出音響設備、映写設備 (シアター)

昇降機	荷物用エレベーター1台 乗用エレベーター8台
設計期間	1999年12月～2002年3月
施工期間	2002年12月～2005年9月
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦＋アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	展示室（白） 床：カラーモルタル金こて押え t = 20mm + 防塵防汚塗装 壁：合板 t = 15mm × 2 + プラスターボード t = 12mm + 全面寒冷紗パテ処理 + EP 天井：合板 t = 12mm + プラスターボード t = 9 mm + EP 展示室（土） 床：タタキ t = 50mm 壁：版築 t = 200mm 天井：合板 t = 12mm + プラスターボード t = 9 mm + EP コミュニティホール 床：クリフローリング t = 15 壁：プラスターボード 12mm × 2 + スタッコ 天井：人工木材ローズウッド練り付け シアター 床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm 壁：プラスターボード t = 15 + グラスウール ボード + エクスバンドメタル t = 6 mm (樹 脂コーティング処理) オフィス 床：システム根太ユニット 600mm × 600mm + コンパネ t = 12mm + クリフロ ーリング t = 15mm 壁：プラスターボード 12mm × 2 + EP 天井：プラスターボード 12mm + 吸音板 t = 12mm + EP

アクセス

JR 青森駅から車で約 20 分

青森空港から車で約 20 分

東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分

市営バス青森駅前 2 番バス停から免許センター行き

「県立美術館前」下車（所要時間約 20 分）



青森県立美術館年報

平成 18 年度・平成 19 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己（Bluemark）

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2009 年 3 月

